

述し又之を證明する事であつた。次いで更らに彼は、各一定瞬間に於て實際に支拂はれたる貨銀の分量は常に精確に、貨銀の必要分量に照應し、又決して是れから偏倚しない事を證明すべきである。若しも他方に於て貨銀の分量の一定限界が資本家の單純なる意志の上に、又は彼の貪慾の限界の上に基礎を置かれるならばそれは不定の限界である。其中には何等必然的なものがない。それは資本家の意志に依つて變化せられるであらう、又従つて彼の意志に反し變化せられるであらう。

ウエストン氏は彼の理論を例證し、諸君に以下の如く云つた、即ち一個の皿が一定の數の人間に依つて食される爲めに、一定分量の肉汁を收容する時、匙の大きさに於ける増加は肉汁の分量に於ける増加を作らないであらうと。彼は私に對し、此例證を寧ろ馬鹿らしく思ふ事を許容しなければならぬ。それは私をしてメネニウス・アグリッパに依つて用ゐられた比喩を少し想起せしめた。羅馬の平民黨が羅馬の貴族黨に反抗した時、貴族のアグリッパは彼等に對し、貴族の胃が政治體の平民の分肢を養ふのだと説明した。アグリッパは、或者の胃を満たすに依つて

他の者の分肢を養ふと云ふ事を示すのに失敗した。ウエストン氏は、彼の勞働者が食べやうとする皿は國民的勞働の生産物全體を以て充滿せられて居る、而して皿からより多く取るを彼等に妨ぐるものは、皿の狭少でもなければ又其内容の貧弱にも非ずして、單に彼等の匙の小さい事だと云ふ事を忘れて居る。

如何なる工夫に依つて資本家は五志に對して四志の値打を返し能ふのであるか。彼が賣る所の商品の價格を引上げる事に依つて。扱て、商品の價格に於ける騰貴及びより一般的に云へば其變化、即ち商品の價格自體は、資本家の單純なる意志に依存するものであるか。或は反對に其意志を實施するに一定の事情が必要とせらるゝか。若しも然らざれば、市場價格の一高一低、其不斷的動搖は一の解決すべからざる謎となる。

吾々は勞働の生産力に於て、或は使用せられたる資本及び勞働の分量に於て、或は依つて以て生産物の價值が評價せらるゝ所の貨幣の價值に於て何等の變化も起らずして、單に貸銀率に於いて變化が起つたと假定するが故に、如何してかの貸銀の騰貴が商品の價格に影響し得たのであるか。たゞ此等商品に對する需要及

び供給の間に於ける現實の比例に影響する事に依つて。

全體として考へた時に、勞働階級が其収入を必需品に消費し、又消費しなければならぬ事は、全然眞實である。是れが故に賃銀率に於ける一般的騰貴が、必需品に對する需要に於ける騰貴を又其結果必需品の市場價格に於ける騰貴を作るであらう。此等の必需品を生産する所の資本家は、騰貴した賃銀に對しては、彼等の商品の騰貴せる市場價格に依つて償はれるであらう。併し乍ら必需品を生産しない所の他の資本家に付いては如何であるか。而して諸君は彼等を一小團體と想像してはならない。若しも諸君が國民的生産物の三分の二が人口の五分の一に依り消費せられる事を考へるならば——衆議院の一員は最近之を僅かに人口の七分の一であると言へた——國民的生産物の如何に莫大なる割合が奢侈品の形態に於て生産せられねばならぬが、或は奢侈品と交換せられねばならぬか、又必需品自體の如何に莫大なる分量が、下僕、馬、猫等に消費せられねばならぬかを了解するであらう、是は吾々が經驗からして、常に必需品の騰貴せる價格に依つて非常に制限せらるゝを知る所の一の消費である。

扱、必需品を生産しない所の夫等の資本家の地位は如何なるものであらうか。

賃銀率の一般的騰貴の結果たる利潤率に於ける下落に對しては、彼等は、彼等の商品の價格に於ける騰貴に依つて償ひ得ないであらう、何となれば夫等の商品に對する需要は増加しないであらうから。彼等の収入は減少するであらう、而して彼等は此減少した収入からして、より高價なる必需品の同一分量に對してより多く支拂はねばならぬであらう。けれども是れが凡てでない。彼等の収入は減じたからして、彼等は奢侈品をより少く消費しなければならぬ、又是れが故に彼等の各自の商品に對する彼等の相互的需要は減ずるであらう。此減少した需要の結果、彼等の商品の價格は下落するであらう。是れが故に、産業の此等の部門に於いては、常に賃銀率に於ける一般的騰貴に對する單比例に止らず、賃銀の一般的騰貴、必需品の價格に於ける騰貴、並に奢侈品の價格に於ける下落の復比例に於て、利潤率は下落する。

産業の異なる諸部門に於て使用せられた資本に對する利潤率に於ける此差異の結果は何であらうか。そうだ、如何なる理由からにせよ、利潤の平均率が生産の異

る領域に於て相異する時、一般に得らるゝ其結果が生ずる。資本と労働は利益少き部門から利益多き部門に移轉せられるであらう、而して此移轉の行程は、産業の一方の部門に於ける供給が増加した需要に比例して昇騰し、他の部門に於ては供給が減少した需要に應じて低落する迄繼續するであらう。此變化が結果を及ぼし、利潤の一般率は再び諸種の部門に於て平等化されるであらう。凡ての推移は元來諸種の商品に對する需要及び其供給の間の比例に於ける單純な變化から起つたものである、かうして原因が止んでは結果も止むであらう、又價格は其以前の水準と平衡とに戻るであらう。貨銀の騰貴の結果たる利潤率に於ける下落は、産業の二三の部門に制限せられずして、一般的となるであらう。吾々の假定に依れば、労働の生産力に於ても又生産の總量に於ても變化は生ぜずして、單にかの一定の生産の分量が其形態を變化したに過ぎないであらう。生産物のより大なる部分は必需品の形態に於て存在し、より少き部分が奢侈品の形態に於て存在する、或は同様の結果であるが、より少き部分が外國の奢侈品と交換せられるであらう、或は更らに同様の結果であるが、本國の生産物のより大なる部分が奢侈品の代はり

に外國製の必需品と交換せられるであらう。是れが故に貨銀率に於ける一般的騰貴は、市場價格の一時的阻害の後、商品の價格に於ける何等永久的變化なくして利潤率の一般的下落に結果するに過ぎない。

若しも私が前の議論に於ては全體の餘剩貨銀が必需品に消費せられると假定するものだと云はるゝならば、私は此假定をウェストン氏の意見に最も利益のやうになしたのだと答へる。若しも餘剩貨銀が以前には労働者の消費の中に這入らなかつた所の物品に對し消費せられたとするならば、彼等の購買力の實際の増加は何等證明を必要としないであらう。けれども彼等の購買力の増加は單に貨銀の増大に基くが故に、精確に、資本家の購買力の減少に對應しなければならぬ。是が故に商品に對する總合需要は増加しないであらう、けれども其需要の構成部分は變化するであらう。一方に於ける増加せる需要は他方に於ける減少せる需要に依つて平均せられるであらう。斯くの如く總合需要は一定の儘であるが故に、如何なる變化も商品の市場價格に於て起り得ない。

是れが故に、諸君は此デレンマに到達する、即ち餘剩貨銀は平等に凡ての消費商

品の上に費さるゝか——此の時には労働階級の側に於ける需要の膨脹は資本家階級の側に於ける需要の收縮に依つて平均せられねばならぬ——或は餘剰賃銀は單に二三の物品の上に費され、其市場價格は一時的に騰貴するか孰れかに。此時には産業の或る部門に於ける利潤率の必從的騰貴と他の部門に於ける利潤率の必從的下落は資本並に労働の分配に於て一の變化を作るであらう、此變化は供給が産業の或る部門に於ける増加した需要に到達し、他の産業の部門に於ける減少した需要に低下されるまで繼續する。前の假定に於ては商品の價格に於て何等變化を生じないであらう。後の假定に於ては、市場價格の二三の動搖の後商品の交換價值は以前の水準にまで沈下するであらう。兩方の假定に於て賃銀率に於ける一般的騰貴は結局、利潤率に於ける一般的下落の外何事をも結果しないであらう。

諸君の想像力を喚起する爲めにウエストン氏は、英國の農業賃銀の九志から十八志への一般的騰貴が作るべき困難に就いて考慮するやう、諸君に要求した。彼は絶叫する、「必需品に對する需要の莫大の騰貴と、其結果の商品の價格に於ける

恐るべき騰貴を考へて見よ！」と。扱て、諸君の凡ては農業生産物の價格は合衆國に於ては聯邦王國に於けるよりは一層低廉であるに拘はらず、資本と労働の一般的關係は合衆國に於ては英國に於けると同様であるに拘はらず、又生産の年額は合衆國に於ては英國に於けるよりも遙かに小なるに拘はらず、亞米利加の農業労働者の平均賃銀が英國農業労働者のそれよりは二倍以上に達するを知つて居る。然らば、何故に吾が同志は此警鈴を鳴らすのであるか。單に吾々の前に在る眞實の問題を轉換する爲めに。賃銀の九志から十八志への急激なる騰貴は百パーセントの分量への急激なる騰貴たるであらう。今、吾々は、果たして英國に於ける賃銀の一般率は急激に百パーセント増加せられ得るか否かの問題を決して論議して居るのでない。吾々は毫も、各實踐の場合に於て一定状態に依存し、又之に適合しなければならぬ所の騰貴の量に就いて關係を有しない。吾々は單に、縱令それが一パーセントに制限せられてあらうとも、賃銀率の一般的騰貴は如何に作用するかを研究しなければならぬのである。

同志ウエストンの百パーセントの空想的騰貴を廢めにして、私は、一八四九年か

ら一八五九年迄に大不列顛に起つた所の貨銀の眞實的騰貴に諸君の注意を呼ぶ事を提議する。

諸君は凡て、一八四八年以來行はれたる十時間法律或は寧ろ十時間半法律に就いて御存知である。是は吾々が見たる所の最大の經濟的變化の一であつた。それは、昔に二三の地方的貿易に於けるのみならず、依つて以て英國が世界の市場を風靡したる所の主たる産業諸部門に於ける、急激にして強制的な貨銀の騰貴であつた。それは特に不祥なる状態の下に於ける貨銀の騰貴であつた。ユーア博士シーニョアー教授、竝に凡ての他の中流階級の官憲的經濟的代辯者は、それは英國産業の吊鐘を鳴らすものである事を證明した、而して私は吾が同志ウエストンの根據より遙かに鞏固なる根據を以て云はねばならない。彼等は、そは昔に單純なる貨銀の騰貴を意味するに止らず、使用せられたる労働量の減少に依つて惹起せられ、又之に基礎を置く所の貨銀の騰貴を意味する事を證明した。彼等は諸君が資本家から取らんと欲した十二時間は精確に、資本家が彼の利潤を引き出す所の唯一の時間であつた事を斷言した。彼等は、蓄積の減少、價格の騰貴、市場の喪失、生

産の切詰、貨銀に對する必從的反動、究極の破滅を以て威嚇した。事實彼等はマキシミアン、ロベスピエルの「最高價格法」もそれに比較すれば一些事なりと宣言した、而して彼等は或る意味に於いて正當であつた。扱て、結果はどうであつたか、労働日の短縮にも拘はらず、工場職工の貨幣貨銀の騰貴、使用工場員數の大増加、彼等の生産物の價格の繼續的下落、彼等の労働の生産力の不思議なる發達、彼等の商品に對する市場の前代未聞なる進歩的擴張。マンチエスターに於て、一八六〇年「科學進歩協會」の席上、私自身ニウマン氏の彼、ユーア博士、シーニョアーに凡て他の經濟學の官憲的建言者は間違つて居た、然るに人民の直覺は正しかつたと言ふ告白を聞いた事がある。私はウイリアム・ニウマン氏を意味するのであつて、教授フランシス・ニウマン(2)を意味するのでない、何となれば彼は、トマス・ツーク氏の「價格史」(3)、即ち一七九三年から一八五六年に至る價格の歴史を精査する所の彼の立派なる著述の寄稿家とし又發行者として、經濟學に於て有名なる地位を占むるからである。若しも吾が同志ウエストンの、貨銀の固定量、生産の固定量、労働の生産力の固定程度、資本家の固定且つ永久なる意志に關する固定した思想

竝に凡て彼の他の定著と断定とが正しいとするならば、シーニョアー教授の悲しむべき豫言は正當であつたらう、而して既に一八一六年に於て勞働日の一般的制限即ち勞働階級解放への最初の準備的一步を宣言し、又現實に一般的偏見の眞中に在つて獨力でニウ・ラナークに於ける彼の棉花工場に之を始めた所のロバート・オウエンは間違ひであつたらう。

十時間法律の施行、竝に其結果たる賃銀の騰貴が起つた其同じ時期に、大不列顛に於て、茲で説明するは場所違ひである所の理由に依り、農業賃銀の、一般的騰貴が生じた。

それは私の直接の目的の爲めには必要とせられないとは云へ、諸君を誤解に導かざらんが爲めに、私は二三の序言的言葉なすであらう。

若しも一人の男が二志の週賃銀を受取り、而して彼の賃銀が四志に騰貴するならば、賃銀率は百パーセント騰貴した事になる。是れは賃銀率の騰貴として表白せられるならば、甚だ素晴らしき事である、けれども賃銀の實際額、一週四志は尙ほ可哀相な程の少額であり、餓死する程の宛行たるに止るであらう。是れが故に諸

君は、賃銀率の高さうに聞えるパーセントに依つて誤魔化されてはならない。諸君は常に尋ね、ばならない、元の額は幾何であつたかと。

更に諸君は、各自毎週二志を受くる十人と、各自五志を受くる五人、竝に一週十一志を受くる五人があるとするならば、合計二十人は一週百志又は五磅を受くる事を理解するであらう。そこで若しも騰貴が、例へば二十パーセント、彼等の週賃銀の總額の上に起つたとするならば、五磅から六磅への増進がある譯である。平均を取つて吾々は賃銀の一般率は二十パーセント騰貴したと言ふであらう、けれども事實に於ては、十人の賃銀は不變の儘であり、五人の片方の組の賃銀は五志から唯の六志に騰貴し、五人の他の組の賃銀が五十五志から七十志に騰貴したのである。其人達の二分の一は少しも其地位を改善して居ないであらう、四分の一は眼に見えない程度に於て其地位を改善したであらう、而して單に四分の一が實際に其地位を改善したであらう。而かも尙ほ平均に依つて計算するに、彼等二十人の賃銀の合計額は二十パーセント増加したのである、而して彼等を使用する所の總資本と彼等が生産する所の商品の價格に關する限り、に於ては、それは恰かも彼等

の凡てが賃銀の平均的騰貴に平等に参加したと、全く同じである。農業労働の場合に於ては、標準賃銀は英國と蘇格蘭の諸州とでは非常に相異なるからして、騰貴は労働者に對し非常に不平等に影響した。

最後に、かの賃銀の騰貴が起つた期間に、露西亞戦争の結果たる新租税、農業労働者の住宅の廣大なる破壊等の如き、反對作用的影響が起つた。

以上の如く前提して後、私は進んで、一八四九年から一八五九年に至る迄に大不列顛の農業賃銀の平均率に約四十パーセントの騰貴が起つた事を述べやう。私は諸君に對し私の斷定を證明するに充分な詳細を與へることが出来る併し乍ら現在の目的の爲めには、一八六〇年故ジョン・シー・モートン氏に依つて倫敦美術協會に於て「農業に於て用ゐられたる諸力」に就いて朗讀せられたる良心に満ちた且つ批判的なる草稿を、諸君に紹介するを以て充分だと考へる。モートン氏は彼が十二の蘇格蘭諸州と三十五の英國諸州に居住する一百の農民から蒐集した所の勘定書や他の信憑すべき證書から報告を與へて居る。

吾が同志ウェストンの意見に従へば、又工場職工の賃銀に於ける一齊の騰貴を

取るに、一八四九年から一八五九年に至る期間に農業生産物の價格に於て非常なる騰貴が起らねばならない筈である。併し事實は如何であつたか。露西亞戦争並に一八五四年から一八五六年に至る繼續的凶作にも拘はらず、英國の主要農業生産物である所の小麥の平均價格は、一八三八年から一八四八年に至る年の間の一クォーター約三磅から、一八四九年から一八五九年に至る年の間の一クォーター約二磅十志に下落した。是れは十六パーセント以上の小麥の價格に於ける下落を構成し、同時に四十パーセントの農業賃銀の平均的騰貴に相應する。同時期の間に於て、若しも吾々が其終を始めと、即ち一八五九年を一八四九年と比較するならば、公認被救恤者の九十三萬四千四百十九人から八十六萬四百七十人への減少が生じて居る、即ち其差は七萬三千九百四十九人である、是れが甚だしい減少である事は私も認める、又それは其後の年には再び消滅して居る、けれども矢張り減少には違ひない。

穀物條例の廢止の結果、外國の穀物の輸入は、一八四九年から一八五九年に至る期間に於て、一八三八年から一八四八年に至る期間に比較し、二倍以上であつたと

云ひ得やう。而して是れは如何云ふ事であるか。ウェストン氏の立脚點からして或者は、外國市場に對する此の急激な、莫大な、且つ繼續的に増加する需要は、農業生産物の價格を外國に於て一の恐しき高さに引上げねばならぬ、増加した需要の結果は、それが外から來やうと或は内から來やうと同一であるとして期待するであらう。事實は如何であつたか。不作の數年を別問題として、凡て其期間に於て穀物の價格の破壊的の下落は佛蘭西に於て常に持ち出される演說の問題を形成した、亞米利加人は再三再四彼等の生産物の餘剰を燒棄すべく餘儀なくせられた、又露西亞は若しも吾々がアークハルト氏を信するならば、合衆國に於ける内亂を促進した、何故と云ふに其農産物の輸出は歐羅巴の市場に於けるヤンキーの競争に依つて不具にせられたからである。

其抽象的形態に還元するに、ウェストン氏の議論は以下の如くになるであらう即ち「需要に於ける各騰貴は常に生産の一定量の基礎の上に於て生ずる。是れが故に決して需要せられたる物品の供給を増加することは出來ない、唯其貨幣價格を高め得るに過ぎない。」扱て、最も普通なる觀察は次の事を示す、即ち増加した

需要は或る場合に於ては、商品の市場價格を全然不變の儘に置く事があり、又他の場合に於ては市場價格の一時的騰貴を招く事がある、是れは増加した供給に依つて伴はれ、價格を其元の水準に、又多くの場合に於ては其元の水準以下に降下する事に依つて伴はれる。需要の昇騰が餘剰賃銀から起るか、或は何等か他の原因から起るか孰れかは、毫も問題の地位を變化せしめない。ウェストン氏の立脚點からしては一般的現象は、賃銀騰貴の例外的事情の下に起る所の現象と同じく説明するに困難である。是れが故に彼の議論は、吾々が取扱ふ所の主題には何等特殊の關係を有しない。依つて以て、需要の増加が市場價格の究極的騰貴に非ずして供給の増加を作る所の諸法則を説明せんとするは、單に彼の混亂を表白するに過ぎない。

三 賃銀と通貨

討論の第二日に於て、吾が同志ウェストンは彼の舊い斷定を新たなる形態の中に包んだ。彼は云つた、「貨幣賃銀に於ける一般的騰貴の結果より多くの通貨が

同じ貨銀を支拂ふ爲めに必要とせられるであらう。若しも通貨が固定せられるならば、吾々は如何して此固定通貨を以て増加した貨幣貨銀を支拂ふことが出来るか」と。最初は、其貨幣貨銀の増加にも拘はらず労働者に殖ゆる所の商品の分量が固定せる事から困難が起つた、今度は、商品の固定量にも拘はらず増加した貨幣貨銀から困難が生ずる。勿論諸君が彼の根本の獨斷を拒絶せらるゝならば、彼に對する第二の苦情の素因は消失するであらう。

けれども、私は此通貨問題は、吾々の前に在る論題とは何等關係を持たない事を示すであらう。諸君の國に於ては支拂の機制は歐羅巴の他の如何なる國に於けるよりも一層完全して居る。銀行制度の擴張と集中のお蔭を以て、遙かにより少い通貨が、價值の同量を流通せしめ、又商賣の同量或はより大なる量を行ふ爲めに必要とせられる。例へば貨銀の關係する限りに於ては、英國の工場職工は彼の貨銀を毎週店主に支拂ひ、店主は之を毎週銀行に送り、銀行は之を毎週製造業者に返却し、製造業者は再び之を彼の労働者に支拂ふ、と云ふ具合である。此方法に依つて一職工の年貨銀は、例へば五十二磅の年貨銀は、各週同じ圓周の中を廻轉する所

の單なる一ソヴァレンに依つて支拂はれるであらう。英國に於てさへ此機制は蘇格蘭に於けるより一層少く完全である。又到る處に於て平等に完全なる譯でない、かるが故に吾々は、例へば或る農業地方に於ては單なる工場地方と比較するに遙かにより少い價值の分量を流通せしむるに、遙かにより多くの通貨が必要とせられる事を發見する。

諸君が海峽を横斷するならば、諸君は、貨幣貨銀は遙かに英國に於けるよりも一層低い事けれども、夫等は獨逸、伊太利、瑞西並に佛蘭西に於ては遙かにより大なる通貨の分量に依つて流通せられる事を發見するであらう。同一のソヴァレンはそれ程迅速に銀行家に依つて蒐集せられ或は産業的資本家に復歸せられないであらう、又はそれが故に年々五十二磅を流通せしむる一ソヴァレンの代はりに、恐らく二十五磅の額なる年貨銀を流通せしむるに三ソヴァレンを必要とせられる。斯くの如く、大陸諸國を英國と比較する事に依つて、諸君は直ちに、低い貨幣貨銀は高い貨幣貨銀よりも其流通に對し遙かにより多くの通貨を必要とするであらう。事又是れは事實に於て一の單純なる技術的要點であつて、吾々の主題とは全然無

關係なる事を見るであらう。

私の知る最善の計算に據れば、此國の勞働階級の年收入は二億五千萬磅に評價せられるであらう。此莫大なる額は約三百萬磅に依つて流通せられて居る。假りに五十パーセントの貨銀の騰貴が起つたとする。然らば、三百萬磅の通貨の代はりに、四百五十萬磅が必要とせられる。勞働者の日々の支出の極めて重要な部分は銀と銅を以て換言すれば金に對する其相對的價值は、不換紙幣のその如く法律に依つて任意に定められたる所の單純なる表徴を以て爲さるゝが故に、五十パーセントの貨幣貨銀の騰貴は、極端なる場合には例へば百萬の額に達するソヴァレンの追加流通を必要とするであらう。今、地金或は鑄貨の形にて、英蘭銀行の或は私的銀行家の地下室に休止する所の百萬磅は流通するであらう。併し乍ら其百萬磅の追加鑄造或は追加磨滅及び破損から生ずる些少の支出すら、若しも追加通貨の欲望からして何等かの競争が起るやうな事があれば、節約せられ得るであらうし、又現實に節約せられるであらう。諸君の凡ては此の國の通貨は二大部門に分たれて居る事を御存知である。各種券面の銀行紙幣に依つて供給さる

る所の一種類は、商賣人と商賣人との取引竝に消費者から商賣人に對する大口支拂に於て使用せられる、然るに通貨の他の種類、金屬鑄貨は小賣商内に於て流通する。別なものとは云へ、此等通貨の二種類は互に交互作用を行ふ。斯くの如く金貨は、甚だ大なる範圍に於て、五磅以下の凡て零碎なる金額に對する大口支拂に於てすら流通する。若しも明日四磅紙幣、或は三磅紙幣、或は二磅紙幣が發行せられたとするならば、此等の流通の溝を滿たして居た金は直にそれから追ひ出され、貨幣貨銀の増加から必要とせられるであらう所の彼の溝の中に流れ込むであらう。斯くの如く五十パーセントの貨銀の増進に依つて必要とせられたる追加の百萬磅は、一個のソヴァレンの追加なくして供給せられるであらう。同様の結果は、銀行紙幣の追加なくして手形流通の追加に依り造られるであらう、恰かもランカンヤイヤに於て可成りの間行はれた如くに。

ウエストン氏が農業貨銀に於て起ると想像した如くに、例へば百パーセントの貨銀率の一般的騰貴が必需品の價格に於て一の大なる騰貴を生ぜしめ、又彼の見解に従ひ通貨の追加分量を必要とするも之を得られないとするならば、貨銀の一

般的下落は同じ範圍に於いて、反對の方向に同一の結果を作らねばならない。成程！諸君の凡ては、一八五八年から一八六〇年に至る年は棉花工業にとつて最も隆盛なる年であつた事、又特に一八六〇年は其點に於て商業の年代記に於て匹敵するものなき事、一面同時に産業の凡て他の部門は最も繁榮した事を御存知である。棉花職工及び彼等の商賣に關聯ある凡て他の労働者の賃銀は、一八六〇年に於て嘗て無き高さであつた。亞米利加の恐慌が來た、そこで夫等の總體の賃銀は俄かに其以前の額の約四分の一に降下せられた。是れは反對の方向に於ては四百パーセントの騰貴であつたらう。若しも賃銀が五から二十に騰貴するならば、吾々はそれは四百パーセント騰貴したと云ふ、若しも二十から五に下落するならば、吾々は七十五パーセント下落したと云ふ併し乍ら前者の場合に於ける騰貴の額と後者の場合に於ける下落の額は同額即ち十五志である。然らば是れは賃銀率に於ける未だ嘗て無き急激なる變化であつた、又同時に、嘗て棉花商賣に直接に従事するものに止らず、之に間接に依存する凡ての職工を計算するならば、農業労働者より二分の一だけ大なる職工數の上に及ぶのである。小麦の價格は下落

したか。それは一八五八—一八六〇年の三年間に於ける一クォーター四十七志八片の年平均から一八六一—一八六三年の三年間に於ける五十五志十片の年平均に騰貴した。通貨に關しては造幣局に於て一八六〇年に於ける三、三七八、七九二磅に對し、一八六一年に於ては八、六七三、二三二磅を鑄造した。換言すれば、一八六一年に於ては一八六〇年に於けるよりも五、二九四、四四〇磅だけ多く鑄造せられた事になる。銀行紙幣流通が一八六一年に於ては一八六〇年に於けるよりも一三一、九〇〇磅だけ少かつた事は事實である。之を引き去る。それでも尙ほ一八六一年には、好況の年、一八六〇年と比較するに三、九七五、四四〇磅、即ち約四、〇〇〇、〇〇〇磅の額に達する通貨の餘分が残るのである、併し乍ら英蘭銀行に於ける地金準備は同時に、全然同額でないにしても之に近い比例に於て減少した。

一八六二年を一八四二年と比較して見よ。流通せられたる商品の價值及び分量に於ける莫大なる増加は舍くも、一八六二年に於ては株式、公債等に對する、英蘭及びウエールズに於ける鐵道に對する正規の取引に於て支拂はれたる資本だけで三二〇、〇〇〇、〇〇〇磅に達した、即ち一八四二年には話としか思はれない所の

額である。而かも、一八六二年と一八四二年に於ける通貨の總量は殆んど等しかつた、そこで諸君は、曾に商品に止らず、金銭上の取引一般の莫大に増加する價值に反對し、通貨の累進的に減少する傾向を發見するであらう。吾々が同志ウエストンの立脚點からしては、是れは一の不可解の謎である。

此事柄に就いて少しばかりより深く觀察するならば、貨銀は全然別問題とし、又貨銀は固定せられたるものと假定するに、流通せらるゝ商品の價值及び分量並に一般に決濟せらるべき金銭上の取引の額は日々に變化する事、發行せらるゝ銀行紙幣の額は日々に變化する事、何等貨幣の仲介なくして、手形、小切手、帳簿信用、手形交換所の手段に依つて實現さるゝ所の支拂の額は日々に變化する事、現實の金屬通貨が必要とせらるゝ範圍に於ても、流通せる鑄貨と銀行の地下室に準備せられ或は眠つて居る所の鑄貨及び地金との間の比例は日々に變化する事、國民的流通に依つて吸收さるゝ地金の額並に國際的流通の爲めに外國に送らるゝ額は日々に變化する事を、彼は發見したであらう。彼は彼の固定通貨の獨斷は一の怪異なる誤謬であり、吾々の日常の運動とは兩立し難い事を發見したであらう。彼は彼

の通貨の特別の誤解を貨銀の騰貴に反對する議論の中に封ぜしむる事なく、斯く絶えず變化する事情に通貨を適應せしめ得る所の法則を研究したであらう。

四 供給と需要

吾が同志ウエストンは *repetitio est mater studiorum* 換言すれば「名聲は學問の母である」と云ふ羅旬の諺を受認して居る、又是れが故に彼は貨銀の騰貴に依つて惹起されたる流通の收縮は資本の減少を造るであらう云々と云ふ風に、彼の根本の獨斷を新たなる形態の下に再び繰返して居る。既に彼の通貨奇説を論じ、それからして、私は彼が彼の想像的通貨事變から生ずると妄想する所の想像的結果に論入するは全然無用の業であると考へる。私は進んで直ちに、非常に多數の異つた形に於て繰返さるゝ所の、彼の一にして同一なる獨斷を、其最も簡單なる理論的形態に還元するであらう。

彼が彼の主題を取扱つた所の非批判的方法は唯一個の觀察に依つて明瞭となるであらう。彼は貨銀の騰貴又は斯くの如き騰貴の結果としての高い貨銀に對

し反對して居る。今私は彼に尋ねる、高い貨銀とは如何なるものであるか又低い貨銀とは如何なるものであるか。例へば何故に一週五志は低い貨銀を形成し、二十志は高い貨銀を形成するか。若しも五が二十と比較し低いならば、二十は二百と比較して尙ほ一層低い譯である。若しも或者が寒暖計に就いて講義せなければならぬ時、高い度及び低い度を辯ずる事から始むるも、彼は毫も知識を傳ふる所は無い。彼は先づ私に對し、如何にして氷點は見出さるか又如何にして沸騰點は見出さるか、又如何にして此等の標準點は、寒暖計の販賣人及び製作人の想像に依らずして、自然法則に依り決定せらるるかを云はなければならぬ。扱て、貨銀及び利潤に關し、ウェストン氏は嘗に斯くの如き標準點を經濟法則から導くに失敗したに止らず、彼は夫等を探し出すの必要をさへ感じなかつた。彼は低い又高いと云ふ普通行はるゝ卑俗の言葉を、一の固定した意味を有する所の或物として受認するを以て自ら満足して居るけれども、貨銀が高い又は低いとは、依つて以て其の大きさが計量せらるゝところの標準と比較してのみ言はるゝことは自然の理である。

彼は私に向つて、何故に貨幣の一定量が労働の一定量に對し與へらるるかを告げ得ないであらう。若しも彼が「是れは供給及び需要の法則に依つて決定せられる」と答ふるならば、私は彼に對し最初に、如何なる法則に依つて供給及び需要自體は制規せらるるかを尋ねるであらう。而して斯くの如き解答は直ちに彼をして論争の基礎を失はしむるであらう。労働の供給及び需要の間の關係は、間斷なき變化に遭遇する、又之と共に労働の市場價格も同様である。需要が供給を越すと、貨銀は騰貴する、供給が需要を越すと、貨銀は低落する、けれども斯くの如き事情に於ては、需要と供給の實際の状態を、例へば國盟罷業に依り、或は何等か他の方法に依つて試す事が必要であらう。併し乍ら若しも諸君が供給と需要を、貨銀を制規する所の法則として受認するならば、貨銀の騰貴に反對し論辯するは無用と同時に兒戯に類するであらう、何となれば諸君が依頼する所の最高法則に従へば、貨銀の時々の騰貴は貨銀の時々の下落と全く等しく必要であり且つ合法的であるから。若しも諸君が供給と需要を、貨銀を制規する所の法則として受認しないならば、私は再び何故に貨幣の一定量が労働の一定量に對し與へらるるかと云ふ

疑問を繰返すであらう。

併し乍ら事柄をもつと廣く考察するに、労働の價值或は何等か他の商品の價值は究極に於て供給と需要に依り決定せられると想像する事に於て、諸君は全然誤つて居る。供給と需要は市場價格の一次的變動の外何物をも制規しない。夫等は諸君に對し、何故に一商品の市場價格は其價值以上に騰貴し或はそれ以下に低落するかを説明するであらう、併し乍ら夫等は決して其價值、自體を説く事は出来ない。今供給と需要が平衡を保つ、又は經濟學者が之を呼ぶ如く、互に蔽ひ合ふと假定する。然らば、此等の反對の力が等しくなつた其瞬間に於て、夫等は互に癱痺し、孰れの方向へも動く事を止める。供給と需要が互に平衡を保ち、又是れが故に行動するを止めた瞬間に於て、一商品の市場價格は其實際の、價值と一致する、即ち其市場價格が其周圍を擺搖する所の標準價格と一致する。だから其價值の性質を吟味するに際しては、吾々は供給及び需要の市場價格に對する一次的結果とは毫も關係を有しない。同様の事は賃銀並に凡て他の商品の價格に就いて眞理を有する。

五 賃銀と價格

其最も簡單なる理論的表白に還元するならば、凡て吾が同志の議論はこの一個の獨斷に歸着せられる、「商品の價格は賃銀に依つて決定せられ、又は制規せられる。」

私は此時代遅れの且つ打破せられた錯誤に對し證據を齎す爲めに、實踐的觀察に訴へるであらう。私は諸君に以下の事を云はんとする、即ち其労働は相對的に高價である所の英國の工場職工、坑夫、造船工等は彼等の生産物の安價なるに依り、凡て他の國民より安賣りして居る、然るに例へば、其労働は相對的に低價である所の英國農業労働者は、其生産物の高價なる理由を以つて、殆んど凡ての他の國民から安賣せられて居る。同一の國の物品と物品を、又異りたる諸國の商品を比較する事に依つて、私は實際でないもつと外見的の例外を別問題とするに、平均に於て高價なる労働は低價なる商品を生産し、低價なる労働は高價なる商品を生産する事を示さんとする。是れは勿論、前者の場合に於ける労働の高い價格と後者の場

合に於ける労働の低い価格が、其正反對の結果の各原因である事を證明しないであらう、併し乍ら兎もあれそれは、商品の価格は労働の価格に依つて規定せられざる事を證明するであらう。けれども、此經驗的方法を採用するは、吾々にとつて全然餘計の業である。

ウエストン氏が「商品の価格は賃銀に依つて決定せられ、或は制規せられる」と云ふ獨斷を樹立した事は、恐らく否定せられるであらう。事實に於て、彼は決して之を公式附けはしなかつた。反對に、彼は利潤及び賃子は商品の価格の構成部分を形成する、何となれば常に労働者の賃銀のみならず、又資本家の利潤及び地主の賃子が支拂はるべきは商品の価格の中からなされるが故にと言つて居る。併し乍ら彼の思想に於ては如何にして価格は形成せられるか。第一に賃銀に依つて、次に追加歩合が資本家の爲めに価格の上に加へられ、他の追加歩合が地主の爲めに加へられる事に依つて。今一商品の生産に使用せられたる労働の賃銀を十と假定せよ。若しも利潤率が百パーセントであるならば、資本家は前拂賃銀の上に加へるであらう、而して賃子率も亦百パーセントであるならば、賃銀の上

にもう十が加へられるであらう、斯くて商品の總計の価格は三十に達するであらう。併し乍ら斯くの如き価格の決定は簡単に賃銀に依る価格の決定たるであらう。若しも如上の場合に於て賃銀が二十に騰貴するならば、商品の価格は六十に騰貴する、又順に此様である。其結果賃銀は価格を制規すると云ふ獨斷を提出した所の、經濟學の老朽著述家は凡て、利潤及び賃子を賃銀に對する單純の追加歩合として取扱ふ事に依り、之を證明せんと試みて來た。勿論、彼等の中誰も此等の歩合の限界を何等かの經濟法則に還元することは出来なかつた。反對に彼等は利潤は因習、習慣、資本家の意志、又は或る他の等しく任意にして説明せられ得ざる方法に依つて決定せられると考へたやうに思はれる。若しも彼等が、利潤は資本家の間の競争に依つて決定せられると主張するならば、彼等の言ふ事は無意義である。其競争は確かに異りたる商賣に於ける異りたる利潤を平等化し、或は之を一つの平均的水準に貶すであらう、けれども競争は決して水準自體、換言すれば利潤の一般率を決定する事は出来ない。

商品の価格は賃銀に依つて決定せられる、と言ふ事に依り吾々は何を意味する

てあらうか。賃銀とは單に勞働の價格に對する名稱に過ぎないから、商品の價格は勞働の價格に依つて制規せられるを意味するのである。「價格」は交換價值であるからして——價值に就いて言ふ時は常に交換價值に就いて言ふ——即ち貨幣に於て表白せられたる交換價值であるからして、前提は次のやうになる、即ち「商品の價值は勞働の價值に依つて決定せられる」又は「勞働の價值は價值の一般的尺度である。」

併し乍らそうだとすれば、「勞働の價值」自體は如何して決定せられるか。茲に於て吾々は行詰つて仕舞ふ。勿論吾々が論理的に推論せんと試みる時、行詰るのである。然るに其教義の提出者は論理的疑義を容易に行つてのけて居る。例へば、吾が同志ウエヌトンを取つて見よ、最初彼は吾々に向つて賃銀は商品の價格を制規する、またその結果賃銀が騰貴する時價格は騰貴しなければならぬと云つた。次ぎに彼は、賃銀の騰貴は何等益する所が無い、何となれば商品の價格は騰貴して居るから、又賃銀は事實上賃銀が費されたる所の商品の價格に依り測られるからと云ふ事を吾々に示す爲めに、轉回して居る。斯くの如く吾々は勞働の價值

は商品の價值を決定すると言ふ事に依つて始める、而して吾々は商品の價值は勞働の價值を決定すると言ふ事に依つて結ぶ。斯くの如く吾々は最も不正なる圓周を彼方此方へと運動し、少しも結論に到達しない。

要するに、一商品の價值例へば勞働穀物又はどれでも他の商品の價值を、價值の一般的尺度及び制規者とする事に依つて、單に困難を誤魔化すに過ぎない事は明白である、何となれば吾々は一の價值を、それ自身が更らに決定せられるを必要とする所の他の價值に依つて決定するからである。

「賃銀は商品の價格を決定する」と云ふ獨斷は、其最も抽象的なる言葉で以て表白せられると、「價值は價值に依つて決定せられる」と言ふ事に歸着する、而して此重語反覆は、事實に於て吾々が價值に就て少しも知る所がない事を意味する。

此前提を受認するや、經濟學の一般法則に關する凡ての推論は單純なる囁語と變ずる。是れが故に、一八一七年出版せられた「經濟學原理」に關する其著述に於て、「賃銀は價格を決定する」と云ふ舊い擴がった、且つ使ひ盡された謬説を根本的に打破したのは、リカルドの大なる功績であつた、即ちアダム・スミス及びその佛

蘭西の先驅者が彼等の研究の眞に科學的なる部分に於て排斥したが彼等のより一般に解り易く書かれた且つ通俗化された數章に於て再生産した所の謬説である。

六 價值と勞働

諸君、私は今、私が問題の眞の發展に入らねばならぬ點に到達して居る。私は之を甚だ満足すべき方法に於て爲すと約束することは出來ない、何故なれば斯くするが爲めには、私は經濟學の全部面を通り抜けるべく餘儀なくされるから。私は佛蘭西人が言ひつけて居る如く、單に「問題の精髓」⁽³⁾即ち主要點に觸れ得るに過ぎない。

吾々が樹立すべき最初の問題は、「商品の價值とは何であるか、如何にしてそれが決定せられるか」である。

一見すれば、一商品の價值は全然相對的のものであつて、凡ての商品に對する其關係に於ける一商品を考慮する事なくして決定せられない、と見ゆるであらう。

事實、一商品の價值、交換價值と云ふ事に於て、吾々はそれが凡ての他の商品と交換せらるゝ所の比例的分量を意味する。併し乍ら今問題が起る、「商品が互に交換せらるゝ所の比例は如何にして制規せらるゝか。」

吾々は經驗からして、此等の比例は無限に相異なる事を知る。單一の商品、例へば小麥を採つて見るに、吾々は一クォーターの小麥は、他の商品との比例の殆んど無數の相異の中に交換せらるゝ事を發見するであらう。而かも縦令絹布、金或は孰れか他の商品に於て表白さるゝにしても、其價值は常に同じであるが故に、それは他の物品との交換のこれ等相異したる率とは別な、獨立した或物でなければならぬ。此等の種々なる商品との種々なる等式を、甚だ相異したる一形態に於て表白する事は可能でなければならぬ。

更らに、若しも私が小麥の一クォーターが鐵と一定の比例に於て交換せらるゝ、或は小麥の一クォーターの價值は鐵の一定量に於て表白せらるゝと云ふならば、私は、小麥の價值及び鐵に於ける其等價物は、小麥でもなければ、又鐵でもない所の或る第三の物に等しいと云ふのである、何故なれば私は夫等が同一の量を二個の

異りたる形に於て表白すると假定するから。是れが故に彼等の中孰れも、小麦たると或は鐵たるとを問はず他の物とは獨立して、彼等の共通の尺度である所の此第三の物に還元せられねばならぬ。

此點を明瞭ならしむる爲めに、私は一の甚だ簡單なる幾何學的描寫に歩を轉じやう。凡ての可能なる形態及び大さの三角形の面積を比較し、或は三角形と長方形、又は他の直線形とを比較するに際し、吾々は如何なる手續をなすか。吾々は如何なる三角形の面積をもその見ゆる所の形態とは全然異つた一の表白に還元する。三角形の性質からして、其面積は其底邊と其高さとの積の半分に等しい事を發見し、斯くて吾々は三角形の凡ての種類並に他の凡ての長方形の異りたる價值を比較することが出来る、何となれば夫等の凡ては三角形の一定の數に分解せられるから。

同一様式の手續が商品の價值に就いても採られねばならぬ。吾々は夫等の凡てを、凡てに共通なる一の表白に還元し、又彼等が共同一の尺度を包含する所の比例に依つてのみ、彼等を辨別することが出来るねばならぬ。

商品の交換價值は單に此等の物の社會的機能であり、自然的性質とは毫も關係しないからして、吾々は先づ第一に、凡ての商品の共通の社會的實體は何であるかを問はねばならない。それは労働である。一商品を生産する爲めには、労働の一定量が其上に投下せられ、或は其中に消費せられねばならぬ。而して私は單に労働を云ふに非ずして、社會的労働を云ふのである。彼自身の直接的使用の爲めに即ち自身でそれを消費する爲めに一物品を生産する人は、一生産物を造るけれども商品も造らない。自給的生産者として彼は社會とは無關係である。併し乍ら一商品を生産する爲めには、人は常に或る社會的欲望を満足せしむる一物品を生産するに止らず、彼の労働自體は社會に依つて費された労働の總額の一部及び一片を形成せなければならぬ。それは社會内に於ける分業に服従しなければならぬ。それは他の分業なくしては無である、又自分の方から夫等を補充するを必要とせられる。

若しも吾々が商品を價值として考へるならば、吾々は夫等を専ら實現せられた固定せられた、或は、若しもそう云はれるのならば結晶せられたる社會的労働の單

一の視點から考へるのである。此點に於て商品は單に労働のより大なる或はより小なる分量を代表することに依つて相異し得るに過ぎない、例へば絹ハンケチには煉瓦に於けるよりも一層大なる労働の分量が消耗されて居る様に。併し乍らどうして労働の分量は測られるか。労働の繼續する時間に依つて労働を時、日等に於て測る事に依り。勿論、此尺度を適用するには労働の凡ての種類は彼等の單位としての平均労働或は簡單なる労働に還元せられる。

かるが故に吾々は此結論に到達する。一の商品は一の價值を有する、何となればそれは社會的労働の結晶であるから。其價值の大きさ、或は其相對的價值は、其中に包含せられたるかの社會的實體のより大なる或はより小なる分量に關係する、換言すれば其生産に必要な労働の相對的分量に。是れが故に商品の相對的價值は、商品の中に消耗せられ、實現せられ、固定せられた労働の各々の量、或は總量に依つて決定せられる。労働の同一時間、に於て生産せられ得る所の商品の相關的分量は等しい。或は一商品の價值の他の商品の價值に對する關係は、前者に固定せられた労働の分量が後者に固定せられた労働の分量に對する關係である。

私は想像する諸君の多數は質問するであらう、「然らば實に賃銀に依る商品の價值の決定と、商品の生産に必要な労働の相對的、分量に依る價值の決定との間に、斯くの如き大なる差異、或は何等かの差異が存在するのであるか」と。けれども、諸君は労働に對する報酬と労働の分量とは全然別な物である事に注意しなければならない。例へば、労働の等しい分量が小麥の一クォーターと金の一オンスの中に固定せられてあると假定する。私が此例に據るのは、それがベンヂャミン・フランクリンに依つて、一七二一年に出版せられ、「紙幣流通の性質及び必要に關する一研究」と題された彼の始めての論文の中に用ゐられたからである、同書に於いて彼は最初の一人として、價值の眞實の性質に觸れて居る。扱て、そこで吾々は、小麥の一クォーターと金の一オンスは、夫等が平均労働の等しい分量の結晶、即ち夫等の中にそれ／＼固定せられた何日分、或は何週分かの労働の結晶であるが故に等しい、價值、或は等價物であると假定する。斯く金及び穀物の相對的價值を決定するに際し、吾々は農業労働者及び鑛夫の賃銀に就いて何等か參照するであらうか。少しも。吾々は、彼等の一日の労働、或は彼等の一週の労働が如何に

支拂はれたか、或は一般に賃銀労働が用ゐられたか何うかと云ふことさへ、全然不定の儘に放任して置く。縦令賃銀労働が用ゐられても、賃銀は甚だ不平等であつたらう。其の労働が小麦の「クォーター」の中に實現せられた所の労働者は僅かに二ブッシェルを受取るであらう、而して鑛業に使用せられた労働者は金の半オンヌを受取るであらう。或は彼等の賃銀は平等であると假定するも、夫等は凡ての可能なる比例に於て、彼等に依つて生産せられたる商品の價值から偏倚するであらう。夫等は穀物の「クォーター」或は金の「オンス」の二分の一、三分の一、四分の一、五分の一、或は何等か他の分數に相當する。彼等の賃銀は勿論、彼等が生産した所の商品の價值を超過し、それより以上であるを得ない、併し乍ら夫等はあらゆる可能の程度に於てより少く有り得る。彼等の賃銀は生産物の價值に依つて制限せられる、併しながら彼等の生産物の價值は賃銀に依つて制限せられないであらう。而して就中、價值例へば穀物及び金の相對的價值は、使用せられたる労働の價值、換言すれば賃銀に對し、何等の顧慮なくして決定せられたであらう。是れが故に、商品の價值を之に固定せられたる労働の相對的分量に依つて決定する事は、商

品の價值を労働の價值に依つて或は賃銀に依つて決定すると云ふ重疊的方法とは、全然異つた物である。けれども、此點は吾々の研究の進行と共に更らに明示せられるであらう。

一商品の交換價值を計算するに際しては、吾々は最後に使用せられた労働の分量に、其前に商品の原料の中に消耗せられた労働の分量、並に依つて以て斯くの如き労働が援助せられたる所の器具、道具、機械、及び建築物に投下された労働を加へなければならぬ。例へば、綿絲の一定量の價值は、紡績行程の間に棉花に加へられたる労働の分量、其前に棉花自體に實現せられたる労働の分量、石炭、油、及び其他の使用せられたる補助物體に實現せられた労働の分量、蒸氣機關、紡錘、工場建物等に固定せられたる労働の分量の結晶物である。本來の意味に於て斯く呼ばるゝ道具、機械、建物の如き生産手段（具）は、生産の繰返さるゝ行程の中に於て、より長き或はより短き期間の間幾度も役に立つ。若しも原料の如く、夫等が一度に消費せられるならば、夫等の全體の價值は、夫等が生産に於て援助する所の商品に一度に移轉せられるであらう。併し乍ら例へば紡錘の如きは、纒かに徐々に消費せられる

が故に、それが持續する平均時間、及び一定の期間例へば一日に於ける其平均の消耗或は磨滅と破損を基礎として、平均計算が爲される。斯くして吾々は、紡績の價値の幾何が日々紡がれる絲に移轉し、又是れが故に、例へば一封度の絲に實現せられた勞働の總量の幾何が、其爲に紡錘に實現せられたる勞働の分量に歸屬せられるかを計算する。吾々の現在の目的に對しては、是れ以上此點に關し詳説する事は必要でない。

若しも商品の價値が其生産に投下せられたる勞働の分量に依つて決定せられるならば、人が怠惰であればある程、又は不器用であればある程、商品を完成するに要せられたる勞働時間は愈々大であるが故に、彼の商品は愈々價値あるやうに見える。けれども、是は一の悲しむべき誤謬である。諸君は私が「社會的勞働」なる言葉を使つた事を記憶せらるゝてあらう、而して多くの點が此「社會的」なる限定の中に包含せられて居る。商品の價値は、其中に消耗せられた又は結晶せられた勞働の分量に依つて決定せられると云ふ事に於て、吾々は、一定の社會狀態に於て、一定の生産の社會的平均條件の下に於て、使用勞働の一定の社會的平均の強

度並に平均の技能とを以て、其生産に必要とせられる勞働の分量を意味する。英國に於て、力織機が手織機と競争するやうになつた時、與へられたる綿絲の量を一ヤードの綿布に變ずるには、以前の勞働時間の僅か半分を必要とせられた。今や憐れなる手織機の織匠は、彼が以前勞働した九時間乃至十時間の代はりに、日々十七時間乃至十八時間を勞働した。彼の勞働の二十時間の生産物も、今は僅に社會的勞働の十時間、換言すれば絲の一定分量を織物に變ずる爲めに社會的に必要な勞働の十時間を代表したに過ぎない。是れが故に二十時間の彼の生産物は、十時間の彼の以前の生産物と同じだけの價値を有した。

斯くて若しも商品に實現せられた社會的に必要な勞働の分量が其交換價値を制規するならば、一商品の生産に必要とせらるゝ勞働の分量に於ける各増加は、各減少が其價値を低下せしむる如く、其價値を昂騰せしめる。

若しも各商品の生産に必要な勞働の各分量がコンスタントであるならば、夫等の相對的價値も亦コンスタントたるであらう。併し乍ら斯くの如きは實際でない。一商品の生産に必要な勞働の分量は、使用せらるゝ勞働の生産力に於け

る變化と共に絶えず變化する。労働の生産力が大きければ大きい程、愈々多くの生産物が與へられたる労働時間に於て完成せられる。労働の生産力が小さければ小さい程、愈々少く生産物が同一時間内に完成せられる。若しも例へば人口の増進に於て、より少く豊饒なる土地を耕作することが必要になつたとするならば、生産物の同一分量は、費されたる労働のより大なる分量に依つてのみ到達せられるであらう。又農産物の價值は其結果騰貴するであらう。一方、若しも生産の近代的手段を以て、一人の紡者が一労働日の間に、彼が絲車を以て同一時間に紡ぎ得た所の綿花の分量の數千倍を絲に變ずるならば、綿花の各一封度は、それが以前になしたとは數千倍少く紡績労働を吸収することは明かである。而して、其結果紡績に依つて綿花の各一封度に附加せられたる價值は、以前より數千倍少くであらう。絲の價值は之に相應して下落するであらう。

異りたる國民の異りたる自然的精力及び獲得せられたる労働力を別問題とすれば、労働の生産力は原則として次のものに依存する。――

第一 土地、鑛山の豊饒等の如き、労働の自然的條件に。

第二 大規模の生産、資本の集積及び労働の結合、労働の分割、機械改善されたる諸方法、化學的及び其他の自然的作用の應用、交通及び輸送の手段に依る時間及び空間の縮小、並に依つて以て科學が自然的作用を労働の奉仕に強制し又之に依つて労働の社會的又は協同的性質が發達せらるゝ所のあらゆる他の工夫の如き、社會的労働の前進的改善に。労働の生産力が大きければ大きい程、愈々少く労働が生産物の與へられたる量に投下せられる。是れが故に生産物の價值は愈々小である。労働の生産力が小なればなる程、愈々多くの労働が生産物の同一分量の上投下せられる。是れが故に愈々其價值は大である。従つて一般的法則として、吾々は以下の事を確定し得るであらう――

商品の價值は、其生産に使用せられた労働の時間に、正比例し、又使用せられた労働の生産力に、反比例する。

今迄單に價值に就いて語つたに過ぎないが、價值に依つて採らるゝ一の特別的形式である所の價格に關して二三の言葉を附け加へるであらう。

價格は、夫自身を取つて見ると、價值の貨幣的表白に外ならない。例へば此國

の凡ての商品の価値は金價格に於て表白せられる、然るに大陸に於ては夫等は主として銀價格に於て表白せられる。金或は銀の価値は、凡ての他の商品の価値と同じく、之を獲得するに必要な労働の分量に依つて制規せられる。諸君は、諸君の國民的労働の一定分量が其中に結晶せられたる所の諸君の國民的生産物の一定分量を、彼等の労働の一定分量が結晶せられて居る所の金及び銀を生産する諸國の生産物と交換する。諸君が凡ての商品の価値換言すれば商品に投下せられたる各々の労働量を、金及び銀に於て表白するを學ぶは此方法に依つて即ち實に物々交換に依つてある。価値の貨幣的表白、或は同様の事であるが、価値の價格への轉換を、稍々より精密に觀察するならば、それは據つて以て諸君が凡ての商品に對し一の獨立且つ同質なる形態を與へ、或は夫等を等しき社會的労働の分量として表白する所の一の過程である事を發見するであらう。それが單に価値の貨幣的表白である限り、價格はアダム・スミスに依つて「自然價格」と呼ばれ、佛蘭西のフキジオクラットに依つて「必要價格」と呼ばれて來た。

然らば、価値と市場價格との關係、或は自然價值と市場價格との關係は如何なる

ものであるか。諸君は凡て市場價格は縱令商品の生産條件が個人的生産者にとり如何に相異なるも、同種類の凡ての商品に對し、同じである事を御存知である。市場價格は、生産の平均條件の下に於て、一定物品の一定量を市場に供給する爲めに必要な社會的労働の平均量を表白するに過ぎない。それは一定種類の商品の全量に依つて計算せられる。

此限りに於て一商品の市場價格は其價值と一致する。他方に於て、市場價格の動搖は、全價值又は自然價格の上に騰るも、忽ち夫れ以下に低下する供給及び需要の變動に依存する。市場價格の價值からの偏倚は繼續的である、けれどもアダム・スミスが云ふ如く、「自然價格は商品の價格がそれに絶えず引き寄せらるゝ所の中心價格である。種々の出來事は商品の價格を或時は自然價格の遙か上に止め、又或時は稍々夫れ以下にさへ強制するであらう。併し乍ら夫等を休息と持續の此中心に置く事を妨ぐる所の障礙が如何様であらうとも、夫等は絶えず其中心に傾いて居る。」

私は今此事柄を穿鑿することは出來ない。若しも需要と供給が互に平衡を保

つならば、商品の市場価格は其自然價格、換言すれば其生産に必要とせられたる労働の各々の分量に依つて決定せらるゝ所の商品の價值と一致すると言ふ事を以て充分である。併し乍ら供給と需要は、一の動搖を他の動搖に依り平均する即ち騰貴を下落に依り、又其逆に依つて平均するを以て平衡を保つに過ぎないとは云へ、夫等は絶えず互に平衡を保つ傾向を有しなればならぬ。若しも單に日々の動搖を観察する代はりに、例へばツーク氏が其「價格史」に於て爲したる如く、長い期間の市場價格の變動を解剖したならば、市場價格の動搖、其價值からの偏倚、其一高一低は互に相殺し又互に補填する、それ故に、私が今素通りしなければならぬ所の、獨占の作用及び二三の其他の制限を別問題とするならば、商品の凡ての種類は、平均しては其各々の價值、又は自然價格に於て賣られることを發見するであらう。市場價格の動搖が互に補填する其平均期間は、商品の異なる種類に依つて相異なる、何となれば或る種類に於ては他の種類に於けるよりも供給を需要に適合せしむるには一層容易なからである。

然らば、廣く言及し、又稍々より長い期間を包含するに、商品の凡ての種類は其各

の價值に於て賣られるならば、利潤、即ち個々の場合に於けるものでなく、種々の商賣の恒常的且つ普通の利潤が、商品の價格から生ずる、或は其價值以上の價格にて賣る事から生ずると考へるは愚な事である。此見解の無稽なるは、それが一般化されると明瞭である。或者が賣手として絶えず得る所の物を、彼は買手として絶えず失ふてあらう。賣手たる事のなき買手、又は生産者たる事のなき消費者である所の人々が存在すると言ふも、何の助けにもならない。此等の人達が生産者に支拂ふ所の物を、彼等は先づ生産者から無償で得なければならぬ。若し或者が先づ吾々の金を取り、後程吾々の商品を購求するに際し其金を返すならば、吾々の商品を其人に對し餘りに高く賣る事に依つて決して、吾々は富裕にならないであらう。此種類の取引は損失を輕減するであらう、けれども利潤を實現するに何等の役にも立たない。

是れが故に利潤の一般的性質を説明する爲めには、吾々は、商品は平均すれば其眞實の價值に於て賣られる、又利潤は商品を其價值に於て賣る、換言すれば商品の中に實現せられたる労働の分量に比例して賣る事に依り引き出されると云ふ理

論から出發しなければならぬ。若しも吾々が利潤を此前提の下に説明出来ないならば、吾々は一般に之を説明出来ない譯である。是れはパラドックスであり又日常の觀察に背くやうに見える。しかし地球が太陽の周圍を運行し、又水が二つの非常に燃え易い瓦斯から成立すると云ふ事も亦パラドックスである。科學的眞理は單に物の欺瞞的外觀を捉ふる所の日常の經驗から判斷せられると、常にパラドックスである。

七 労働力

今吾々は斯くの如き匆卒の方法に於て爲し得られたる限り、價値の性質、即ちあらゆる商品の價値の性質を解剖したからして、吾々は吾々の注意を特殊な労働の價値に轉じなければならぬ。そうして茲に於て再び、私は外觀上のパラドックスに依り諸君を驚かさねばならぬ。諸君の凡ては、彼等が日々賣る所のものは其労働であり、是れが故に労働は一の價格を有し、又一商品の價格は其價値の貨幣的表白に過ぎないからして、労働の價値と云つたやうなものも確かに存在すると、確信

せられるであらう。けれども、其言葉の普通の意味に於ては、労働の價値と云つたやうなものは存在しない。吾々は、一商品に結晶されたる必要労働の分量が其價値を形成する事を見た。今價値の此觀念を適用する時、吾々は、例へば十時間の労働日の價値を如何にして決定し得るか。どれだけの労働が其日の中に包含されてあるか。十時間の労働。十時間の労働日の價値が十時間の労働に等しい、又は其の中に包含せられたる労働の分量に等しいと言ふは、重語反覆の表白であり、加之に無意義の表白である。勿論一度び「労働の價値」なる表白の眞實な、けれども隠れたる意味を發見するならば、吾々は此不合理なる、且つ外觀上不可能なる價値の適用を説明し得るであらう。恰かも一度び天體の眞實の運動を確かめるや、外觀上の又は單純に現象的なる運動を説明し得ると同じ風に。

労働者が賣る所のものは、直接に彼の労働に非ずして、其一時的處分を彼が資本家に委する所の彼の労働力である。此事は事實であつて、果たして英國の法律に依つて爲さるか否かは知らないが、兎も角二三の大陸の法律に依つて、人が其労働力を賣るを許容さるゝ最大限時間が規定さるゝ程である。いくらでも定限な

き期間斯くするを許容せられたならば、奴隷制度は忽ち復活するであらう。例へば斯くの如き賣却が彼の生涯を包含するならば、直ちに彼をして其雇主の生涯の奴隷たらしむるであらう。

英國の最も古い經濟學者であり又最も獨創的なる哲學者の一人——トーマス・ホップス——は明に其「レヴィアタン」に於て直覺的に此點に論及して居る。それは凡て彼の後繼者から看過されて居る。彼云く「人の價值又は値打は凡て他の物に於けると同じく、其價格である、換言すれば彼の力の使用に對して與へらるゝと同じだけのものである。」

此基礎から出立し、吾々は労働の價值を凡て他の商品の價值と同様に決定する事が出来るであらう。

併し乍ら斯くする前に、吾々は尋ね得るであらう、即ち吾々が市場に於て、土地、機械、原料並に生活資料、即ち夫等の凡ては、其原始的狀態に在る土地を除く外は、労働の生産物である所の物を所有する買手の一團と、他方には其労働力、其働く腕と頭の外、賣るべき何物をも有しない所の賣手の一團を發見すると云ふ、此奇怪な現象

は如何して起るのかと。一方の連中は利潤を得且つ裕福となる爲めに絶えず買つて居る、然るに他方の連中は其生活資料を儲ける爲めに絶えず賣つて居ると云ふ、此奇怪な現象は如何して起るか。此問題の研究は、經濟學者が「最初の又は原始的の蓄積」と呼ぶ所のものであるが、實は原始的掠奪と呼ばれるべきもの、研究となるであらう。吾々は、此所謂原始的蓄積は、労働者と其労働手段との間に存在する原始的結合の崩壊に歸する所の、歴史的過程の一系列を意味するに外ならぬことを發見するであらう。けれども、斯くの如き研究は、私の現在の主題の範圍外に横はつて居る。労働の人間と労働の手段との間に於ける分離が一度び行はるゝや、斯くの如き事態は、一の新たななる且つ根本的なる革命が之を再び轉覆し、原始的結合を一の新たな歴史的形態に恢復するに至る迄は、それ自身を維持し且つ絶えず増加する範圍に於てそれ自身を再生産するであらう。

然らば労働力の價值とは如何なるものであるか。

あらゆる商品の價值と同じく、其價值は之を生産するに必要な労働の分量に依つて決定せられる。人間の労働力は其生ける個性の中にのみ存する。必需品

の一定量は人間に依つて成長し且つ其生命を維持する爲めに消費せられねばならぬ。併し乍ら人間は機械と同じやうに使ひ古される而して他の人間に依つて交代せられねばならぬ。彼自身の維持の爲めに要する必需品の分量の外に、彼は労働市場に於て彼と交代し労働者の人種を永續せしむべき所の一定数の小供を育てる爲めに、必需品の他の分量を必要とする。加之に、彼の労働力を發達せしめ一定の技能を獲る爲めに、價值の他の分量が費されねばならぬ。吾々の目的の爲めには、單に平均労働を考慮するを以て充分である、其教育と發達の費用は漸減的大である。とは云へ私は此機會を捉へて、異なる質の労働力を生産する費用は異なるが故に、異なる商賣に使用せられる労働力の價值は異なるべき事を述べなければならぬ。是れが故に、賃銀の平等に對する叫は一の誤謬に基くものであつて決して満たさるゝ事のない一の狂氣的願望である。それは前提を受認し、而かも結論を避けんとするかの不正且つ皮相の急進論の産物である。賃銀制度の基礎の上に於ては、労働力の價值はあらゆる他の商品の價值と同様に決定せられる、而して労働力の異なる種類は異なる價值を有するが故に、又は其生産に對し労働の異なる

分量を必要とするが故に、夫等は労働市場に於て異なる價格を得なければならぬ。賃銀制度の基礎の上に於て、平等の又は、單に公平の報酬を要求するは、恰かも奴隸制度の基礎の上に於て自由を要求するに等しい。諸君が何を正義とし又は公平と考ふるかは問題外である。問題は「一定の生産制度と共に何が必然であり又避くべからざるか」に在る。

今迄述べられたる所に従つて、労働力の價值は、労働力を生産し、發達せしめ、維持し且つ永續せしむるに要する必需品の價值に依つて決定せられることが了解るであらう。

八 餘剩價值の生産

今一労働者の日々の必需品の平均量は、其生産に對し平均労働の六時間、を必要なりと假定する。更らに、平均労働の六時間は、三志に等しき金量の中に實現せられると假定する。然らば三志は其人の労働力の價格又は其日々の價值の貨幣的表白である。若しも彼が日々六時間労働するならば、彼は日々彼の日々の必需品

の平均量を購ひ、又は労働者として彼自身を維持するに充分の価値を生産するであらう。

併し乍ら吾々の言ふ其人は賃銀労働者である。是れが故に彼は其労働力を資本家に賣らねばならぬ。若しも彼がそれを一日三志に、又は一週十八志に賣るならば、彼はそれを其価値に於て賣るのである。彼を一の紡績工なりと假定する。若し彼が日々六時間労働するならば、彼は棉花に對し日々三志の価値を附加するであらう。日々彼に依つて附加さるゝ此価値は、日々受取らるゝ所の賃銀、又は彼の労働力の價格に對する精確なる等價物である。併し乍ら其場合には如何なる餘剩価値、又は餘剰生産物も資本家に歸屬せられない。果して然らば、茲に於て吾々は行詰らねばならぬ。

労働者の労働力を買ひ、又其価値を支拂ふ事に依つて、資本家は、あらゆる他の購求者と同じく、買つた所の商品を消費し又は使用する権利を獲得する。資本家は機械を運轉せしむるに依つて之を消費し又は使用する如く、彼を働かしむるに依つて其者の労働力を消費し又は使用する。是れが故に、労働者の労働力の日価値

又は週価値を買ふ事に依つて、資本家は其労働力を全日、又は全週の間使用し又は働かしむるの権利を獲得して居る。勿論、労働日又は労働週は一定の限界を有する、併し乍ら之に就いては吾々は後程より委しく觀察するであらう。

今の處私に諸君の注意を一の決定點に向けんことを欲する。

労働力の価値は、之を維持し又は再生産するに必要な労働量に依つて決定せられる、併し乍ら其労働力の使用は、單に労働者の活動的精力並に肉體的力に依つて制限せられるに過ぎない。労働力の日価値、又は週価値が其力の一日の行使又は一週の行使と全然異なる事は、一匹の馬が要する飼料とそれが騎手を運び得る時間と全然異なるに等しい。依つて以て労働者の労働力の価値が制限せらるゝ所の労働の分量は、彼の労働力がなし得る労働の分量に對し何等限界を造らない。曩の紡績工の例を採つて見よ。吾々は、日々彼の労働力を再生産する爲めに、彼は日三志の価値を再生産しなければならぬ、それを彼が日々六時間労働する事に依つて成すべき事を見た。併し乍ら此事は彼をして一日十時間又は十二時又はより多くの時間労働するを不可能ならしむるものでない。今資本家は紡績工の労働

力の日価値又は週価値を支拂ふ事に依つて、其労働力を全日又は全週の間使用するの権利を獲得する。是れが故に、彼は労働者をして毎日例へば十二時間労働せしむる。そこで彼の賃銀又は彼の労働力を回収するに必要な六時間を超過して、彼は残りの六時間を労働しなければならぬであらう、私は之を剰労働の時間と呼ぶ而してこの剰労働は剰価値並に剰生産物の中にそれ自身を實現する。若しも吾が紡績工が例へば彼の六時間の日労働に依つて三志の価値、即ち彼の賃銀に對し精確なる等價物を形成する所の価値を棉花に附加するならば、彼は十二時間に於て棉花に對し六志の値打を附加し、又之に比例した糸の剰物を生産するであらう。彼は彼の労働力を資本家に賣つたからして、彼に依つて創造せられたる全體の価値又は生産物は資本家即ち彼の労働力の一時的所有者に歸屬する。是れが故に、資本家は三志を前拂する事に依つて、六志の価値を實現する、何となれば六時間の労働が結晶せられて居る所の価値を前拂ひする事に依つて、彼は十二時間の労働が結晶せられて居るところの価値を代はりに受取るであらうから。此同一なる過程を日々繰返す事に依つて、資本家は日々三志を前拂し、日々

六志を懐に入れるであらう、其中の一半は更らに賃銀を支拂ふに出て行くであらう、そうして其中の他半は資本家が之に對し何等價物を支拂はない所の剰価値を形成するであらう。資本と労働との間に於ける此種類の交換が依つて以て資本主義的生産又は賃銀制度が建設せらるゝ所のものである、又それは労働者を労働者とし、資本家を資本家として絶えず再生産するの結果を齎さねばならぬ。剰価値率は、凡ての他の事情が同一であるとするならば、労働力の価値を再生産するに必要な労働日の其の部分と、資本家の爲めに爲さるゝ剰時間又は剰労働との間に於ける比例に關係する。是れが故に剰価値率は、之を働く事に依つて労働者が單に彼の労働力の価値を再生産し、又は賃銀を回収するに過ぎざる所の其限度を超過し、労働日が延長さるゝ比例に關係するものである。

九、労働の価値

吾々は今、「労働の価値或は價格」なる表白に還らねばならぬ。

事實労働の価値は、労働の維持に必要な商品の価値に依つて測られたる労働

力の價値に過ぎない事を、吾々は見て來た。併し乍ら労働者は彼の賃銀を彼の労働が成された後に受取るが故に、又更らに、彼が實際に資本家に與ふる所のものは彼の労働であることを知るが故に、彼の労働力の價値或は價格は必然的に彼には彼の労働自體の價格或は價値の如く見える。若し彼の労働力の價格が三志であり其中に労働の六時間が實現されて居り、而して若しも彼が十二時間働くならば彼は必然的に、此労働の十二時間は六志の價値の中に實現せられるにも拘はらず此の三志を労働の十二時間の價格或は價値と考へる。二重の結果が此の事から生ずる。

第一 労働力の價値、或は價格は労働自體の價値、或は價格の外觀を採る、嚴格に云へば、労働の價値及び價格は意味のない言葉であるが。

第二 労働者の日々の労働の單に一部分が支拂はれ、他の部分は不拂なるに拘はず、又其不拂の或は餘剰の労働が、精確に餘剰價値、或は利潤が形成せらるゝ所の基本を形成するにかゝはらず、恰かも總體の労働は支拂はれた労働の如く見える。

此不正なる外觀が賃銀、労働を労働の他の歴史的形態から區別する。賃銀制度の基礎に於ては、不拂労働さへ支拂はれた労働である如く見える。之に反し、奴隷に於ては、彼の労働の支拂はれた部分すら不拂である如く見える。勿論、働く爲めには奴隷は生きなければならぬ、而して彼の労働日の一部分は彼自身の維持の手段の價値を回復する爲めに充當せられる。併し乍ら彼と彼の主人との間には取引が行はれず、又賣る、買ふの行爲は兩方の間になされないからして、凡て彼の労働は只で讓與せられたやうに見える。

他方に於て、農奴を取つて見よ、昨日迄歐羅巴の全東部に存在したと私が云つて差支へないやうな農奴を。此農夫は、例へば三日間彼自身の爲めに彼自身の田畑にて或は彼に割當てられた田畑にて労働した、そして次の三日間彼は彼の領主の所有地にて強制的にして無償なる労働を行つた。然らば、茲に於ては労働の支拂はれたる部分と不拂の部分とは識別し得る如く分たれて居た、即ち時間及び空間に分たれて居た。而して吾々の自由主義者は、人をして只で働かしむるの不道理の考に對し、道德的憤慨を以て充たされて居た。

けれども事實の點に於ては、人が一週の中三日間彼の爲めに彼自身の田畑にて働き、三日間只て彼の領主の土地で働かうと、或は彼が工場又は仕事場に於て毎日六時間彼自身の爲めに働き、六時間を彼の雇主の爲めに働かうと、同じ事に歸着する、尤も後の場合には労働の支拂部分と不拂部分とが不可分に互に混交し、又全取引の性質は契約の介在及び週末に受取らるゝ賃銀に依り全然假面にて蔽はれて居る。無代の労働が一の場合には自發的に與へられ、他の場合には強制的であるやうに見える。夫れが凡ての相異である。

「労働の價值」なる言葉を使用するに際し、私はそれを「労働力の價值」に對する一般に行はるゝ俗語として使用するに過ぎない。

十 利潤は商品を其價値に於て賣る事に依り得らるゝ

平均労働の一時間が六片に等しい價値に實現せられ、又は十二時間の平均労働が六志に實現せられたと假定する。更らに労働の價値は三志又は六時間の労働

の生産物だと假定する。斯くて、若しも一商品に費された原料機械並に其他のものに、二十四時間の平均労働が實現せられとするならば、その價値は十二志に達する。猶ほ、資本家に依て雇傭せらるゝ労働者が、夫等の生産手段に十二時間の労働を附加するならば、此十二時間は六志の附加價値の中に實現せられる。是れが故に生産物の總計價値は實現された労働の三十六時間に達し、又十八志に等しい。併し乍ら労働の價値又は労働者に支拂はれた賃銀は唯三志に過ぎないが故に、労働者に依つて働かれ且つ商品の價値に實現せられたる餘剩労働の六時間に對し、資本家からは何等價物が支拂はれない事になる。是れが故に、此商品を其價値に於て、十八志に賣る事に依り、資本家は、彼が之に對し何等價物を支拂はなかつた所の三志の價値を實現する。此三志が、彼に依つて懐に入れらるゝ、餘剩價値又は利潤を形成する。従つて資本家は、彼の商品を其價値を超過した、價格に於て賣るに依らずして其眞實の價値に、於て、之を賣る事に依り三志の利潤を實現するのである。

一商品の價値は、それに包含せらるゝ労働の總量に依つて決定せられる。併し

乍ら労働の其分量の一部分は、之に對し等價物が貨銀の形態にて支拂はれたる所の價値の中に實現せられ、其一部分は、之に對し何等價物が支拂はれなかつた所の價値の中に實現せられる。商品に包含せらるゝ労働の一部分は、支拂労働であり、一部分は不拂労働である。是れが故に商品を其價値に於て、換言すれば之に投下せられたる労働の總量の結晶として賣る事に依り、資本家は必然的に利潤を以て之を賣らねばならぬ。彼は單に、彼に對し一の等價物を用費した所の物を賣るに止らない、又彼は、彼の労働者に對し労働を用費したとは云へ、彼には何物をも用費しなかつた所の物を賣る。資本家に對する商品の費用と、其眞實の費用は別々の物である。是れが故に私は正常且つ平均の利潤は、商品を其眞實の價値以上でなく、其眞實の價値に於て賣る事に依り得らるゝと云ふ事を繰返す。

十一 餘剩價値が分解せらるゝ諸種の部門

餘剩價値、或は労働者の餘剩労働、又は不拂労働が實現さるゝ所の商品の總計價値の其部分を、私は利潤と呼ぶ、其利潤の全體が雇主たる資本家に依つて懐に入れ

られるのでない。土地の獨占は、土地が農業、建築或は鐵道、或は其他如何なる生産上の目的に使用さるゝとも、地主をして、地代なる名稱の下に、かの餘剩價値の一部を取らざるを得せしめる。他方に於て、労働手段の所有が雇主たる資本家をして、餘剩價値を生産せしめ得る、或は同様の事に歸着するが、不拂労働の一定量を、自己に占有せしめ得ると云ふ事實は、労働手段の全部又は一部分を雇主たる資本家に貸す所の其所有者をして——一言を以てすれば、金貸資本家をして、利子なる名稱の下に、かの餘剩價値の一部分を自分に要求するを得せしめる、其結果斯くの如き者としての雇主たる資本家には、産業利潤、又は商業利潤と呼ばれるゝものが残るに過ぎない。

餘剩價値の總量の三範疇の人々の間に於ける分割が、如何なる法則に依つて制規せらるゝかは、吾々の主題に全然無關係である。けれども、是れは多く、既に述べられたる事から生ずるのである。

地代、利子及び産業利潤は、商品の餘剩價値の、又は其中に包含せられたる不拂労働の、異なる部分に對する、異なる名稱たるに過ぎない。而して夫等は等しく此源泉か

ら引き出される、又此源泉のみから引き出されるのである。夫等は土地としての土地、又は資本としての資本から引き出されるものでない、併し乍ら土地及び資本は夫等の所有者をして、雇主たる資本家に依り労働者から搾取せられた剰剰価値の中から各々の分前を得せしめる。労働者自身にとつては、かの剰剰価値、彼の剰剰労働又は不拂労働の結果が全部雇主たる資本家に依つて懐に入れられやうと或は資本家が其一部分を、地代及び利子なる名稱の下に、第三者に支拂ひ出すを餘儀なくされると否とは、第二次的に重要な事柄である。雇主たる資本家が單に彼自身の資本を使用し又彼自身の地主であると假定する、然る時全部の剰剰価値は彼の懐に流れ込むのである。

其如何なる部分を結局彼自身の爲めに保有し得ると否とに拘はらず、此剰剰価値を労働者から搾取する者は、雇主たる資本家である。是れが故に、雇主たる資本家と貸銀労働者との間に於ける此關係の上に、全體の貸銀制度並に全體の現在の生産制度は依存して居る。だから、吾々の論争に参加した所の諸君の二三が事件を些細に收めんと試み、又雇主たる資本家と労働者との間に於ける此基本的關係

を第二次的問題として取扱はんと試みるのは誤つて居る、尤も彼等が、一定の事情の下に於ては、價格の騰貴は甚だ不平等の程度に於て、雇主たる資本家、地主、金融資本家、並に若しも斯く言ふを欲するならば、收稅吏に、影響を與へると言ふのは正當である。

も一つの結果が今迄述べられた事から生ずる。

單に原料機械の價值、一言を以てすれば、使用せられたる生産手段の價值を代表するに止る所の商品の價值の其部分は、少しも、收入を形成しないが、唯、資本を回收する。併し乍ら是れは別問題とし、收入を形成し、又は貸銀、利潤、地代、利子の形態に於て、費消せらるゝ所の商品の價值の他の部分が、貸銀の價值、地代の價值、利潤の價值等に依つて構成せられると云ふは誤謬である。吾々は先づ貸銀を棄て、單に産業利潤、利子並に地代を取扱ふであらう。吾々は恰度商品に包含せらるゝ、剰剰価値、又は不拂労働が實現さるゝ所の商品の價值の其部分は、三個の異なる名稱を有する三個の部分の中に分解せられる事を見た。併し乍ら、其價值は、此等三個の構成部分の、獨立せる、價值の、附加から、組成せられ、又は之に依つて形成せられると云

ふは、全然真理の悖反たるであらう。

若しも一時間の労働がそれ自身を六片の価値の中に實現し、労働者の労働日が十二時間を包括し、此半分の時間が不拂労働であるとするならば、其餘剰労働は商品に對し三志の餘剰價值、換言すれば之に對しては何等等價物の支拂れなかつた所の價值を附加する譯である。此三志の餘剰價值が雇主たる資本家が如何なる比例にせよ、地主竝に金貸と共に分配する所の全元本を構成する。此三志の價值は、彼等が互に分配すべき價值の限界を構成する。併し乍ら商品の價值に對し彼の利潤に對する任意の價值を附加する者は雇主たる資本家でない、其利潤には他の價值が地主等の爲めに附加せられて居る、従つて此等の任意に決定せられた價值の合計が總價值を構成する筈である。是れが故に諸君は一定の價值が三部門に分解せらるゝ事と、三個の獨立せる價值の合計に依り其價值が形成せらるゝ事とを混同し、斯くて地代、利潤竝に利子が引き出さるゝ總體價值を任意の大きさに變化せしめて居る所の、一般に行はるゝ觀念の誤謬を見らるゝであらう。

一資本家に依りて實現せられた總體の利潤が百磅に等しき時、吾々は此額を絶

對的の大きさと觀察し、利潤の總額と呼ぶ。併し乍ら若しも吾々が其の百磅が前拂資本に對して有する比例を計算するならば、吾々は此相對的の大きさを利潤率と呼ぶ。此利潤率が二つの方法に於て表白せらるゝは明白である。

今百磅を賃銀の中に前拂せられた資本と假定する。若しも作り出された餘剰價值も亦百磅であるならば———そうして此事は労働者の労働日の半分が不拂労働から成立する事を示すであらう———且つ吾々が此利潤を賃銀の中に前拂せられた資本の價值に依つて測るならば、吾々は利潤率は百パーセントに達すると言ふであらう、何となれば前拂せられた價值は百であり、而して實現せられた價值は二百であるが故に。

他方に於て、吾々が嘗に賃銀の中に前拂せられた資本のみならず、前拂せられた總體の資本を、即ち例へば、其中四百磅は原料、機械、其他のものゝ價值を代表する所の五百磅を觀察するならば、吾々は利潤率は單に二十パーセントに當ると云はねばならぬ、何となれば百の利潤は前拂せられた總體資本の五分の一に過ぎないが故に。

利潤率を表白する最初の様式が、諸君に支拂労働と不拂労働との間に於ける眞實の比例、労働の搾取 *exploitation*（諸君は私に對し此佛蘭西語を許さねばならぬ）の眞實の程度を示す所の唯一の様式である。も一つの表白の様式は普通使用されるものであり、又實に一定の目的に適つて居る。兎もあれ、それは資本家が無償労働を労働者から搾取する程度を隠蔽するのに、甚だ便利である。

私が續いて爲さねばならぬ所の考察の中に於て、私は利潤なる言葉を、資本家に依つて搾取せらるゝ餘剰價値の總量に對して用ひ、其餘剰價値の種々なる部門への分割に關しては何等の顧慮を與へない、又利潤率なる言葉を用ふるに際しては、私は常に利潤を、賃銀の中に前拂せられた資本の價値に依つて測るであらう。

十二 利潤、賃銀竝に價格の一般的關係

一商品の價値から、之に對し用ひられた原料竝に其他の生産手段の價値を回收すべき價値を控除する、換言すれば、之に包含せられたる過去の労働を代表する價値を控除する、然る時には其價値の残りは、最後に、使役されたる労働者に依り附加

せられた所の労働の分量に分解するであらう。労働者が一日に十二時間働き、十二時間の平均労働は六志に等しき金の分量に結晶せられるとするならば、此六志の附加價値は、彼の労働が創造した所の唯一の價値である。彼の労働の時間に依つて決定さるゝ所の此一定の價値は、兩者即ち彼及び資本家が彼等の各々の分前又は配當を引き出さねばならぬ所の唯一の元本であり、賃銀及び利潤に分配せらるゝ唯一の價値である。此價値自體は、それが兩部門の間に分配せらるゝ可變的比例に依り變更せられざるは明白である。又諸君が一労働者の代はりに全體の労働人口を、一労働日の代はりに例へば千二百萬の労働日を置かうとも、事柄に變りは無いてあらう。

資本家と労働者は單に此制限せられたる價値を、換言すれば労働者の總體労働に依り測らるゝ價値を分配すべきが故に、一方が多く取れば取る程、それだけに他方は少く取り、又一方が少く取れば取る程、それだけに他方が多く取る。常に分量が一定なる時、其一部分は他の部分が減少するに逆比例して増加するであらう。賃銀が變化するならば、利潤は反對の方向に於て變化するであらう。賃銀が下落

すれば、利潤は騰貴するであらう、又賃銀が騰貴すれば、利潤は下落するであらう。若しも労働者が吾々の以前の假定に従ひ、彼が創造した所の価値の半分に等しき三志を得る、又は彼の全労働日が半分は支拂労働から、半分は不拂労働から成立するとするならば、利潤率は百パーセントたるであらう。何となれば資本家も亦三志を得るであらうから。若しも労働者が單に三志を得る、又は單に全日の三分の一を彼自身の爲めに働くとするならば、資本家は四志を得、利潤率は二百パーセントたるであらう。若しも労働者が四志を得るならば、資本家は單に二志を得、利潤率は三十三、三分の一パーセントに低下するであらう、併し乍ら凡て此等の變化は商品の価値に影響を與へないであらう。是れが故に、賃銀の一般的騰貴は利潤の一般率の下落に歸するが、価値には影響しない。併し乍ら縱令結局其市場價格を制規しなければならぬ所の商品の価値が、専ら其中に固定せられた労働の總量に依つて決定せられ、其分量の支拂労働と不拂労働への分配に依り決定せられないとは云へ、此事からして、例へば十二時間に生産された單一の商品の価値又は多數の商品の価値が常に不變の儘である、と云ふ事は決して起つて來ない。一定の勞

働時間に於て、又は一定分量の労働に依つて生産せられたる商品の數、又は量は、使用せらるゝ労働の生産力に關係し、其幅、又は其長さに關係するものでない。例へば紡績労働の生産力の或る程度を以て、十二時間の一労働日は十二磅の糸を生産するであらう、より少き生産力の程度を以ては僅に二磅を生産するに過ぎない。斯くて十二時間の平均労働が前者の場合に於て六志の価値の中に實現せられるとするならば、十二磅の糸は六志を價するであらう、後者に於ては二磅の糸が等しく六志を價する。是れが故に、一磅の糸は、前の場合には六片を價し、後の場合には三志を價する。價格の差異は使用せられた労働の生産力に於ける差異から結果する。より大なる生産力を以ては、一時間の労働は一磅の糸の中に實現せられ、より小なる生産力を以ては六時間の労働が一磅の糸の中に實現せられる。一磅の糸の價格は一方の場合に於ては賃銀が比較的高く、利潤は低きに拘はらず、僅に六片であり、他の場合に於ては賃銀が低く、利潤は高きに拘はらず、それは三志たるであらう。是れは一磅の糸の價格が其中に消費せられた労働の總量に依つて制規せられ、其總量の支拂労働並に、不拂労働への比例的分配に依つて制規せられざる

が故に斯くなるのである。高い價格の労働は廉價なる商品を生産し、低い價格の労働は高價なる商品を生産すると云ふ、私が前に述べた事實は、是れが故に其パラドックス的外觀を喪失する。それは、商品の價值は之に費された労働の分量に依つて制規せられ、又其中に費された労働の分量は全然使用せられたる労働の生産能率に關係し、又是れが故に労働の生産能率に於けるあらゆる變化と共に變化すると云ふ一般的法則の表白に過ぎないのである。

十三 賃銀の引上が企てられ又は其下落が

抗争せらるゝ主要の場合

吾々は今眞面目に賃銀の引上が企てられ又は賃銀の低下が抗争せらるゝ主要の場合を觀察しやう。

一 吾々は、労働力の價值又はもつと廣く行はるゝ俗語では、労働の價值は、商品の價值に依つて、又は夫等を生産するに必要とせられた労働の分量に依つて決定せられる事を見た。果して然らば、一定の國に於て労働者の日々の平均必需品

の價值が三志を以て表白さるゝ六時間の労働を代表するならば、労働者は彼の日の生活資料に對する一等價物を生産する爲めに、日々六時間働かねばならぬ譯である。若しも全労働日が十二時間であるならば、資本家は彼に三志を支拂ふ事に依り、彼に彼の労働の價值を支拂ふのである。労働日の半分は不拂労働であり、利潤率は百パーセントに達するであらう。併し乍ら今、生産能率の減少の結果、例へば農業生産物の同じ分量を生産するに、より多くの労働が必要とせられ、爲めに平均の日々の必需品の價格が三志から四志に騰貴したと假定する。その場合には、労働の價值は三分の一、又は三十三、三分の一パーセントだけ騰貴する。其昔の生活程度に基く、労働者の日々の生活資料に對する等價物を生産する爲めには、労働日の八時間が必要とせられる。是れが故に餘剩労働は六時間から四時間に低下し、利潤率は百パーセントに低下する。併し乍ら賃銀の引上を主張する事に依つて、労働者は單に彼の労働の増加した價值を主張するに止り、恰かも自分の商品の費用が増加した時、其増加した價值を支拂つて貰はんと試みる所の、あらゆる他の商品の賣手と同じである。若しも賃銀が騰貴しないか、或は必需品の増加した

價值を償ふに充分なるだけ騰貴しないならば、労働の價格、は労働の價值以下に低落し、労働者の生活程度は悪化するであらう。

併し乍ら變化は又反對の方向に於て起り得るであらう。増加した労働の生産能率に因りて、平均の日々の必需品の同量は三志から二志に下落し、又は日々の必需品の價值に對する等價物を再生産するに、六時間の代はりに、労働日の中唯の四時間が必要とせられるであらう。今労働者は、彼が以前三志にて買つたと同じだけの必需品を二志を以て買ひ得るであらう。實に、労働の價值は低落した併し乍ら其減少した價值は以前と同量の商品を支配する。そこで利潤は三志から四志に騰貴し、利潤率は百パーセントから二百パーセントに騰貴する。労働者の絶對的生活程度は同じき儘であるとは云へ、彼の相對的賃銀、又従つて彼の相對的社會的地位は、資本家のそれと比較するに低下させられて居る。若しも労働者が相對的賃銀の其低下に抗爭するならば、彼は單に彼自身の労働の増加した生産力に對し或る分前を得社會的階級に於ける彼の以前の相對的地位を維持せんと試みるに過ぎない。斯くて、穀物條例の廢止後、又穀物條例反對運動の時に與へた最も嚴

肅なる誓を鐵面皮に冒瀆して、英國の工場主は賃銀を十パーセント低下した。労働者の抗爭は最初は失敗した。併し乍ら、私が今茲に論入する事の出来ない事情の結果に依つて、失はれた十パーセントは後程再び獲得せられた。

二 必需品の價值、又従つて労働の價值は依然たる儘である、併し乍ら貨幣價值の事前的變化の結果、一の變化が其等の貨幣價格に於て生じ得るであらう。

より豊饒なる鑛山の發見並にそう云つた様の事の爲めに、例へば二オンスの金は以前一オンスの金がしたと同じだけの労働を用費する。そこで金の價值は二分の一即ち五十パーセントだけ貶されるであらう。さすれば凡ての他の商品の價值は其以前の貨幣價格の二倍を以て表白せらるゝからして、労働の價值に付いても亦同様である。以前六志にて表白された所の十二時間の労働は、今十二志にて表白せられる。若しも労働者の賃銀が六志に騰貴せずして三志の儘であるならば、彼の労働の貨幣價格は僅に彼の労働の價值の半分、に等しく、又彼の生活程度は恐しく悪化するであらう。此事は又縱令彼の賃銀は騰貴するも、金の價值の下落に比例しないならば、多少の程度に於て起り得る。斯くの如き場合に於ては、勞

働の生産力に於ても、又は供給及び需要に於ても、又は價值に於ても、何等變る所は無い。夫等の價值の貨幣名稱の外何も變つた事は有り得ないのである。斯くの如き場合に於て労働者は賃銀の比例的騰貴を主張してはならないと言ふは、とりもなほさず、彼は物てなしに名前で支拂はれて満足せなければならぬと言ふに等しい。凡ての過去の歴史は、斯くの如き貨幣の減價が起る時常に、資本家は労働者を欺く此機會を捉へんと注意する事を證明して居る。極めて廣汎な經濟學者の一學派は、金産地の新發見、銀鑛のより善き産出、竝に水銀のより低廉なる供給の結果、貴金屬の價值は再び低落せられて居る事を確言して居る。此事は、大陸に於ける賃銀引上に對する一般的且つ同時的の企畫を説明するであらう。

三 吾々は今迄、労働日は一定の限度を有すると假定して來た。けれども、労働はそれ自體には何等不變の限度を有しない。之を其極度の生理的に可能なる長さ延ばせんとするのは、資本の不變的傾向である、何となれば同じ程度に於て餘剩労働が、又從つてそれから生ずる所の利潤が増加せられるからである。資本が労働日を延長するに成功すればする程、愈々大なる他人の労働の分量をそれは横

奪するであらう。十七世紀竝に十八世紀の始めの三分の二の間ですら、十時間の労働日は英國の全體を通じての普通の労働日であつた。事實に於ては英國の労働衆團に對し英國の貴族に依つて行はれたる戦争であつた所の反デジャコビン戦争の間、資本は其バックカスの祭を祝福した、そして労働日を十時間から十二時間、十四時間、十八時間に延長した。諸君が涙脆い感情主義を疑ふやうな人で決してなかつた所のマルサスは、凡そ一八一五年頃に公刊せられた一小冊子に於て、若しも斯くの如き事態が繼續するならば、國民の生命は恰かも其根源に於て駁撃さるゝと宣言した。新發明の機械の一般的實施の數年前、凡そ一七六五年頃、英國に於て、「商業論」と云ふ標題の下に、一小冊子が顯はれた。匿名の著者、自認せる労働階級の敵は、労働日の限度を擴張するの必要を熱心に説いて居る。此目的に對する他の手段の中、彼は労働場を提議し、是は「恐怖の家」たるべしと彼は云つて居る。然らば彼が此等の「恐怖の家」に規定する所の労働日の長さは如何なるものであるか。十二時間である、即ち一八三二年に於て資本家、經濟學者、竝に大臣に依つて當に現行の時間たるに止らず、十二歳以下の小供に對し必要なる労働時

間なりと宣言せられたと恰度同じ時間である。

彼の労働力を賣る事に依つて、又彼は現在の制度の下に於てはそうしなければならぬのであるが、労働者はその力の消費を資本家に委付するけれども一定の合理的限度に於て。彼は彼の労働力を、其自然的磨滅及び破損は別問題とし、之を維持せんが爲めに賣るのであつて、之を破壊する爲めてない。彼の労働力を其の日價值又は週價值にて賣るに際しては、一日又は一週に於てその労働力は二日の又は二週間の消耗又は磨滅及び破損の下に服従させられてない事が了解されて居る。今千磅の値ある機械を取つて見よ。若しもそれが十年間に使ひ盡されるならば、其生産に於て機械が援助した所の商品の價值に對し年々百磅を附加するであらう。若しもそれが五年間に使ひ盡されるは、それは年々二百磅を附加するであらう、換言すれば其の年々の磨滅及び破損の價值は、それが消費せらるゝ速さに對し逆比例する。併し乍ら此事は労働者を機械から區別する。機械はそれが使用せらるゝと精確に同じ比例にて磨損するものでない。人間は之れに反し、仕事の單純なる數字的合算から眼に見ゆるよりも、一層大なる比例に於て衰微する。

る。

労働者は、労働日を其以前の合理的大きさに減縮せんとする彼等の企に於て、又は彼等が正常労働日の法的確定を強制することの出来ない所に於ては、賃銀の騰貴に依つて、即ち強要せらるゝ餘剰時間に比例するのみならず、より大なる比例の賃銀の騰貴に依つて過剰労働を抑止せんとする企に於て、彼等自身及び彼等の種族に對する義務を果すに過ぎない。彼等は唯資本の暴君的篡奪に限界を設くるに止る。時間は人間の發達の場所である。自分の勝手になる自由時間を所有せず、其全一生は、睡眠、食事等に依る單なる生理的中斷を除けば、資本家に對する彼の労働に依つて吸収し盡さるゝ所の人間は、馱獸より劣つて居る。彼は他人の富を生産する單なる機械であり、肉體に於いて破壊せられ、精神に於て獸化せられる。而かも近代産業の全體の歴史は、資本は、若しも抑止せられざるや、全労働階級を此極度の墮落の状態に投げ落すべく、遠慮會釋なく無慈悲に行動すると云ふ事を示して居る。

労働日を延長するに際し、資本家は、より高き賃銀を支拂ふてあらう、而かも、賃銀

の騰貴が搾取せらるゝ労働のより大なる分量に之に依つて惹起せらるゝ労働のより迅速なる衰微に照應しないならば、労働の価値を低め得るのである。是れは他の方法に於ても爲され得る。英國の中流階級の統計家は、例へばランカシャーに於ける職工家族の平均賃銀は騰貴して居ると諸君に告げるであらう。彼等は、男子即ち家族の首腦の労働の代はりに、彼の妻及び恐らくは三四名の子供が今日資本のジャガノート(Juggernaut)の車輪の下に投ぜられて居る事、而して總體の賃銀の騰貴は家族から搾取せらるゝ總體の餘剰労働に照應して居ない事を忘るゝものである。

今日工場法の下に服せられて居る凡ての産業部門に於て存在するが如き、労働日の一定限度を以てするも、昔の標準的の労働の価値を保つに過ぎざる爲めには、賃銀の騰貴が必要となつて来る。労働の強度の増加に依つて、人は、彼が以前二時間に費したと同じだけの生命力を一時間に費すやうにさせられる。此事は一定の程度迄、工場法の下に置かれたる事業に於ても機械の加速度、並に單一の個人が今日監督すべき所の作業機械のより大なる數に依つて、作用せられて居る。若し

も労働の強度の増加又は一時間の中に費さるゝ労働量の増加が、労働日の範圍に於ける増加に對し或る適當なる比例を保つならば、労働者は猶ほ獲利者たるであらう。若しも此限度が踏み越さるゝならば、彼は一の形態に於て得た所のものを他の形態に於て失ふのである、又そこで十時間の労働は十二時間の労働が以前なしたと同様に破滅的となるであらう。高まり行く労働の強度に照應した賃銀の引上の爲めに戦ふ事に依り、資本の此傾向を抑止する事に於て、労働者は、彼の労働の減價並に彼の種族の退化に抗争するに過ぎない。

四 諸君の凡ては、私が今説明するを許されざる所の理由からして資本家的生産は一定の週期的循環を通じて動く事を知つて居られる。それは平靜、增加的活氣、好況、事業過剩、恐慌並に停滯の状態を通じて動く。商品の市場價格、並に利潤の市場率は、今其平均の下に低落するも、總て其上に騰貴するが如くして、此等の段階に従つて行く。此全體の循環を考察するに、諸君は市場價格の一偏倚は他の偏倚に依つて補填せられると云ふ事、又循環の平均を取つて見るに、商品の市場價格は其價值に依つて制規せられると云ふ事を發見するであらう。さて！ 低落的市

場價格の段階、並に恐慌と停滯の時期に於て、労働者は、全然職業から投げ出されな
いならば、確かに彼の賃銀を引下げられる。彼は、僞瞞せられない爲めには、斯くの
如き市場價格の下落に際しても、如何なる比例的程度に於て賃銀の下落が必要と
なつたかを、資本家と論争しなければならぬ。若しも特別利潤が得らるゝ好況の
時期に於て、彼が賃銀の引上の爲めに戦はなかつたのならば、産業の一循環の平均
を取るに、彼は彼の平均賃銀、又は彼の労働の價值すら受取らないであらう。彼の
賃銀は循環中の不況時代に依り必然的に影響さるゝにも拘はらず、循環中の好況
時代には補償から除外せらるべしと要求するのは、愚の骨頂である。一般に、凡て
の商品の價值は、單に、需要と供給の不斷的動搖から生ずる所の、不斷に變化する市
場價格の相殺に依つてのみ實現せられる。現在制度の基礎の上では、労働は他の
物と同じやうに一の商品に過ぎない。是れが故に、労働は其價值に照應する所の
平均價格を獲得する爲めには、同様の變動を通過しなければならぬ。一方に於て
は労働を一の商品として取扱ひ、他方に於ては商品の價格を制規する所の法則か
ら之を除外せんとするのは、無稽な話である。奴隷は生活資料の永久且つ固定の

分量を受取る、賃銀労働者は之を受取らない。彼は、單に他の、場合に於ける賃銀の
下落を補填する爲めに止るにしても、一の場合に於て賃銀の引上を獲べく試みな
ければならぬ。若しも彼が資本家の意志、命令を、一の永久的經濟法則として受認
すべく甘受するならば、彼は奴隷の保證を得ずして、奴隷の凡ての貧困を分つてあ
らう。

五 私が考察して來た凡ての場合に於て、又それは百中の九十九をなして居る
が、諸君は以下の事を見られたであらう、即ち賃銀引上に對する戦は之に、先、立つ諸
變化の跡を追ふてのみ生ずるものであり、又生産の分量、労働の生産力、労働の價值、
貨幣の價值、搾取せらるゝ労働の大きさ又は強度、需要と供給の動搖に關係し又産業
の循環の各種時期一致する市場價格の動搖に於ける先行變化の必然的產物であ
ると云ふ事を、一言を以てすれば、資本の先行行動に對する労働の反動として、賃
銀の引上に對する戦を凡ての此等の事情から無關係に取扱ひ、賃銀の變化のみを
觀察し、そが起る所の凡ての他の變化を看過する事に依り、吾々は間違つた前提か
ら出立し間違つた結論に到達するものである。

十四 資本と労働との闘争並に其結果

賃銀の引下に對する労働者の側に於ける週期的抗争並に賃銀の引上を獲んとする彼等の週期的企は、賃銀制度からは不分離のものであり、又労働は商品と同一視せられ、又是れが故に價格の一般的運動を制規する所の諸法則に服従すると云ふ其事實に依つて促進せられる事を示した、進んで、賃銀の一般的騰貴は利潤率の一般的下落を結果に有する、けれども商品の平均價格又は其價值に影響しない事を示したが、今問題は究極に於て起つて來る、即ち資本と労働との間に於ける此の不斷の闘争に於て如何なる範圍迄後者は成功し得る見込があるかと云ふ事である。

私は一般化して答へ、且つ次の如く言ひ得るであらう、即ち凡ての他の商品に於ける如く、労働に付いても、其市場價格は長い間には、其價值に順應する、是れが故に凡ての一高一低に拘はらず、又縱令労働者が如何なる事をなそうとも彼は平均に於ては、唯彼の労働の價值を受取るに過ぎない、それは彼の労働力の價值に歸着し

そは其維持及び再生産に必要な必需品の價值に依つて決定せられ、其必需品の價值は結局之を生産するに要せらるゝ労働の分量に依つて制規せられる。

併し乍ら労働力の價值又は労働の價值を、凡ての他の商品から區別する所の二三の特殊の性質がある。労働力の價值は二個の要素から形成せられる——其一是單に生理的であり、他は歴史的又は社會的である。其窮極の限度は肉體的要素に依つて決定せられる、換言すれば、それ自身を維持し且つ再生産する爲めには、其肉體的存在を續ける爲めには、労働階級は生存並に繁殖に對し絶對的に必要缺く可らざる必需品を受取るねばならぬ、是れが故に、夫等の必要缺く可らざる必需品の價值は労働の價值の究極の限度を形成する。他方に於て、労働日の延長も亦究極のとは云へ甚だ弾力性ある境界に依つて限定せられる。其究極の限度は労働者の生理的力に依つて與へられる。若しも彼の生命力の日々の消盡が一定の程度を超すと、それは一日一日と新奇に行はれる事が出來ない。けれども、私が言つた如く、此限度は甚だ弾力性がある。不健康な且つ短命な代々の迅速なる繼承は、壯健な且つ長命の代々の一系列と同じやうに、労働市場に供給を續け得るであ

らう。

此單純なる生理的要素の外に、勞働の價值はあらゆる國に於て一の因襲的、生活程度に依つて決定せられる。それは單純なる生理的生活でない。それは人々が生活し且つ育てられた所の社會的狀態から生ずる一定欲望の満足である。英國の生活程度は愛蘭の生活程度に貶され、獨逸の農民の生活程度はリグアニアの農民のそれに貶され得るであらう。歴史的因習竝に社會的習慣が此點に於て演ずる所の重大なる役割に就いては、諸君はソントン氏の人口超過に關する著述から學び得るであらう、彼は同書に於て、英國の種々の農業地方に於ける平均賃銀は、其地方が農奴の狀態から脱出した事情の有利の多少に従ひ、今日に於ても猶ほ多少相異なる事を示して居る。

勞働の價值の中に進入する所の此歴史的又は社會的要素は、膨脹せられ又は收縮せられる、或は生理的、限度の外何物も残らないやうに、全然消滅させられるであらう。反デヤコピン戦争⁽¹⁾時代に於て、濟度し難き租税喰ひてあり、尸位素餐者であつた老デョーロイゾが云ひつけて居た如く、吾々の神聖なる宗教の悅樂を拂

蘭西の不信者の侵略から救ふ爲めに、此前の吾々の會議に於て非常に優しく取扱れたる、正直な英國の農民達は、農業勞働者の賃銀をその單純なる生理的の最少限度迄にすら押し下げた、併し乍ら救貧法に依つて、種族の生理的永續に必要な残余を補充した。是れは賃銀勞働者を奴隸に、シエクスピアの傲慢なる百姓を被救恤者に轉化するの光榮ある方法であつた。

諸種の國に於ける標準賃銀又は勞働の價值を比較する事に依り、又同じ國の違つた歴史時期に於ける夫等を比較する事に依つて、諸君は、勞働の價值、自體は、縱令凡ての他の商品の價值は不變の儘であると假定してさへ、固定した大さでなく、可變の大さである事を發見するであらう。

同様の比較は、常に利潤の市場率のみならず、其平均率も變化する事を證明するであらう。

併し乍ら利潤に關しては、其最少限度を決定すべき所の法則は存在しない。吾々は利潤の減少の究極の限度は何であるかを言ふ事が出来ない。然らば何故に吾々はその限度を確定し得ないのであるか。吾々は賃銀の最少限度を確定し得

るに拘はらず、吾々は其最大限度を確定し得ないが故に。吾々は唯、労働日の限度が一定ならば利潤の最大限度は賃銀の生理的最低限度に照應する、又賃銀が一定ならば利潤の最大限度は労働者の生理的力と一致するが如き労働日の延長に照應すると云ひ得るに過ぎない。是れが故に利潤の最大限度は賃銀の生理的最低限度並に労働日の生理的最大限度に依り限定せられる。此の利潤の最大限度率の二個の限界間に於て、變動の尨大なる段階が可能なるは明白である。其の現實の程度の確定は唯資本と労働との間に於ける繼續的闘争に依つてのみ決定せられる、即ち資本家は絶えず賃銀を其生理的最低限度に貶下し、又労働日を其の生理的最大限度に擴張せんと志して居る、然るに労働者は絶えず反對の方向に壓迫して居る。

事柄は闘争者の各自の力の問題に歸着する。

二 英國に於ける労働日の制限に關しては、凡ての他の國に於けるが如く立法的干涉に依るを除いては、それは決して決定せられなかつた。外部からの労働者の繼續的壓迫なしでは、その干涉は決して起らなかつたであらう。併し乍ら兎も

角、此結果は労働者と資本家との間に於ける私的の協定に依つては達成せられるべきものでなかつた。一般的政治的行爲の此必要こそ、單に經濟的なる行爲に於ては資本がより強者の側であると云ふ證據を提供して居る。

労働の價値の限度に關しては、其現實の決定は常に供給と需要に關係する、私は資本の側に於ける労働の需要並に労働者に依る労働の供給を意味する。植民地に於ては、供給及び需要の法則は労働者に幸する。是れが爲めに合衆國に於ける比較的の高い賃銀標準が有る譯だ。資本は其處に於ても其極度を試みるであらう。資本は賃銀労働者の自立、自存の農民への轉化に依つて、労働市場が絶えず空虚にせられるを防止することは出來ない。賃銀労働者の地位は亞米利加人の甚だ大なる部分にとつては、彼等が早晚の中に棄つるに違なき所の一の見習期間に過ぎない。此植民地の事態を匡正する爲めに、本國たる英國の政府は暫くの間、近世植民理論と稱せらるゝ所のものを採用した、此理論は賃銀労働者が餘りに早く自立的農民に轉化するを阻止する爲めに、植民地に對し人爲的に高い價格を課する事の中に存するのである。

併し乍ら今吾々をして、資本が生産の全過程を支配する所の舊文明國に、來らしめよ。例へば、一八四九年から一八五九年に至る英國に於ける農業賃銀の騰貴を取つて見よ。其結果は如何であつたか。農民は、吾が同志ウェストンが彼等に忠告すべかりし様に、小麥の價値も、又市場價格すらも引上げる事が出来なかつた。彼等は反對に、其下落に服従した。併し乍ら此十一年間に、彼等は凡ての種類の機械を實施し、より科學的方法を採用し、耕地の一部を牧地に轉化し、田畑の廣さを増加し、又之と共に生産の規模を増加し、又此等及び其他の過程に依り、其生産力の増加に依つて労働に對する需要を減少し、農業人口を再び比較的に饒多ならしめた。是れが賃銀の騰貴に對する、遲速の差はあれ、資本の反動が昔の開化國に於て起る所の方法である。リカルドは正當に、機械は労働と不斷の競争をなし、又屢々労働の價格が一定の高さに到達したる時にのみ實施せられ得る事を注意した。併し乍ら機械の應用は労働の生産力を増加する多くの方法の中の一に過ぎない。普通労働を比較的に饒多ならしむる此同じ發達が、他方に於て、熟練労働を簡單化し、又斯くて之を減價せしめる。

同一の法則が他の形態に於て行はれる。労働の生産力の發達と共に、資本の集積は實に比較的の高き賃銀率にも拘はらず速力を加へられる。是に因つて、其當時には近世産業は尙ほ其幼稚時代に在つた所のアダム・スミスが推量した如く、資本の加速的集積は労働に對する需要の増加を保證する事に依つて、労働者の利益の方に傾かなければならぬと、推量せられ得るであらう。此同じ立脚點からして多くの時代の著述家は、英國の資本は過去二十年間に於て英國の人口より遙かに増大したに拘はらず、賃銀が前より騰貴して居ない事を怪んで居る。併し乍ら集積の進行と同時に、資本の組成の中に、前進的變化が起るのである。固定資本、即ち機械原料並に凡ての可能なる形態に於ける生産手段から成立する所の、全體の資本の其部分は、賃銀に又は労働の購買に支出さるゝ所の、資本の他の部分と比較し、前進的に増加する。此法則は、其形に於て精確の多少の違はあるが、バートン氏、リカルド、シスモンデ、リッチャード、デヨン教授、ラスメー教授、シャープリエー並に其他の人々に依つて述べられてゐる。

若しも此等資本の二個の要素の比例が素々一對一であつたとするならば、それ

は産業の進歩につれ、一對五、又其他の比例になるであらう。若しも六百の總資本の中三百が器具、原料等に支出せられ、三百が賃銀に支出されたとしたならば、三百人に對する代はりに六百人の労働者に對する需要を作る爲めには、總資本は僅か二倍せらるるを要するに過ぎない。然るに若しも六百の資本の中、五百が機械、原料等に支出せられ、僅か百が賃銀に支出されたとしたならば、三百人の代はりに六百人の労働者に對する需要を作る爲めには、同じ資本は六百から三千六百に増加しなければならぬ。是れが故に、産業の進歩に於ては、労働に對する需要は資本の集積と歩調を合はさない。それは猶ほ増加するであらう、けれども資本の増加に比較しては絶えず減少し行く比例を以て増加する。

此等の僅少の暗示は、恰かも近世産業の進歩が漸進的に労働者に對し資本家の利益のやうに秤を向けなければならぬと云ふ事、又其結果資本家的生産の一般的傾向は、賃銀の平均標準を高めずして、却て之を低める、又は労働の價値を多少其の最少限度に推進せしめると云ふ事を示すに充分である。此制度に於ける事物の傾向が斯くの如きである時、労働階級は資本の蠶食に對する彼等の抗争を斷念し

又彼等の時折の一時的改善に對する機會を最善に利用する彼等の企畫を棄つべきである、と云はれた事であらうか。若しも彼等がそれをしたならば、彼等は濟度し難き、破れたる薄俸者の、一の差別なき群に墮落するであらう。私は既に、賃銀の標準に對する彼等の闘争は全體の賃銀制度からは離す事の出来ない事件であり、百の場合の中九十九迄は、賃銀を引上げんとする彼等の努力は與へられたる労働の價値を維持せんとする努力に過ぎないと云ふ事、又彼等の價格を資本家と争ふの必要は、彼等自身を商品として賣らねばならぬと云ふ彼等の状態に附物だと云ふ事を示したと考へる。彼等の資本家との毎日の軌轢に於て卑怯に勝を讓る事に依り、彼等は確かに、何等かより大なる運動の開始に對し資格を失ふであらう。之と同時に又労働階級は賃銀制度の中に包含せらるゝ一般的屈從から全然離れ、此等の毎日の闘争の究極作用を自分に誇稱してはならない。彼等は、彼等が結果の爲めに戦つて居るが、其結果の原因と戦つて居るのでないと云ふ事、彼等は下向運動を阻止しつゝあるが、其方向を變へて居るのでないと云ふ事、彼等は姑息法を用ゐるのであつて、疾患を治療して居るのでないと云ふ事を忘れてはならぬ。

是れが故に、彼等は資本の止む事なき蠶食又は市場の變化から絶えず起る所の、此等の避く可らざるゲリラ戦⁽³⁾に専ら没頭してはならない。彼等は、彼等の上にも、それが課する所の凡ての貧困と共に、現在制度は同時に、社會の經濟的改造に對し必要なる物質的諸條件並に社會的諸形態を産む事を理解しなければならぬ。「正當なる一日の労働に對し正當なる一日の賃銀」と云ふ保守的格言の代はりに、彼等は其大旗の上に、「賃銀制度の廢止！」なる革命的標語を記さねばならぬ。

私が主題に對し正鵠を得る爲めに論入するを餘議なくせられた所の、此甚だ長い、且つ恐らくは退屈な解説の後に、私は以下の斷定を提出する事に依つて結論を與へるであらう。

第一 賃銀率の一般的騰貴は、利潤の一般率の下落を結果に有するであらう、併し乍ら廣く言ふと、商品の價格には影響を與へない。

第二 資本家的生産の一般的傾向は、賃銀の平均標準を高めずして、却つて之を

低める。

第三 労働組合は資本の蠶食に對する抗争の中心として善く働く。彼等は彼等の力の思慮なき使用に依つて部分的に失敗する。彼等は自らを現存制度の結果に對するゲリラ戦に限定し、同時に之を變化するを試みる事なく、労働階級の結局の解放、換言すれば賃銀制度の究極の廢止に對する一槓杆として、彼等の組織的力を使用する事なくんば、彼等は一般的に失敗する。

貨銀勞働及資本

安倍浩譯

價值、價格及利潤
終

賃銀労働及資本

諸種の方面からして世人は、吾々が今日の階級闘争及び國民闘争の物質的基礎を形成する所の、經濟的、關係を叙述して居らないと、吾々を批難する。吾々は、經濟的關係が政治的衝突の裡に直接に突進する時に於てのみ、此關係に秩序的に觸れて來た。

此事は就中日常の事件に於ける階級闘争を追究するのに適用せられた、而して既存の又日々新たに造らるゝ歴史的材料に基づいて、二月と三月が作つた所の労働者階級の征服と共に、同時に其反對者——佛蘭西に於けるブルジョア共和主義者、封建的絶對主義に敵對する全歐羅巴大陸に於ける市民及び農民階級が征服せられた事を、又佛蘭西に於ける「真正共和國」の勝利は同時に、二月革命に對し英雄的獨立戦争を以て答へた所の諸國民の没落であつた事を、又最後に歐羅巴は革命的労働者の征服と共に其昔時の二重奴隸即ち英國、露西亞の奴隸に逆戻りした事を、經驗的に論證するのに適用せられた。巴里に於ける七月闘争、維納の陥落、一

八四八年十一月伯林の悲喜劇、波蘭、伊太利及匈牙利の絶望的緊張、愛蘭の飢饉——此等は、其中にブルジョアジーと労働者階級との間に於ける歐羅巴の階級闘争が包括される所の主要素である、之に基づいて吾々は、あらゆる革命的騷擾は、縦令其目的が階級闘争から非常に距離があるやうに見えても、革命的労働者階級が勝利を得る迄は蹉跎しなければならぬ事を、又あらゆる社會的改革は、プロレタリアの革命と封建的反革命が一の世界戦争に於て武器に依り雌雄を決するに至る迄は一のユトピアたるに止る事を論證した。現實に於けるが如く、吾々の叙述に於て白耳義と瑞西は大きな史實的圖表に於ける悲喜劇的戲畫的浮世繪であつた、即ち一はブルジョア君主國の模範國であり、一はブルジョア共和國の模範國であつて兩者共に、歐羅巴の革命に無關係なると同じく、階級闘争とは無關係だと夢想した所の國家である。

吾々の讀者が、一八四八年に於ける階級闘争が尨大なる政治的形態の裡に發展し行くを見てしまつた現在では、労働者の奴隸制度と等しくブルジョアジーの生存並に其の階級支配が基くところの、經濟的關係自體に、より詳細に論入すべき時

である。

吾々は三大部門に別つて叙述するであらう、一、賃銀労働の資本に對する關係、即ち労働者の奴隸制度、資本家の支配、二、現今の制度の下に於ける中間的的市民階級及び農民階級の避く可らざる没落、三、世界市場の専制君主——英國に依る諸種歐羅巴國民のブルジョア階級の商業的從屬及び擄取。

吾々は出来るだけ簡単に且つ通俗的に叙述せんと試みるであらう、又經濟學の最要素的なる觀念をさへ前提にしないであらう。吾々は労働者に諒解せらるゝ事を欲するのである。且又獨逸に於ては、最も簡單なる經濟的關係に關する、最も注意に價ひすべき無識と觀念混同が、上は現行狀態の特權附けられた辯護者から下は社會主義的田舎者及び誤解されたる政治的天才に至る迄行はれて居る支離滅裂の獨逸國は元首よりも更に此等の者に富んで居るのである。

即ち先づ第一の問題に來る、賃銀とは何であるか。如何にして、夫れは決定せられるか。

若し人が労働者に「君の賃銀は幾何であるか」と問ふ時、彼等は答へるであら

う、或者は「自分は自分のブルジョアから労働日に對し一フランを受取る」と、或者は「自分は二フランを受取る」と又そう云つた事を。彼等が従属する所の異りたる労働部門に従つて、彼等は、彼等が一定の労働の作出に對し、例へば一ヤードの麻布を織ること、或は一ボーゲンの植字に對し、彼等の現在のブルジョアから受取る所の種々の金額を擧げるであらう。彼等の表示の相異にも拘はらず、彼等凡ては一點に於て一致して居る、即ち労働はブルジョアが一定の労働時間或は一定の労働給付に對し、支拂ふ所の貨幣の額である。

即ちブルジョアは彼等の労働を貨幣を以て買ふ。貨幣に換えて彼等はブルジョアに自分の労働を賣る、ブルジョアが彼等の労働を買つたと同一の貨幣額を以つて、例へば二フランを以て、彼は二磅の砂糖或は他の商品を一定の量迄買ふことが出来たであらう。彼が二磅の砂糖を買つた所の二フランは、二磅の砂糖の價格である。彼が十二時間労働を買つた所の二フランは、十二時間の労働の價格である。即ち労働は砂糖に敗けず劣らず商品である。人は前者を時計を以て測り、而して後者は衡器を以て秤られる。

労働者は彼等の商品労働を、資本家の商品貨幣と交換する、而かも此交換は一定の割合に於て生ずる。労働だけの貨幣を、十二時間の機械に對して二フランと云ふ風に。而して二フラン、夫等は私が二フランを以て買ひ得る凡ての他の商品を代表して居るのではないか。即ち實際に於て労働者は、彼の商品即ち労働を凡ての種類の商品と交換したのだ、而かも一定の割合に於て。ブルジョアが労働者に二フランを與へる事に依つて、彼は労働者に、其労働日との交換に於て若干の肉、若干の衣服、若干の薪炭、燈火等を與へたのである。して見ると二フランは、労働が他の商品と交換せらるゝ所の割合、即ち彼の労働の交換價值を表現して居る。貨幣に評價せられたる一個の商品の交換價值は、正に其價格と稱せらる。即ち労働は労働の價格に對する、即ち人間の肉と血以外の容器を有しない、此特別な商品に對する特殊の名稱に過ぎない。

吾々は任意の労働者例へば一人の織工を採つて見やう。ブルジョアは彼に織機と絲を供給する。織工は労働に従事し而して絲から麻布が出来る。ブルジョアは麻布を自分の物とし、之を例へば二十フランに賣る。然らば織工の労働は麻

布、即ち二十フラン、即ち彼の労働の生産物に對する分前であるか。決してそうでない。麻布が賣られる久しい以前に、恐らくそれが織上げらるゝ久しい以前に、織工は彼の労働を受取つて居る。即ち資本家は此の賃銀を、彼が麻布から獲る所の貨幣を以てせずして、準備したる貨幣を以て支拂ふ。織機や絲は、ブルジョアから此等を供給せられた所の織工の生産物でないと同様に、彼が交換に於て彼の商品、即ち彼の労働に對し受取る所の商品は彼の生産物でない。ブルジョアが彼の麻布に對し一人の買手をも發見し得なかつた事は、あり得るであらう。彼が労働をさへ麻布の賣却に依つて捻出しなかつたと云ふ事は、あり得るであらう。彼が之を織賃と比較して非常な利益に賣る事はあり得る。凡て此等の事は職工に關係が無い。資本家は彼の既存の財産、即ち彼の資本の一部を以て職工の労働を買ふ、恰かも彼が彼の財産の他の部分を以て原料——絲——及び労働器具——織機——を買ひ求めたと同様である。彼は此の買求を爲してから、而して此買求の中には麻布の生産の爲めに必要な労働が屬して居るが、彼は彼に屬して居る原料と労働器具とを以て生産する。而して實に吾々の善良なる職工は此後者に屬する、

彼は生産物或は生産物の價格に對しては、織機と同じく何の分前をも有しない。即ち労働は労働者に依つて生産せらるゝ商品に對する彼の分前ではない。労働は、之に依り資本家が生産的労働の一定量を自分に買ふ所の既に存在する商品の一部である。

即ち労働は労働の所有者、即ち賃銀労働者が資本に賣る所の商品である。何故に彼はそれを賣るか。生きんが爲めである。

併し乍ら労働は労働者の特有なる生活活動、即ち彼特有の生活表現である。而して此生活活動を彼は、自分に必要な生活資料を保證せんが爲めに、第三者に賣るのである。即ち彼の生活活動は彼にとつて、生存し得る爲めの一手段に過ぎない。彼は生活する爲めに労働する。彼は労働を彼の生活の中に計算しない、それは寧ろ彼の生活の一犠牲である。労働は彼が第三者に賣りつけた所の一商品である。是れが故に彼の活動の生産物は、又彼の活動の目的でない。彼が自分自身の爲めに生産する所の物は、彼が織る所の絹でもない、彼が鑛山から取り出す所の金でもなく、彼が建築する所の宮殿でもない。彼が自分自身の爲めに生産する所

の物は、勞銀である。而して絹布、金塊、宮殿は彼の爲めに生活資料の一定量即ち恐らく木綿の襪衣に、銅貨に又地下室に變轉する。而して十二時間織つたり、紡いだり掘鑿したり、廻轉したり、建築したり、シャベルを使ひ、石を割り、運搬をしたりなどする勞働者——彼に對し、此十二時間の機織、紡績、掘鑿、廻轉、建築、シャベルの使用、石割が彼の生活の表現、彼の生活として通用するであらうか。其反對である。生活は彼にとつて、此活動が休止した時、即ち食卓に、居酒屋の腰掛に、寢床の中に開始する。之に反して十二時間の勞働は彼に對し、機織、紡績、掘鑿等として何等の意義を有せず、彼をして食卓に、居酒屋の腰掛に、寢床に齎らす所の勤勞として意義を有する。若しも蠶が幼蟲としての其生存を永くする爲めに紡ぐのであるならば、彼は完全なる賃銀勞働者であらう。

勞働は必ずしも商品たるのでない。勞働は必ずしも賃銀勞働換言すれば自由勞働でない。奴隸は彼の勞働を奴隸所有者に賣らざる事、恰かも牝牛が其勤勞を農夫に賣らざると同様である。奴隸は彼の勞働と共に、一纏めにして彼の所有者に賣られる。彼は、一人の所有者の手から他の所有者の手に移轉し得る所の、一商

品である。彼、自身、一の商品である、併し乍ら勞働は彼の、商品でない。農奴は單に彼の勞働の一部分を賣るに過ぎない。彼は賃銀を土地の所有者から受取らない、即ち土地の所有者は寧ろ彼から一の貢賦を受取るのである。農奴は土地に從屬する、而して土地の主人に果實を收める。自由勞働者は之に反して自分自身を賣る、而かも切れ切れに。彼は今日も明日も彼の生活の八、十、十二、十五時間と、最も多く給與する者に、原料、勞働器具及び生活資料の所有者に、換言すれば資本家に、擧上げて行く。勞働者は所有者にも又土地にも從屬しない、併し乍ら彼の日々の生活の八、十、十二、十五時間は、それを買つた人に從屬する。勞働者は、彼が欲する毎に、彼が自分を賃貸して居つた所の資本家から去る、又資本家は、彼が都合善いと思ふ時に、彼が何等の利益を、或は最早所期の利益を勞働者から抽出せざるや否や、之を解雇する。併し乍ら其唯一の所得源泉が勞働の賣却である所の勞働者は、彼の生存を斷念する事なくして、買手の全體階級換言すれば資本家階級を棄つることが出來ない。彼は甲或は乙のブルジョアに屬しない、併し乍らブルジョア階級に屬する、而して此場合自身を主人の許に持參する、換言すれば此ブルジョア階級中に一

人の買手を發見することが彼の仕事である。

吾々が今資本と賃銀労働との關係をより詳細に論入する前に、吾々は簡単に、労働の決定に際し考慮せらるべき最も一般的な關係を叙述するであらう。

労働は、吾々の見たる如く、一定の商品即ち労働の價格である。則ち労働は、吾々の他の商品の價格を決定すると同一の法則に依つて決定せられる。然らば、商品の價格は如何にして決定せらるゝか、の問題が起つて来る。

一商品の價格は何に依つて決定せらるゝか

買手と賣手との競争に依つて、需要の供給に對する關係、即ち供給の要求に對する關係に依つて決定せられる。依つて以て一商品の價格が決定せられる所の競争は、三つの方面を有する。

同一の商品は諸種の賣手に依つて提供せられる。同質の商品を最も廉價に賣る所の者は、他の賣手を競争場裡から驅逐し又自分に最大の販路を確保する事が確かである。即ち賣手は相互に販路即ち市場の爲めに争ふ。彼等の各々は賣らん事を欲する、出来るだけ多く賣らん事を欲する、而して出来れば他の賣手を排斥

して一人で賣らん事を欲する。是れが故に、或者は他の者よりは廉價に賣る。即ち賣手の間に、一の競争が発生する、是れは彼等に依つて提供せらるゝ商品の價格を低下せしめる。

併し又買手の間にも、一の競争が起る、是れは是れて提供せられたる商品の價格を騰貴せしめる。

最後に買手と賣手との間に、一の競争が起る、前者は出来るだけ廉價に買はんと欲し、後者は出来るだけ高價に賣らんと欲する。賣手と買手との間の此競争の結果は、兩方の前に述べたる競争の方面が如何なる状況であるか、換言すれば果して買手の軍團内に於ける競争か、或は賣手の軍團内に於ける競争か、孰れが強烈なるかに關係して居る。工業は二個の軍隊を戰場に對陣せしめ、兩軍の各々は夫れ自身の隊伍内に於て夫れ自身の兵卒の間に干戈を交へて居る。其兵卒の間に最少の戦闘が行はるゝ、軍隊が之と對立する軍隊の上に勝利を荷ふのである。

市場に百梱の棉花と同時に千梱の棉花に對する買手が有ると假定して見やう、即ち此場合に於ては需要は供給の十倍である。されば買手の間に於ける競争は

甚だ強いであらう、彼等の各々は一柵を出来るならば凡て百柵を自分に奪はんと欲する。此例は決して出鱈目な假定でない。吾々は商業史に於て棉花の凶作の時期を経験して居る、此時には二三の互に聯合した資本家が、百柵どころでなく、世界の全體の棉花在荷を自分に買ひ求めやうと試みたのである。上述の場合に於ては即ち、買手は比較的により高き価格を棉花の柵に提供して、他の買手を戦場から驅逐せんと試みるであらう。敵の軍團の兵卒が互に最も激烈な闘争に在るを眺め、且つ彼等の百柵全體の賣捌が完全に保證されてある所の棉花の賣手は、彼等の敵が棉花の価格を競り上げんと互に競争して居る其瞬間に、自分等も互に軋轢に陥つて、棉花の価格を低下さすと云ふ事のないやうに氣を附ける。そこで賣手の軍團の間には突然の平和が歸つて来る。彼等は買手に向つて一人の如くに對立し、哲學的に腕を組む、而して彼等の要求は最も必迫的な買手の申出自身が極めて一定された限界を有しない限り、其限界を發見しないであらう。

即ち一商品の供給が此商品に對する需要より弱い時には、賣手の間には極めて微弱な競争が起るか或は全然起らない。此競争が減少すると同じ割合に於て、買

手の間に於ける競争は増加する。結果は即ち大なり小なり著しき商品價格の騰貴である。

之と反對の結果を伴ふ反對の場合が、より屢々生ずる事は熟知せられて居る。需要に對する供給の著しき過剩即ち賣手の間に於ける絶望的競争、買手の缺乏、即ち法外價格に於ける商品の投賣。

併し乍ら價格の騰貴、下落とは何の事であるか。高い價格、低い價格とは何の事であるか。一粒の砂も顕微鏡で見れば高く、又塔も山と比較すれば低い、而して價格が需要及び供給の關係に依つて決定せらるゝも、何に依つて需要と供給の關係は決定せられるか。

先づ一流の最善の市民に向つて見やう。彼は一瞬間たりとも考慮する事なく、第二のアレキサンダー大王の如く、此形而上學的紛糾を九々の表を以て一刀兩斷するであらう。彼は云ふであらう「若し私の賣る所の商品の作出が、私に百フランを用費し、而して私が此商品の賣却に依つて百十フランを得たならば、是れが一年の期間後である事は勿論である——それは通常な、正直な、正當の利得である。

併し乍ら若し私が交換に於て百二十フラン、百三十フランを得るならば、それは一の高い利得である、而して私が實に二百フランを得るならば、それは異常な、以外な利得である。」して見ると何が此の市民に對し利得の標準として役立つのであるか。彼の商品の生産費である。若しも彼が此商品の交換に於て、其作出がより少く用費した所の他の商品の或る量を得るならば、彼は損をしたのである。若しも彼が彼の商品に對する交換に於て、其作出がより多く用費した所の他の商品の或る量を得るならば、彼は儲けたのである。而して利得の下落或は騰貴を、彼は彼の商品の交換價值が零の點——生産費——の以下に在るか或は上に在るかの程度に従つて、計算するのである。

吾々は今、需要及び供給の變動的關係が或は價格の騰貴を、或は價格の下落を即ち或は高い價格を、或は低い價格を喚起する事を見た。若しも一商品の價格が缺乏せる供給或は尅大に増加する需要に依つて著しく騰貴するならば、或る他の商品の價格は必然的に之に比例して下落する、何となれば一商品の價格は實に第三の商品が交換に於て其商品に對し與へらるゝ所の割合を唯貨幣に於て、表現する

に過ぎないからである。例へば一ヤードの絹布の價格が五フランから六フランに騰貴したならば、銀の價格は絹布との關係に於て下落する、又同様に其舊價格に止つて居る所の凡ての他の商品の價格は、絹布との關係に於て下落する。人は、絹商品の同一量を獲る爲めには、交換に於て他の商品のより大なる量を與へねばならぬ。一商品の昇騰的價格の結果は何であらうか。資本の多量が繁盛しつゝある工業部門の上に投ぜられる、而して利益ある工業部門の範域への資本の此移動は、それが普通の利得を生ずるか、或は寧ろ、彼等の生産物の價格が過剰生産に依つて生産費以下に沈下する迄、繼續するであらう。

之と反對の場合を云はん。若しも一商品の價格が其生産費以下に下落するならば、資本は此商品の生産から退くであらう。一工業部門が最早時代に適しない場合、即ち没落せなければならぬ場合を除いては、資本の此逃避に依つて、斯の如き商品の生産は、換言すれば其供給は、それが需要に適應する迄、即ち其價格が再び其生産費の高さに向上する迄、或は寧ろ供給が需要以下に低落する迄、換言すれば一商品の市價は、常に其生産費の上か、或は下に立つものである、からして、其價格が再

び其生産費以上に昇騰する迄減少するであらう。

吾々は資本が絶えず一工業の範域から他の範域へと出たり入つたりすることを見た。高い価格は餘りに強き移入を喚起し、低い価格は餘りに強き移出を喚起する。

吾々は、一他の視點からして、常に供給のみならず、需要も亦生産費に依つて決定せられる事を示し得る。併し乍ら此事は吾々をして、餘りに遠く吾々の對象から傍道に外らしめるであらう。

吾々はたつた今、供給及び需要の動搖は一商品の價格を常に生産費に還歸せしめる事を見て來た。一商品の實際價格は常に生産費の上か下に在るものであるが、併し騰貴と下落は互に相殺し合ふ、其結果一定の時期の間に於ては、工業の干潮と満潮を合算するならば、商品は其生産に對應して相互に交換せられる、即ち其價格は其生産費に依つて決定せられるのである。

生産費に依る此價格決定は、經濟學者の意義に理解してはならぬ。經濟學者は商品の平均價格は生産費に等しい、是れが法則であると云ふ。騰貴は下落に依り、而

して下落は騰貴に依つて平均さるゝ所の無政府的運動を、彼等は偶然と看做すのである。吾々は同様の權利を以て是れが他の經濟學者からも亦爲さるゝ如く、動搖を法則とし、生産費に依る決定を偶然と看做すことが出来る。併し乍ら此動搖のみが、――より詳密に觀察すれば、最も恐るべき破壊を伴ひ又地震の如くにブルジョア社會を其根底に於て震撼せしむる此動搖のみが其經過の中に價格を生産費に依つて決定するのである。此不秩序な總體運動が其秩序である。競争は此産業的無政府の經過に於て、即ち此圓周運動に於て、云はゞ一の異常を他の異常に依つて平均する。

即ち吾々は、一商品の價格は、此商品の價格が生産費以上に騰貴する時間は、此價格の生産費以下に沈下する時間に依つて平均される、且つ此逆であると云ふ風に、其生産費に依つて決定せらるゝ事を見る。此事は勿論、各個の與へられたる工業生産物に對し通用するのでなく、單に全體の工業部門に對して通用する。従つて又個々の工業家に對して通用するのでなく、單に工業家の階級全體に對して通用するのである。

生産費に依る価格の決定は、一商品の作出の爲めに必要な労働時間に依る価格の決定に等しい、何となれば生産費は(一)原料及器具換言すれば其作出が労働日の一定量を用費した、即ち労働時間の一定量を代表する所の工業生産物から、又(二)其標準は正に時間である直接的労働から成立するが故である。

扱て商品の価格を一般に制規する、同一の一般的法則は、勿論又労働、即ち労働の価格を制規する。

労働の賃銀は、需要と供給の關係に依り、即ち労働の買手たる資本家と労働の賣手たる労働者との間に於ける競争が如何なる形勢なるかに依つて、或は騰貴し或は下落する。労働の動搖は一般に商品価格の動搖に對應する。併し乍ら此動搖の範圍内に於て、労働の価格は生産費に依り、即ち此商品たる労働を産出する爲めに必要な労働時間に依つて決定せられる。

然らば労働の生産費自體は何であるか。

それは、労働者を労働者として維持し、又彼を労働者に育成するに、要せらるゝ費用である。

是れが故に一の労働が修養時間を必要とする事少なければ少い程、労働者の生産費は愈々少であり、それだけに彼の労働の価格即ち彼の労働賃は低い。殆んど何等の見習時間を必要とせず、又労働者の單なる肉體的生存が用を爲す所の工業部門に於ては、其作出の爲めに必要な生産費は、殆んど總に労働者を労働能力ある生活に維持するのに必要である商品の上に制限せられる。是れが故に、彼の労働の価格は、必要な生活資料の価格に依つて決定せらるゝであらう。

けれども尙一の他の願慮が之に加はる。彼の生産費又従つて彼の生産物の価格を計算する所の工場主は、労働器具の損耗を見積の中に加へる。若しも一つの機械が彼に例へば千フランを用費し、而して此機械が十年間に使用し盡さるゝならば、彼は十年後に使ひ古した機械を新しい機械に置き換へ得る爲めに百フランを年々商品の価格の中に加算する。同様に、簡單なる労働力の生産費の中に生殖費用が加算せられねばならぬ、是れに依つて労働者階級は、自己を増加し又使ひ古した労働者を新しい労働者と置き換ふる事が出来るのである。即ち労働者の損耗は、機械の損耗と同一の方法に依つて計算せらるゝであらう。

して見ると、簡單なる労働の生産費は、労働者の生存並びに、生殖費用の額に達する。此生存並に生殖費用の價格が労働を形成する。斯くの如く決定せられた労働は、労働の最低限度と云ふ。

労働の此最低限度は、一般に生産費に依る商品の價格決定と同じく、各個個人に適用するのでなく、種屬に通用する。各個の労働者、數百萬人の労働者は生存し且つ生殖し得るのに足るだけ受取らない、併し乍ら全體の労働者階級の労働は、労働の動搖の範圍内にては此最低限度に平均せられる。

今や吾々は各他の商品の價格と同じく労働を制規する所の最も一般的なる法則を理解したからして、より特定の吾々の對象に關し論入することが出来るであらう。

「資本は、新しい原料、新しい労働器具及び新しい生活資料を造る爲めに使用せらるゝ所の、凡ての種類の原料、労働器具及び生活資料である。資本の凡て此等の組成部分は、労働の創造物、労働の生産物、累積されたる労働である。新生産に對する手段として役立つ累積された労働が資本である。」

上の如く經濟學者は云ふ。

黒奴隷とは何であるか。黒色人種の間である。前者の説明は此説明と同じ値打である。

黒奴は黒奴である。一定の關係に於て始めて彼は奴隷となるのである。紡績機械は紡績の爲めの機械である。唯一定の關係に於てのみそれは資本となる。此關係から離脱せらるゝならば、それは金自體が貨幣でないが如く、或は砂糖が砂糖の價格でないが如く、資本ではない。

生産に於て人間は單に自然のみに交渉あるものではない。彼等は一定の方法に於て共に働き又彼等の活動を互に交換する事に依つてのみ生産する。生産するが爲めに、彼等は互に一定の連絡と關係の中に進入する、而して唯此社會的連絡及び關係の範圍内に於てのみ、彼等の自然に對する連絡は發生し、生産は發生する。

生産者が互に進入する此社會的關係、彼等が其活動を交換し又生産の總體行爲に參與する所の條件は生産手段の性質に従つて、自然相異するであらう。一の新

たなる武器、即ち火器の發明と共に、必然的に軍隊全體の内部的組織は變化し、個人がその範圍内に於て一軍隊を形成し又軍隊として作用し得る關係が變形し、諸種の軍隊相互の關係も亦變化する。

要するに個人が、其中に在て生産する所の社會的關係、即ち社會的生產關係は、變化し、物質的生產資料、即ち生産力の變化及び發達と共に變形するものである。生産關係總體は、人が社會的關係、社會と呼ぶ所のものを形成する而かも、一定の歴史的發達段階に於ける社會を、即ち特質的、差別的性質を有する社會を形成する。古代社會、封建社會、ブルジョア社會は生産關係の斯の如き總體である、其各々は同時に人類の歴史に於ける特殊の發達段階を表示して居る。

資本も亦一の社會的生產關係である。それはブルジョア社會のブルジョア生産關係である。依つて以て資本が成立する所の生活資料、勞働器具、原料、夫等は一定の社會的條件、一定の社會的關係に於て産出され、累積されたのではないか。夫等は一定の社會的條件、一定の社會的關係の下に、新生産の爲めに使用せられたものではないか。而して恰かも此一定の社會的性質が、新生産に對して役立つ生産

物をば資本に成すのではないか。

資本は單に生活資料、勞働器具並に原料から成立しない、單に物質的生產物から成立しない、それは同様に交換價值から成立する。依つて以て資本が成立する凡ての生産物は商品である。即ち資本は常に物質的生產物の一定量でなく、それは商品の交換價值の社會的、大さの一定量である。

羊毛の代りに棉花を、麥の代りに米を、汽車の代りに汽船を置き換へやうとも、棉花、米、汽船——資本の實體——が、資本が以前其中に體化したる所の羊毛、小麥、汽車と同一の交換價值、同一の價格を有する限りに於ては、資本は依然の儘である。資本が最少の變化をも受けることなくして、資本の實體は絶えず變形することが出来る。

縱令各資本が商品の換言すれば交換價值の一定量でありとするも、商品の、即ち交換價值の各量は資本でない。

交換價值の各分量は一の交換價值である。各個の交換價值は交換價值の一分量である。例へば一千フランの價值ある家屋は一千フランの交換價值である。

一サッチームの價值ある一枚の紙は、百分の百サッチームの交換價值の一分量である。他の生産物と交換せらるゝ所の生産物は商品である。夫等が交換せらるゝ所の一定の關係は、其交換價值を形成する、或は貨幣を以て表白せば、其價格を形成する。此等の生産物の量は、商品たり或は一の交換價值を代表するの、或は一定の價格を所有するの、其性質の上に何等影響を有しない。一本の樹が大きくとも或は小さくとも、それは矢張り樹である。吾々がロート⁽¹⁾の鐵を他の生産物と交換しやうとも或はツェントネル⁽²⁾の鐵を交換しやうとも、此事は商品即ち交換價值たるの其性質を變化せしめるか。それは量に従つて、大なる或は小なる價值の商品であり、高い或は低い價格の商品である。

然らば商品の一分量、交換價值の一分量は如何にして資本となるのであるか。

それが獨立的社會的勢力として、換言すれば社會の一部の勢力として、直接的な活きたる労働との交換に依つて自己を維持し且つ増加する事に依つてゐる。労働能力以外に何物をも持たないところの一階級の生存は、資本の必要的前提である。累積されたる過去の具象化されたる労働の直接的な活きたる労働に對す

る支配は、累積されたる労働を始めて資本となすのである。

資本は、累積されたる労働が活きたる労働に對し新生産の手段として役立つ事の裡に成立するのではない。資本は、活きたる労働が累積されたる労働に對し其交換價值を維持し且つ増加する手段として役立つ事の裡に成立する。

資本と賃銀労働との間には如何なる事が發生するか。

労働者は彼の労働力との交換に於て彼の生活資料を得る、併し乍ら資本家は彼の生活資料との交換に於て労働労働者の生産的活動創造的力を得る、之に依つて労働者は常に彼が消費した所のものを代償するのみならず、それが嘗て所有して居たより一層大なる價值を累積されたる労働に對し與へるのである。労働者は資本家から現存せる生活資料の一部分を受取る。此生活資料は彼に對し何に役立つのであるか。直接の消費にである。併し乍ら私が生活資料を消費するや否や、此資料が私を維持する間の時間を利用し新生活資料を生産するに非ざれば、即ち消費して行く間に消費の裡に滅失する價值の代りに、新價值を私の労働に依つて作るに非ざれば、夫等は私から再び歸る事なく失はれて仕舞ふ。が丁度労働者

は實に此再生産的な貴重なる力を自分の受取るべき生活資料との交換に於て資本に對し讓渡する。即ち彼は此力を自分自身にとつて失つたのである。

一例を採つて見やう、一人の小作人が彼の日傭労働者に、一日銀貨五グロッシェン(シ)宛を與へるとする。銀貨五グロッシェンの代りに、後者は小作人の田畑に於て終日労働する而して彼に對し十グロッシェンの収入を保證する。小作人は常に彼が日傭労働者に對し支拂はねばならなかつた所の價值を代償したのみでない、彼は之を二倍する。即ち彼は、彼が日傭労働者に與へたる五グロッシェンを收穫ある生産的方法にて利用し消費したのである。彼は五グロッシェンを以て二倍の價值ある土地生産物を産出する、即ち五グロッシェンから十グロッシェンを作る日傭労働者の労働及び力を丁度買つたのである。之に反し日傭労働者は、其作用を丁度小作人に讓渡したる彼の生産力の代りに五グロッシェンを受取る。彼は之を生活資料と交換し、彼は其生活資料を早晚消費する。して見ると五グロッシェンは二重の方法に於て消費せられて居る。即ち夫等は十グロッシェンを齎したる、一の労働力と交換せらるゝるが故に、資本にとつて再生産的に消費せら

れる。夫等は、永遠に消滅せられ、又其價值は日傭労働者が小作人と同一の交換を繰返す時に於てのみ獲得し得る生活資料と交換せらるゝが故に、労働者にとり不生産的に消費せられる。即ち資本は、賃銀労働を前提とし、賃銀労働は、資本を前提とする。夫等は交互に條件附けられ、夫等は交互に發生する。

一の綿花工場に於ける一労働者、彼は唯棉製品のみ生産するのであるか。否、彼は資本を生産する。彼は、彼の労働に依つて新價值を作るべく、彼の労働を命令するに更に役立つ所の價值を生産する。

資本は、それが労働と交換せらるゝに依り、それが賃銀労働を生ぜしむるに依つてのみ増殖する事が出来る。労働力、賃銀労働は、それが資本を増殖するに依り、それが奴隸たる所の勢力を強大ならしむる事に依つてのみ、資本と交換せられ得る。是れが故に、資本の増加は、プロレタリアの換言すれば、労働者階級の増加である。

従つて資本家及び労働者の利害は同一である、とブルジョア及び其經濟學者は主張する。又事實をうてある。若しも資本が労働者を要することなくば、彼は滅亡する。若しも資本が労働を掠奪することなくば、資本は滅亡する而して労働を

掠奪する爲めに、資本は労働を買はなければならぬ。是れが故に生産に決定せられたる資本即ち生産的資本が増加するに従ひ、工業が愈々繁盛するに従ひ、ブルジョアジーが愈々裕福となり、事業が好景氣となるに従ひ、資本家は愈々多くの労働者を必要とし、労働者は愈々高價に自己を賣る。

即ち労働者の相當なる地位に對する不可缺的條件は、生産的資本の出来るだけ迅速なる増加である。

併し乍ら生産的資本の増加とは何であるか。累積されたる労働の活きたる労働に對する勢力の増加である。労働階級に對するブルジョアジーの支配の増加である。若しも賃銀労働が之を支配する他人の富、其敵對的勢力即ち資本を生産するならば、其從業資料換言すれば生活資料は、賃銀労働が更に資本の一部分となり、更に資本をして増加の加速度的運動に於て促進せしむる所の槓杆となると云ふ條件の下に、敵對的勢力から還つて來る。

資本の利害と労働者の利害は同一である、と云ふは、唯以下の事を意味するに過ぎない、即ち資本と賃銀労働は、一個にして同一なる關係の兩方面たる事を。高利

貸と浪費者が相互に條件附けるが如く、一の者が他の者を條件附けるのである。

賃銀労働者が賃銀労働者である限りは、彼の運命は資本に繋つて居る。此事が誇稱せらるゝ労働者と資本家との利害の共通である。

資本が増加すると、賃銀労働の分量は増加し、賃銀労働者の數は増加する、一言を以てすれば資本の支配は個人のものより大なる分量の上に擴がる。而して吾々は最も有利なる場合を假定しやう、即ち生産的資本が増加する時、労働に對する需要は増加する。そこで労働の價格即ち賃銀は昂騰する。

一軒の家が大きくとも或は小さくとも、之を圍繞する家々が同じく小さい限りそれは住居に對する凡ての社會的要求を満足せしめる。併し乍ら若しも小さい家の傍に宮殿が聳立し、而して小さい家が小屋に零落したとする。小家屋は今や其所有者が何等の要求をも爲し得ない、或は最も微少なる要求を爲し得る事を證明する、而してそれは文明の經過と共に如何に高くなるとも、隣の宮殿が同じ程度に於て或は實により高い程度に於て高くなる時には、比較的比較的に小さい家屋の居住者は常に不愉快に、不満足に、不景氣に其四壁の中に塾居するであらう。

勞銀の著しき増加は、生産的資本の急激なる増長を前提とする。生産的資本の急激なる増長は、一樣に富の奢侈の、社會的欲望並に社會的享樂の急激なる増長を喚起する。して見ると縦令勞働者の享樂が昇騰しやうとも、其享樂が保證する所の社會的満足は、勞働者に企及し得ない所の増加したる資本家の享樂と比較し、一般社會發達の状態と比較して、低落して居る。吾々の欲望と享樂は社會に淵源する、是れが故に吾々は之を社會に就いて測定し、其の満足の對象に就いて測定しない。夫等は社會的性質なるが故に、相對的性質のものである。

勞銀は一般に、吾々が之と交換し得る商品の分量に依つてのみ決定せらるゝものでない。勞銀は諸種の關係を包容する。

勞働者が先づ第一に其勞働に對して受取るものは、貨幣の一定額である。勞銀は唯此貨幣價格に依つてのみ決定せられるのであるか。

十六世紀に於ては、歐羅巴に流通する金と銀は亞米利加發見の結果増加した。是れが故に金と銀の價值は他の商品との比較に於て下落した。勞働者は以前の如く彼等の勞働に對し鑄造銀貨の同一分量を受取つて居た。彼等の勞働の貨幣

價格は依然と同一であり而かも彼等の勞銀は低落した、何となれば交換に於て此銀の同一量に對し他の商品のより少き分量を受取るからである。此事は資本の増加、十六世紀に於けるブルジョアジの出現を促進した所の事情の一である。

他の場合を考へて見やう。一八四七年の冬凶作の結果最も必要缺く可らざる生活資料、即ち穀物、肉類、バター、乾酪等は著しく其價格が昂騰した。勞働者は以前と同じく、彼等の勞働に對して貨幣の同一額を受領したと假定する。彼等の勞銀は低落しなかつた。同一の貨幣に對して彼等は交換に於てより少き麵粉、肉類等を受取つた。彼等の勞銀は、銀の價值が減少したが爲めてなく、生活資料の價值が増加したがために低落した。

最後に、勞働の貨幣價值は同一である、然るに農業商品及び工業商品は新たなる機械の利用、好適なる季節等の結果其價格が下落したと假定する。然らば勞働者は同一の貨幣を以て凡ての種類の商品をより多く買ふことが出来る。正に勞銀の貨幣價值が變らなかつたが爲めに、彼等の勞銀は騰貴した。

果して然らば勞働の貨幣價格、名義的勞銀は實際的勞銀、換言すれば實際交換に

於て勞銀に對し與へらるゝ所の商品の額とは一致しないのである。即ち若しも吾々が勞銀の騰貴或は下落に就いて言はんとならば、吾々は單に勞働の貨幣價格即ち名義的勞銀のみに着眼してはならない。

併し乍ら名義的勞銀換言すれば勞働者が自身を資本家に賣る所の貨幣額も、或は實際的勞銀換言すれば勞働者が此貨幣を以て購ひ得る商品の分量も、勞銀に包攝さるゝ關係を竭くすのでない。

勞働は就中尙利得に對する即ち資本家の利潤に對する其關係に依つて決定せられる——比較的相對的勞銀是れである。

實際的勞銀は、勞働の價格を他の商品の價格に對する關係に於て表白する、之に反し相對的勞銀は直接的勞働の價格を累積せられたる勞働の價格に對する關係に於て、即ち賃銀勞働及び資本の比較的價值、資本家及び勞働者の相互的價值を表白する。

實際的勞銀は變らざる事あり、又騰貴することすらある、之にも拘はらず相對的勞銀は下落し得る。例へば凡ての生活資料の價格が三分の二下落した、一方日傭

賃銀は三分の一下落した、即ち例へば三フランから二フランに下落したと假定する。勞働者は此二フランを以て、以前三フランを以てするよりは、一層大なる商品の分量を自由になし得るけれども、彼の勞銀は資本家の利潤に對する關係に於ては減少して居る。資本家（例へば工場主）の利潤は一フランだけ増加した、換言すれば資本家が勞働者に對して支拂ふ所の、交換價值のより少なき分量に對し勞働者は以前よりも一層大なる交換價值の分量を生産しなければならぬ。資本家の分前は勞働の分前に對する關係に於て昇騰したわけである。資本と勞働との間に於ける社會的富の分前は更に不平等となつた。資本家は同一の資本を以て一層大なる勞働量を支配する。勞働者階級に對する資本家階級の勢力は増加し、勞働者の社會的地位は悪化し、更に一段階資本家の下に低下せられる。果して然らば、其相互的關係に在る、勞銀及び利潤の、下落と騰貴とを、決定する所の普遍的法則は何であるか。

彼等は反對の關係に立つ。資本の交換價值、即ち利潤は、勞働の交換價值、即ち賃銀が低落すると同一の關係に於て、上騰する、又其反對である。利潤は、勞銀が低

落すと同じ程度に於て騰貴し、勞銀が下落すると同じ程度に於て下落する。

人は恐らく資本家は彼の商品の他の資本家との利益ある交換に依り、又夫れが新市場の開設の結果であらうと、或は舊市場に於ける一時的に増加した欲望の結果等であらうとも、彼の商品に對する需要の昇騰に依つて利得することが出来る。と抗議するであらう、又資本家の利潤は、勞銀即ち勞働の交換價値の昇騰及び低落とは關係なしに、第三者の資本家の利益を犯すことに依り増加することが出来る。或は資本家の利潤は、勞働器具の改善、自然力の新利用等に依つても亦上騰することが出来る、と抗議するであらう。

先づ一方に彼等は、縱令それが反對の方法で行つても、結果は同一である事を認めなければならぬであらう。利潤は勞銀が下落したが故に騰貴したのではないが、併し勞銀は利潤が騰貴したが故に下落したのである。資本家は勞働の同一量を以て、交換價値のより大なる分量を買ひ而かも是れが爲めに勞働に對しより高く支拂ふの必要が無い、換言すれば要するに勞働は、それが資本家に對し生ずる所の純収益に對する關係に於てより低く支拂はれる。

更に吾々は、商品價格の動搖に拘はらず各商品の平均價格、即ち商品が他の商品に對して交換せらるゝ所の割合は、其の生産費に依つて決定せられる事を想起する。資本家階級の範圍内に於ける餘剰利益は、是れが故に自ら必然的に平均せられる。機械の改善、生産に役立つ自然力の新たなる利用は、一定の勞働時間に於て勞働及び資本の同一分量を以て、より大なる生産物の分量を可能ならしめる、併しながら決してより大なる交換價値の分量を可能ならしめない。若しも私が紡績機械の利用に依つて、其の發明以前とは二倍だけ多く紡糸を一時間に供給する、例へば五十磅の代りに百磅を供給するとしたならば、私は此百磅に對し交換に於て以前五十磅に對するより、多くの商品を受取ることがない、何となれば生産額は半分に低落したが故であり、或は私が同一の費用を以て二倍の生産物を提供し得るからである。

最後に、資本家階級即ちブルジョアジーが、縱令一國のものであらうと、世界市場全體のものであらうと、如何なる割合に於て生産純益を自分の間に分配しても、此純収益の總額は常に全體の累積されたる勞働が直接的勞働に依つて増加させら

れたる所の額である。即ち此總額は労働が資本を増加さす割合に於て、換言すれば利潤が労働に對し昇騰する割合に於て増加するのである。

即ち吾々は、吾々が資本及び貸銀労働の關係の範圍内に止つてさへ、資本の利害及び貸銀労働の利害は正反對に對立する事を見た。

資本の急速なる増加は、利潤の急速なる増加に等しい。利潤は、労働の交換價值が、即ち相對的労働が同様に急速に低減する時に於てのみ、急速に増加することが出来る。相對的労働は、縱令實際的労働が名目的労働と同時に、即ち労働の貨幣價值と同時に騰貴するも、利潤と同じ割合に於て騰貴するに非ざる限り下落する事が出来る。例へば好景氣の時代に労働は五パーセント騰貴し、之に反し利潤は三十パーセント騰貴したとするならば、比較的労働即ち相對的労働は増加せざるのみか、却つて減少したわけである。

即ち労働者の収入が資本の急激なる増殖と共に増加するならば、それは同時に労働者を資本家から乖離せしむる所の社會的溝渠が増加したのであり、同時に労働に對する資本の勢力、労働の資本に對する從屬性が増加したのである。

労働者が資本の急激なる増殖に對し利益を有するとは、次の事を云ふに過ぎない、即ち労働者が自分に由縁のない富を増加すること急激なればなる程、それだけ甘い塊が彼から轉げ落ちるのである、又それだけ多く労働者は使用せられ且つ活躍させられ、資本に從屬する奴隷は増加せられ得るのである。

即ち吾々は次の事を見た。

労働者階級にとつて最も有利なる状態、即ち資本の出来る限り急激なる増殖自体でさへ、縱令それが労働者の物質的生活を改善するにしても、彼の利害とブルジョアリーの利害即ち資本家の利害との對立を廢止しない。労働者の物質的生活は改善せられた、併し乍ら彼の社會的地位を犠牲にしてである。彼を資本家から分離する所の社會的溝渠は擴大せられて居る。

最後に、

貸銀労働者にとつて最も有利なる條件は生産的資本の出来る限り急激なる増殖である、とは單に以下の事を意味するに過ぎない。労働者階級が彼に敵對の勢力を、即ち局外の彼を支配する富を急激に増加し又増大するに従ひ、それだけ一層

有利なる條件の下に於て、更にブルジョアの富の増加の爲めに、資本の勢力の増大の爲めに労働するを許容し、依つて以てブルジョアが彼を自分の後から引擦る所の金の鎖を己自ら鍛へるに満足するのである。

生産資本の増殖並に労働の昇騰——夫等は實際に、ブルジョアの經濟學者が主張する如く、分離のものであるか。吾々は彼等をば言葉通りに信用するを許さない。資本が肥大するに従ひ、それだけ善く彼の奴隷は暮すと云ふ事すら彼等の言を信用するは許されない。ブルジョアは、彼の奴婢の耀きを誇つた封建君主の偏見を云ふのには、餘りに啓蒙されて居り、餘りに計算が上手である。ブルジョアジの生存條件は彼等をして計算するべく強制する。

そこで吾々はより詳細に研究しなければならぬであらう。

生産的資本の増殖は労働の上に如何に作用するか。
ブルジョアの社會の生産的資本が全體に於て増殖すると、一層多方面なる労働の累積が生ずる。資本家は數と範圍に於て増加する。資本家の増加は資本家の間に於ける競争を増加せしめる。資本家の昂騰的範圍は、より巨大なる武器を有

する、より力強き労働者軍を工業的戰場に導く手段を與へる。

一人の資本家は彼がより廉く賣る事に依つてのみ他の資本家を戰場から驅逐し、其の資本を占領することが出来る。自分を損ずる事なくして、より廉く賣り得る爲めには、彼はより廉く生産せなければならぬ、換言すれば労働の生産力を出來るだけ昇騰せしめねばならぬ。併し乍ら労働の生産力は就中、一層大なる分業に依り、機械の一層多方面の實施と不斷の改善に依つて昇騰せられる。其間に労働が分配せらるゝ所の労働者軍が大なるに従ひ、機械の實施せらるゝ所の規模が大なるに従ひ、それだけ比例して生産費は減少し、それだけ労働は多産的となる。是れが故に資本家の間には、分業と機械を増加し又彼等を出來るだけ大なる規模に於て搾取するべく、一の多方面な競争が生ずる。

今一人の資本家がより大なる合業に依り、新たななる機械の應用及び改善に依り、自然力のより利益ある又より大なる搾取に依つて、労働の或は累積労働の同一分量を以て、彼の競争者より一層大なる生産物の即ち商品の分量を作る手段を發見する、例ば彼の競争者が半ヤアルの麻布を織ると同一の労働時間に於て、一ヤアル

の麻布を生産し得るとしたならば——此資本家は如何に作用するであらうか。彼は半ヤアルの麻布を従來の市價を以て賣却することを續け得るであらうけれども是れは彼の敵を戰場から驅逐し又彼自身の販路を擴大するの手段ではない。併し乍ら彼の生産が擴張したと同一の程度に於て彼の爲めの販路の需要が擴張して居る。彼が躍動せしめた所のより有勢なる又より高價なる生産手段は彼をして彼の商品をより廉く賣るを得せしめるが同時に彼をしてより多く商品を買ひ、遂かにより大なる彼の商品に對する市場を占領する事を餘儀なくする。則ち我が資本家は半ヤアルの麻布を彼の競争者より一層廉く賣るであらう。

併し乍ら資本家は一ヤアルを彼の競争者が半ヤアルを賣ると同じやうに廉く賣らないであらう。縱令一ヤアルの生産が彼には他の者に半ヤアルが用費する以上に用費しなくとも。若しそうでなかつたならば彼は何物をも利得せず、唯交換に於て生産費を回収するに過ぎないであらう。彼の幾何かの一層大なる収入は彼がより高度の資本を運轉せしめたが故に生ずるものにして、彼が彼の資本を他の者より一層高く換價したが故でない。且又彼は、彼が彼の商品の價格を僅か二

三パーセント彼の競争者より低く附ける時、彼が到達せんと欲する所の目的に到達するのである。彼は競争者より安賣することに依つて、彼等を戰場から驅逐し彼等から少くとも彼等の販路の一部分を奪取する。而して最後に吾々は、時々の價格は、一商品の賣却が産業の好況時代か或は不況時代に行はるゝかに従つて常に生産費の上か或は下に在る事を想起する。一ヤアルの麻布の市價が、其從來行はれたる生産費の上に在り或は下に在るかに従つて、新たなるより多産的な生産手段を應用した所の資本家が、彼の實際の生産費以上に賣却する其割合は變動するのである。

併し乍ら吾が資本家の特權は長く持續するものでない。他の競争しつゝある資本家は同一の機械、同一の分業を施行し、それを同一の或は一層大なる規模に於て實施する、而して此實施は麻布の價格が其昔の生産費以下に止らず、其新たな生産費以下に低落する迄、一般に行はれるであらう。

即ち資本家は互に、彼等が新生産手段の實施前に於けると同一の状態に存在するのである、而して若しも彼等が此等の手段に依り同一の價格にて二倍の生産物

を提供することが出来るとしたならば、彼等は今や舊價格以下にて、二倍の生産物を提供するべく、強制せられるのである。此新たな生産費の立脚點に於て、同一の演技が再び始まる。より多くの分業、より多くの機械、分業と機械が搾取せらるる所のより大なる規模。而して競争は再び同一の反作用を此結果に對して齎すのである。

吾々は、如何に生産方法即ち生産手段が絶へず變革せられ革命化されるか、如何に分業がより大なる分業を、機械の利用がより大なる機械の利用を、大なる能率の労働がより大なる能率の労働を、必然的に伴ふかを見る。

是れはブルジョアの生産を常に繰返し其舊軌道から放り出し又資本をして、それが既に労働の生産力を緊張せしが故に、之を緊張せしむべく強制する所の法則である、即ち資本に何等の休息を許すことなく又絶へず「進め、進め」と耳語する所の法則である。

是れは、商業期間の動搖の範圍内に於て、一商品の價格を必然的に其生産費に平

均せしむる所の法則に外ならぬ法則である。

一資本家が如何に強力なる生産手段を戰場に齎らさうとも、競争は此生産手段を一般化する而して競争が之を一般化した瞬間からして、彼の資本のより大なる豊沃性の唯一の結果は、彼が今や同一の價格を以て以前の十倍、二十倍、百倍を供給しなければならぬ事である。併し乍ら恐らく賣られたる生産物のより大なる分量に依つて、より低き賣價を償ふ爲めには、蓋し管に利得する爲めのみならず、生産費を回收する爲めに、より分量の大きい賣却が今や必要となつて来る——生産器具自體は、吾々の見たる如く、愈々高價となつて行く——が此分量の多い賣却は管に彼にとつて死活の問題たるのみならず、彼の競争者にとつても亦死活問題たるが故に、彼は以前より千倍も賣捌かねばならぬからして、既に發明されたる生産手段が愈々生産的なるに従ひ、古き闘争はそれだけに激烈に開始される。即ち分業及び器械の利用は、更に比較にならぬ程一層大なる規模に於て行はれるであらう。

使用せられたる生産手段の勢力が常にどうであらうとも、競争は此勢力の黄金の果實を資本から奪はんと試みる、即ち是れが商品の價格を生産費に迄引き戻そ

うとする事に依つて廉價に生産される、換言すれば同一量の労働を以てより多く生産せられ得ると同じ程度に於て、廉價なる生産、即ち舊價格に對するより大なる分量の提供を、一の命令的法則となす事に依つて。斯く資本家は彼自身の緊張に依つて、同一の労働時間にてより多く提供するの義務、一言を以てすれば、彼の資本の換價のより困難なる條件以外何物をも贏ち得ないのである。是れが故に競争は絶えず彼を其生産費の法則を以て追及し、又彼が彼の仇敵に向つて鍛ふ所の各武器は、彼自身に對する武器として歸つて來る一方、資本家は息む事なく新たなるより高價ではあるが、より廉價に生産する機械並に分業を、昔のものゝ代りに實施し、又競争が新たなるものを陳腐ならしむる迄待つ事なきに依つて、資本家は絶えず競争に勝たんと試みる。

若しも吾々が今全世界市場に於ける同時の此熱狂的煽動を假定する、然らば資本の増殖、蓄積並に集中が、一の不斷の、急進的な且つ常に愈々大なる規模に於て實施せらるゝ分業、新機械の利用並に舊機械の完成を其結果に有する事は、自ら明白である。

併し乍ら、生産的資本の増殖とは離る可らざる所の此等の事情は、勞銀の決定に對し如何に作用するであらうか。

より大なる分業は一人の労働者をして五十、二十人の労働を爲すを得せしめる即ちそれは労働者間に於ける競争を五倍、十倍、二十倍に増加するのである。労働者は單に、或者が他の者より一層廉價に自分を賣る事に依つて互に競争を爲すに止らない、彼等は一人が五人、十人、二十人の労働を爲す事に依つて競争するのである、而して資本に依つて實施せられ且つ常に増大せらるゝ分業は労働者をして、此種の競争を爲すべく強制する。

更に、分業が増加すると同一の程度に於て、労働は簡單化せられる。労働者の特殊の技能は無價値となる。彼は、肉體的緊張力をも或は精神的緊張力をも活動せしむるを要せざる、一の簡單な生産力に轉化せられる。彼の労働は凡ての人に行はれ得る労働となる。是れが故に競争者は凡ての方面から彼に向つて殺倒して來る、尙又吾々は労働が愈々簡單となり、愈々平易に習熟し得べきものであるに從ひ、之を自分に所有せんが爲めにはより少き生産費を必要とせらるゝに從ひ勞銀

は益々深く沈下する、何となれば各他の商品の価格と同じく、勞銀は生産費に依つて決定せられるが故なる事を想起する。

即ち、勞働がより不満足、より不快になると、同一の程度に於て、競争は増加し、且つ勞銀は減少する。勞働者は、彼がより多くの時間勞働するにしても、或は彼が同一の時間内に於てより多く提供するにしても、孰れにするも彼がより多く勞働する事に依つて彼の勞銀の分量を主張せんと試みる。則ち尙ほ彼は急迫に驅られて分業の不健全なる作用を増加する。結果は、彼がより多く働けば、働く程、彼は愈々少く賃銀を得る事である、而かもそれは、彼が同様の程度に於て彼の仲間勞働者に對し競争をなし、是れが故に彼の仲間勞働者から同様に競争者をこしらへ、彼等は彼自身と同様に惡き條件に對して自分を提供する、即ち究極に於て彼は自分自身に、勞働者階級の成員としての自分自身に、競争をなす、と云ふ簡單な理由からである。

機械は同一の作用を遙かにより大なる規模に於て喚起する。即それが熟練勞働者を不熟練勞働者に依つて、男子を女子に依つて、大人を子供に依つて驅逐する

ことを以てし、新たにそれが實施せらるゝや、手先勞働者を多數鋪石の上に投げ出し、またそれが發達し、改善され、より多産的なる機械に依つて置き換へらるゝや、勞働者を前より少き衆團ではあるが、解雇すると云ふ事を以て。吾々は以上急速なる筆勢を以て資本家相互の産業的戦争を描寫した、此戦争は、戦争中に於ける合戦が、勞働者軍の解雇より其徵募に依る方が、勝味の少いと云ふ特徴を有して居る。將軍即ち資本家は、誰が最も多く産業兵卒を解備し得るか、と相互に競争するのである。

經濟學者は吾々に對して確かに、機械に依つて餘分となつた勞働者は新たななる職業部門を發見すると語る。

彼等は敢て直接に、解雇された所の其勞働者が新たななる勞働部門に就職すると主張しない。事實は此虚言に對し餘りに大聲に叫んで居る。彼等は固々唯、勞働者階級の他の構成部分に向つて、例へば、滅び行く工業部門に進入せんと既に準備して立つた所の若き勞働者時代の部分に對して、新たななる職業手段が開かれる、と主張するに過ぎないのである。此事は勿論落伍した勞働者にとつては一の大な

る満足である。是れは資本家諸氏にとつては、新鮮なる掠奪し得べき肉と血に缺乏せしめないであらう、人は死者をして死者を葬らしめるであらう。此事は、それが労働者に與ふる慰藉より、ブルジョア自身に與ふる方がより大なる一の慰藉である。若しも賃銀労働者の全階級が機械に依つて廢滅せられたならば、賃銀労働なくしては資本たるを停止する所の資本にとつては、如何に恐怖すべきことたるであらうか。

併し乍ら機械に依つて直接に労働から追はれた者、竝に既に此仕事に期待を持つて居た所の新時代の全部が、一の新たな職業を發見すると假定する。世人は果して此職業が滅亡したる職業と同じだけに支拂はれると信ずるか。是れは、凡ての經濟の法則に矛盾する。吾々は、近世工業は、常により簡單な、より下級の仕事を以て、複雑した、より高等な職業に置き換ふる事を、伴ふ事實を見て來た。

即ち機械に依つて一の工業部門から投げ出されたる労働者集團は、他の部門がより低く、より悪く支拂れる事を以てせずして、どうして他の工業部門の中に一の避難場を發見し得るであらうか。

世人は例外として、機械自體の製造工業の中に労働する所の労働者を擧げて來て居る。工業に於てより多く機械が要求せられ且つ消費せられるや否や、機械は必然的に増加せなければならぬ、従つて機械の製造工業が、従つて機械製造工業に於ける労働者の職業が増加せなければならぬ、而して此工業部門に使用せられる労働者は熟練した、實に修養せられた労働者である。

一八四〇年以來、既に其以前から單に半分の眞理しか有しなかつた此主張は、凡ての輝きを失つて居る、即ち機械は愈々多方面に、棉絲の製造の爲めと寸毫も違ふ所なく機械の製造の爲めに應用せられ、又機械工場に從事する労働者は、最高に技巧的なる機械に對して、單に最高に單純なる機械の役目を演じ得たのである。

併し乍ら機械に依つて解雇せられた男子の代りに、工場は恐らく三人の少年と一人の女子を雇ふであらう。而して男子の給料は、三人の少年と一人の女子に對して充分ならざりしか。勞銀の最低限度は種族を維持し且つ増加するに充分ならざりしか。して見ると此好んで用ゐらるゝブルジョアの話振は何を證明するのであるか。他なし、現今にては、労働者の一家族の給料を獲る爲めには、以前とは

四倍の労働者の生命が消費せられると云ふに過ぎない。

吾々が之を簡約するに、生産資本が増加すればする程、愈々分業と機械の應用が擴張せられる。分業と機械の應用が擴張すればする程、愈々労働者間に於ける競争は擴張し、それだけ彼等の労働は、一結に低落するのである。

加ふるに、労働者階級は更に、社會のより高層の者から補充を受ける。即ち小工業者及び小利息生活者の一團は労働者階級に落ち込む。彼等は彼等の腕を労働者の腕の側に擧げるより急策を有しないのである。かくて上に向つて擴げられ又労働を求むる腕の森は愈々密になる、而して腕自體は愈々細り行く。

常に愈々大なる規模にて生産する、換言すれば丁度大工業者であつて小工業者でない、と云ふ事が最初の條件の中の一である。戦争を、小工業者が持續出來ないのは自ら明かである。

資本の利子が、資本の分量と數量が増加し、資本が増殖すると同一の標準に於て減少する事、従つて小さな利息生活者か、もはや彼の利息にては生活出來ず、そこで身を工業に投じなければならぬ、即ち小工業家の隊列がまた従つてプロレタリア

に對する候補者が増加する事、此等の凡ては恐らく何等是れ以上の説明を必要としないであらう。

最後に資本家は上に於て記述した運動に依つて既に存在した巨大なる生産手段を一層大規模に掠奪し、又此目的の爲めに信用の凡ての彈條を運動せしむべく餘儀なくせられるに比例し、即ち同一の程度に於て地震は増加する、此中には商業世界は唯、それが富の生産物の又生産力自體の一部分を地獄の神々に犠牲にする事に依つてのみ、己を保ち得るのである——一言を以てすれば、恐慌が増加するのである。恐慌は、既に生産分量が従つて擴張せられた市場に對する欲望が増加するに従ひ、世界市場は愈々減少し、新市場は愈々少く掠奪の爲めに殘存すると云ふ理由を以て、愈々頻繁に又愈々激烈になる、何となれば各先行の恐慌は、今迄征服せられなかつた又商業から單に表面的に搾取された市場を世界商業の下に服従せしむるからである。併し乍ら資本は労働に依つてのみ生活するものでない。同時に優秀且つ野蠻なる主君は、彼の奴隷の死骸を、即ち恐慌に於いて滅ぶ所の労働者全體の犠牲を己とともに墓場に引張つて行く。即ち吾々を見る、若しも資本

が急激に増加するならば労働者間の競争は比較にならぬ程より急激に増加する
換言すれば労働者階級に對する職業手段生活資料はそれだけに多く比例して減
少する、而かも之にも拘らず、資本の急激なる増加は賃銀労働にとつて最も有利な
る條件である。

賃銀労働及資本終

自由貿易論

安倍浩譯

自由貿易問題に關する演説

一八四九年一月九日ブルユツセルの民主々義協會に於てカール・マルクスに依り爲されたる――

諸君。英國に於ける穀物條例の撤廢は、自由貿易が十九世紀に於て獲得したる所の最大勝利である。工場家が自由貿易に就いて論ずる凡ての國々に於て、彼等は特に穀物に於ける自由貿易或は一般に原料に於ける自由貿易に着眼して居る。保護關稅を以て外國の穀物を重課するは賤むべきである、そは國民の飢餓の上に投機を試みるを云ふ。

廉い麵麩、高い賃銀 cheap food, high wages 夫れは、此爲めに英國に於ける自由貿易論者が數百萬金を支出して來た唯一の目的である、而して既に彼等の熱心は大陸に於ける彼等の同胞を感染せしめて居る。一般に言つて、世人が自由貿易を欲する時、彼等は之を勞働階級の地位の改善の爲めに欲するのである。

併し乍ら奇なる哉！世人が如何にしても廉い麵麩を供給せんと欲する其國

民は、甚だ忘恩的である。廉い麵麩は丁度廉い政府⁽³⁾が佛蘭西に於けると同じく英國に於て不評判である。國民は彼の最大の仇敵であり且つ最も破廉耻の偽善者である所のポウリング⁽³⁾、ブライト並に其徒黨輩の如き人物の裡に、全然諦めを見出して居る。

英國に於ける自由黨と民主黨との間に於ける鬭争は自由貿易論者とチャーチストとの間に於ける一の鬭争であることはあらゆる人が知つて居る。

吾々は今、如何なる方法に於て英國の自由貿易論者が彼等を活潑ならしめた所の高尙なる思念を國民に對し證明したかを注意して見やう。

彼等は工場労働者に向つて云つた。

「穀物關稅は賃銀に對する一の租稅である。汝等は此租稅を大地主即ち此等の中古的貴族に對し支拂つて居る。汝等の地位が憐れむべき地位である時、是れは最も不可缺的な生活資料の高價なる一結果である。」

労働者は彼等の側からして工場家に向つて尋ねた、「吾々の工業が最大の發達を成したる最近三十年の間に於て、吾々の賃銀が穀物の價格の騰貴するより遙に

迅速なる比例にて低落したと云ふのは、如何して起るのか。」

「貴方等の主張する如く吾々が地主に向つて支拂ふ所の租稅は、一労働者宛て一週約三片の額である、之に反し手織工の賃銀は一八一五年から一八四三年迄に一週二十八志から五志に下落し、又機械織工の賃銀は一八二三年から一八四三年に至る時期に於て一週二十志から八志に押下げられて居る。」

「而して此時代全體の間に於て、吾々が地主に支拂つた所の租稅額は決して三片より高くならなかつた。而して一八三四年に於て麵麩が非常に廉く且つ營業経過が圓滑であつた其時、貴方等は吾々に向つて當時何と云つたか。汝等が不幸であるは、是れ汝等が餘りに多く小供をこしらへ、又汝等の結婚が汝等の職業よりより饒多である事より生ずるのであると。」

「是れは貴方等が吾々に向つて當時絶叫したる貴方等自身の言葉である、而して貴方等は新たなる貧民法律を製造し又救貧院、即ち此プロレタリアの牢獄の設立に着手したのである。」

之に對し工場家は答へて云ふ。

「尊敬すべき労働者諸君、汝等の云ふ事は尤もである。それは嘗に穀物の價格ばかりでない、其他に尙ほ供給される人々の間の競争があり、是れが賃銀を決定する。」
「併し乍ら吾々の土地が唯岩石と砂層のみから成立すると云ふその事情を考へて見るがよい！ まさか汝等は、穀物は花瓶の中に栽培し得ると想像はしまし。けれども若しも吾々の資本、吾々の労働を一の全く確かなる土地に浪費せずして農業を廢止し、専ら吾々を工業に捧げるならば、懸て全歐羅巴は其工場を廢止するであらう、而して英國は農業地方としての自餘の全歐羅巴を有する、唯一の偉大なる工場都市を形成するであらう。」

工場家が今斯く彼自身の労働者に向つて語つて居る間に、彼は小商人から詰問せられる、小商人は工場家に叫んで云く。

「併し乍ら吾々が穀物條例を撤廢する時、吾々が農業を壊滅するは事實である、けれども之を以て吾々の工場から物資を引き、其等の工場を廢止するべく他の諸國を強制しないであらう。」

「結果は如何なるものであらうか。吾々が現今田舎に於て有する所の顧客を喪

失し、又内國貿易は其市場を喪失する。」

工場家は労働者に背を向け小商人に答へて云く、「其事に關しては、唯吾々に委して置きなさい。一度び穀物關稅が撤去されるや、吾々は外國からより廉き穀物を受けらるであらう。其時には吾々は賃銀を引下げるであらう、賃銀は同時に吾々が其處から穀物を仰ぐ所の他の諸國に於て騰貴するであらう。」

「即ち吾々は、吾々が既に享樂する所の諸利益の外に、尙ほより廉き賃銀の利益を有するであらう、而して吾々は凡て此等の利益を以て、既に吾々から買ふやう大陸を強制するであらう。」

けれども今小作人と田園労働者が論争の中に加はつて來る。

彼等は叫んで云く、「そして吾々は一體どうなるのであるか。」

「吾々は依つて以て吾々が生活する所の農業の上に死刑の宣告を下す事に援助しなければならぬのか。吾々は、足下に在る土地を持ち去られるのを忍容せなければならぬのか。」

各返答の代りに、穀物條例廢止同盟は、穀物條例撤廢の英國農業に及ぼす有利な

る影響に關する三個の最善の著述に對し懸賞を賭けて満足して居る。

此懸賞はホープ、モーゼ及びグレッグ氏に依つて獲得せられ、彼等の論文は數千部國內に普及せられた。

此等懸賞榮冠者の第一人は、外國穀物の輸入に際しては小作人も或は田園労働者も損失するに非ずして、唯地主のみが損失する事を論證するに没頭して居る。

彼は絶叫して云く、「英國の小作人は穀物條例の撤廢を恐るゝ要はない、何となれば如何なる國も英國程好良な且つ安價な穀物を生産し得ないからである。」

「穀物の價格が下落した時でさへ、此事は汝等受害事はないであらう、何となれば此低落は單に地代に關するのみで、それは下落するであらう、が決して資本利潤並に賃銀に關するものでない。夫等は依然たる儘である。」

第二の受賞者モーゼ氏は反對に、穀物價格は穀物條例の撤廢の結果騰貴するであらうと主張して居る。彼は保護關稅は之に應當する價格を穀物に對し決して保證し得ないことを論證する爲めに無限の勞苦を拂つて居る。

彼は自分の主張を確保する爲めに、外國の穀物が輸入せらるゝ時、常に英國に於

ける穀物價格は著しく騰貴した、而して殆んど輸入せられざる時、穀物價格は異常に下落した事實を引照して居る。此受賞者は、輸入は高き價格の原因に非ずして、高き價格が輸入の原因であると云ふ事を忘れて居る。

彼は彼の仲間の懸賞當選者と全然反對に、穀物の價格に於ける各騰貴は小作人並に労働者に有利となり、地主には有利とならないと主張して居る。

第三の受賞者、即ち大工場家であり且つ其書物は大小作人の階級に對して向けられて居る所のグレッグ氏は、斯の如き魯鈍さを以て事件を瞬時に附する事は出來ない。彼の言葉はより、科學的である。

彼は、穀物條例は穀物の價格を高める事に依つてのみ地代を騰貴せしめる、而してそれがより、劣質の土地の上に投下せられるを資本に強制することに依つてのみ、穀物價格を高めると云ふ事を認承して居る、此事は全然簡單に闡明せられる。

人口が増加する程度に比例し、吾々は、外國の穀物が國內に入り得ざるや否や、其開拓はより多く費用を必要とし、又其生産物は其結果より、高價である所のより、少く産出的なる小土地をも開墾すべく強制せられる。

斯くの如くして生産せられたる穀物の總體に對し需要が存在し、從つて買はるるに違ひないが故に、其價格は必然的に、より惡き土地の生産物の價格に一致するであらう。此價格とより善き土地の生産費との差が丁度地代を形成する。

是れが故に、斯くて穀物條例の撤廢の結果穀物の價格又隨つて地代が下落するや、此事はより惡き土地は最早耕作せられざる事を惹起する。之を以て地代の低下は間違なく小作人の分前の壞滅を伴ふ。

此等の叙述はグレッグ氏の言葉を理解する爲めに必要であつた。

彼云く、「農業に於て生計し得ない所の小作人は、工業の裡に避難所を求めるであらう。大小作人に關しては、彼等は、其の場合利得するに違ひない。或は地主は彼等に對し其土地を甚だ廉く賣る事を強制せられるであらう、或は地主が彼等となす所の小作契約は甚だ永い期間に締結されるであらう。此事は彼等に對し、より大なる資本を土地に投じ、機械をより大なる範圍に於て應用し、斯くして人間の勞働を節約するを許すであらう、人間の勞働は穀物條例撤廢の直接的結果たる賃銀の一般的低落のお蔭を以て、實により廉價になるであらう。」

ドクトル・ポウリングは凡ての此等の議論に對し一の宗教的激情を與へて居る彼は公の會合に於て「耶蘇基督は自由貿易である——自由貿易は耶蘇基督である」と絶叫する事に於て。

吾々は偽善全體は勞働者に對し廉價なる麵麩を味はしむることに志されなかつた事を理解する。

勞働者は實に如何にして工場家の突如的博愛主義を理解せねばならなかつたであらうか。工場勞働者の勞働日を十二時間から十時間に減縮せんと欲したる十時間條例に反對し激烈なる闘争を爲した其人達の博愛主義を。

諸君に對し此等工場家の博愛主義に關し一の思念を與へる爲めに、諸君、私は諸君をして、凡ての工場に於て實施せられたる工場規則に就いて想起せしむるであらう。

各工場主は彼の私的使用の爲めに、凡ての故意的及び過失的過誤に對し賠償を確立する所の本物の刑法々典を有して居る、例へば若しも勞働者が休業するやうな不幸があつた時、彼が私話し、雑談し、失笑する時、彼が數分遅刻する時、彼が一の機

械部分を破壊した時、彼が生産物を要求せられたる質に於て提供せざる時、或は云々する時、労働者は幾何々々支拂ふのである。賠償金は實際労働者に依つて誘起せられた損害よりは常に高い。労働者が出来るだけ容易に刑罰に陥るやうする爲めに、彼等は工場時計を進ませたり、粗悪な原料を提供する、労働者は此物からして善良な生産物を製成しなければならぬのだ。彼等は仕事指導者が失錯の場合を増加さすのに充分熟達して居らぬ時には、彼を罷免する。

諸君！ 諸君は此私的立法は過失を養ふ爲めに特に作られたものであり、又彼等は金を儲ける爲めに過失を養ふものである事を見るであらう。斯の如く工場家は名目賃銀を低下さすべく、又労働者が奈何ともし難き偶然をさへ搾取するべく、凡ての手段を廻らすのである。

而して工場家、夫等は労働者に向つて、「自分達は莫大の金額を支出し、專一に自分の労働者の運命を改善する能力がある」と説かんと欲する所のその博愛家である。一方に於て彼等は工場規則に依り最微の方法を以て労働者の賃銀を切斷し、他方に於て彼等は穀物條例廢止同盟の援助に依り賃銀を高めるべく最大の犠

牲を己に加へて居る。

彼等は多大の入費を以て宮殿を建築して居る、廢止同盟は或程度迄其官宅を此等の中に設立した。彼等は自由貿易なる宗教を説く爲めに、宣教師の全軍を英國の凡ての地點に派遣して居る。彼等は労働者をして彼自身の利害に關し啓蒙する爲めに、數千の小冊子を印刷せしめ且つ無償で頒布して居る。彼等は新聞雜誌をして彼の事件に都合善く同意せしむる爲に法外の金額を支出して居る。彼等は自由貿易運動を指揮する爲めに一の巨大なる行政機關を組織し又彼等の雄辯の凡ての才能を公の會合に於て發揚して居る。一労働者が斯く絶叫したのは、此等の會合の或る席上であつた。

「若しも地主が吾々の骨を賣る様な時、汝等工場主は之を蒸汽ミユールの中に投げ込み、是れからして粉を作る骨を買ひ求める最初の人々であらう」と。

英國の労働者は、地主と資本家との間に於ける鬭争の意義を甚だ善く理解して居る。労働者は甚だ善く、彼等は賃銀を低下する爲めに麵麩の價格を抑壓することを、又資本利潤は地代が下落するに伴ひそれだけ騰貴するであらうことを知つ

て居る。

リカルド、英國自由貿易論者の使徒、吾々の世紀の最も傑出したる經濟學者は此點に關して完全に労働者と一致して居る。

彼は經濟學に關する彼の有名なる著作に於て云く

「若しも吾々が吾々に於て穀物を收穫する代りに、吾々が之をより廉價なる價格を以て調達し得る所の新なる一市場を發見する時、此場合には貨銀は低下し、利潤は昂騰するであらう。農業的生産物の價格の下落は常に農業に従事する労働者の貨銀のみならず、又凡て工業の中に労働し或は商業に従事して居る者の貨銀を減縮する。」

諸君！諸君は労働者が以前五フランを受けて居たのに、穀物が前より廉價であるとの理由に依り最早四フランしか得ないと云ふ事は、労働者にとつて全然無關係の事柄なりとは信じないであらう。

彼の貨銀は利潤に對する關係に於て低落しては居らぬか。又彼の社會的地位は資本家の社會的地位に對してより、悪くなつて居る事は明瞭ではないか。加之

彼は又事實上損失して居る。

穀物價格が依然より高く又貨銀が同様により高かつた間は、麵麩消費に於ける微少の儉約も、彼に對し他の享樂物を得せしむるに充分であつた。併し乍ら麵麩が又其結果貨銀が非常に低落するに至るや否や、彼は他の對象を得る目的の爲めに、麵麩に付いて殆んど何物をも儉約出來ないであらう。英國の労働者は英國の自由貿易論者をして、自分等は彼等の口實と虚偽とに依つて瞞着せられない、之にも拘はらず地主に反對し彼等に與みして居ると云ふのは封建制度の最後の殘物を粉碎する爲めに、又た唯一の敵と争はねばならぬが爲めに起るに過ぎないと云ふ事實を感知せしめて居る。労働者は彼等の計算に於て偽瞞せられない、何となれば地主は工場家に對し復讐するべく十時間條例の通過の爲めに労働者と共同の態度に出た、此十時間條例は後者が三十年來要求したが徒勞に終つたものであつた、そして穀物條例の撤廢後直ちに通過したものである。

經濟學者の會議に於てドクトル・ポウリングは彼のポケットから一の長い表を取り出し、どれだけの數の家畜、燻肉、豚脂、鶏等が、彼の云ふ如く労働者に依り消費せ

られる爲に英國に輸入せられて居るかを示した時不幸にして、彼は同時代に於てマンチエスタ―及び其他の工場都市の労働者が、徐々に始つて來た恐慌に依り鋪石の上に投げられたかを述べることを忘れて居る。

原則として經濟學に於ては、各年の數字よりして一般的法則を誘導する爲めに之を羅列するは決して許されない。吾々は常に六年乃至七年の平均を採用しなければならぬ——其間に於て近世工業が繁盛、停滯、恐慌の諸種段階を經過し又其不可避的循環を完成した所の期間を。

凡ての商品の價格が下落する時、而して是れは自由貿易の必然的歸結であるが私が一フランを以て以前よりは遙かに多くの物を自分に求め得ることには何等の疑が在存しない。而して労働者のフランは各々の他のフランと同様に通用する。之を以て自由貿易は労働者に對し甚だ有利である。唯一の微少なる不都合が之と結び附いて居る、詳言すれば労働者は彼のフランを他の商品と交換する前に、先づ彼の労働の資本に對する交換を實行して居ると云ふ不都合である。若しも彼が此交換に於て常に同一の労働に對し見覺あるフランを受取り、且つ凡

ての他の商品の價格が下落するならば、彼は常に此取引に於て儲けるであらう。困難は、凡ての商品の價格が下落する時、同一の貨幣を以て、より多くの商品が得られると云ふ事を立證する裡に存在しない。

經濟學者は常に労働の價格を、それが他の商品と交換せらるゝ瞬間に於て抽出する併し乍ら彼等は常に労働が資本に對する其交換を實行した瞬間を放擲して顧みない。若しも商品を製成する所の機械を運轉する爲により、少く費用が必要とせらるゝならば、労働者と名附くる所の此機械の維持の爲めに必要なる諸物は同時に、より少く費用するであらう。若しも凡ての商品がより、廉價であるならば自ら亦一の商品である所の労働は、同時に價格に於て下落するであらう、而して吾々が後に見るであらう如く、此商品の労働は比較上、凡ての他の商品よりは甚だ一層低下する。若しも労働者が斯くても常に尙ほ經濟學者を信頼するならば、懸て彼は彼の衣囊に在るフランは溶解し、彼には尙ほ僅か五ス―が、残ることを發見するであらう。

之に對し經濟學者は諸君に向つて言ふであらう。

「扱て實に吾々は自由貿易の支配下に於ては確かにより、少くならぬであらう所の労働者間の競争が極めて迅速に賃銀をして商品の低廉なる價格と一致せしむべき事を認める。併し乍ら他方に於て商品の低廉なる價格は消費を増加せしめるであらう、より大なる消費はより強力なる生産を要求するであらう、それは労働力に對するより強力なる需要を背後に伴ふであらう、而して労働力に對する此より強力なる需要には賃銀の騰貴が随ふであらう。」

此全體の所論は以下の事から進出する、即ち自由貿易は生産力を増加すると云ふ事から。若しも工業が増殖の緒に就き、若しも富が、若しも生産力が、一言以て蔽へば、若しも生産資本が労働に對する需要を増加するならば、則ち労働の價格又隨つて賃銀が騰貴する。労働者にとつて最も有利なる條件は資本の増大である。而して吾々は之を承認しなければならぬ。若しも資本が靜止するならば、工業は常に靜止するのみならず逆進する、而して此場合に於ては労働者が最初の犠牲たるであらう。彼は資本家より前に滅亡するであらう。而して資本が増大する場合、即ち既述の如く労働者にとつて最善の此場合に於ては、彼の運命は如何なるも

のであらうか。彼は矢張り同じく滅亡するであらう。資本の増殖は其中に資本の集積と蓄積とを包容する。資本の集中はより大なる分業とより大なる機械の使用とを結果に有する。より大なる分業は労働者の特殊的技能を破壊する、而してそれが此特殊的技能の代はりに、あらゆる人が行ひ得る所の労働を置く事に依つて、労働者間の競争を増加せしめる。

此競争は分業が労働者をして、單獨にて三人分の労働を爲すの地位に轉ずるに従ひ、それだけ愈々強大となつて行く。機械は同様の結果を更に遙に一層大なる程度に於て作用する。生産資本の増殖は工業的資本家をして絶えず増大する手段を以て働くやうに強制する、又之を以て小工業家を壊滅し、彼等をプロレタリアの中に投げ込む。更に利率は資本の累積する程度に比例し下落するが故に、最早彼等の賃子を以て生活し得ない所の小利息生活者は、身を工業に轉ずるやう強制せられ、斯くしてプロレタリアの數を増加せしめる。

最後に、生産資本が増加すればする程、其需要を知らざる所の市場に對し生産するやうに愈々多く強制せられる。愈々多く生産は需要に前驅し、愈々多く供給は

需要を強奪せんと試みる、是れが故に恐慌は強度と度数に於て増加する。併し乍ら各恐慌は其側からして資本の集中を促進し又プロレタリアを増加する。即ち生産資本が増殖すればする程、愈々多く労働者間の競争は昇騰する、而かも遙かに一層強大なる割合に於て。労働の報酬は凡ての人に對して減少し、労働苦痛は二三の者に對して増加する。

一八二九年にはマンチェスターに於て、三十六工場に傭はれて居た所の一千八十人の紡績工が有つた。一八四一年には僅かに四百四十八人存在したに過ぎない、而して此等の労働者は一八二九年の一千八十八人より五萬三千三百五十三人だけ一層多く操作した。若しも手先労働が生産力と同一の程度に於て増加したのであるならば、労働者の數は一八四八年に於て上騰せなければならぬ筈である。技術的改善は一千百人の労働者をして労働を失はしめて居る。

吾々は豫め經濟學者の答を知つて居る。彼等は、此等の労働を奪はれたる人達は他の職業を發見するであらうと云ふ。ドクトル・ポウリング氏は此議論を經濟學者會議に於て再び講演するを怠らなかつた。併し乍ら彼は又自分自身をば否

定するを怠らずに居なかつた。

一八三八年ポウリング氏は下院に於て倫敦の五萬の織工に關して一場の演説を試みた。彼等は自由貿易論者が彼等に對し期待して居た所の此新たなる職業を發見し得ずして、以前から餓死に瀕しつゝあるのである。

吾々はドクトル・ポウリング氏の此演説の最も顯著なる個所を聞いて見やう。

彼云く、「手織工の貧窮は、容易に習熟せられ且つ各瞬間に於てより、少く高價なる手段に依り代替せられ得る所の各労働の避く可らざる運命である。此場合に於て労働者間に於ける競争は普通外れ大であるが故に、需要の最微の減少すら一の恐慌を誘起する。手織工は或程度迄は人間的生存の最端の限界に置かれて在るを見る。一步前進すれば、生存は不可能となる。最少の震動も、彼等をして罪惡の軌路に促進せしむるに充分である。手先労働を愈々多く廢止する所の技術の進歩は、過渡の期間に於て誤りなく多くの一時的苦痛を伴ふ。國民的厚生は唯二三の個人的苦難の價格に依つて購はれる。人は唯落伍者を犠牲にして工業の中に邁進する、而して凡ての發見の中、蒸気機械は、最も多く手織工の上に重課したる

發見である。既に手に依つて労働せられる所の多くの物品の中、織工は闘争外に置かれて居る、併し乍ら彼は將來に亘つても亦、今日尙ほ手を以て製成せらるゝ所の多くの物品に於て敗北するであらう。」

彼は他の個所に於て云く「私は、東印度並に東印度會社の總督からの一通信を手に持つて居る。此通信はダツカ州の織工に關係して居る。總督は彼の書簡に於て云く、數年前東印度會社は、内地の手織機に依り作出せられた所の六百萬乃至八百萬個のキャラコの注文を受けた。需要は絶えず低落し百萬個に減縮されてしまつた。目下に於ては需要は殆んど中絶して居る。一八〇〇年に於て北亞米利加は印度から約八十萬個のキャラコを輸入した。一八三〇年に於ては四千個に足るか足らぬか位を輸入した。最後に一八〇〇年には百萬個のキャラコを葡萄牙へ積出した。一八三〇年には葡萄牙は最早二萬個以上を收めない」と。

「印度の織工の困窮に關する報告は恐るべきものである、而して此困窮の原因は何であつたか。」

「英國生産物の市場への出現、蒸汽織機に依る製品の作出是れてある。」

「織工の極めて大多數が窮乏に陥つて居る。残りの者は他の職業殊に農事的職業に移轉して居る。彼の職業を替へ得ないと云ふ事は一の死刑宣告に同然である。而して目下ダツカ州は英國の撚絲並に織物を以て横溢して居る。全世界に於て織地の美麗と堅牢とに據り有名なるダツカのモスリンも同じく英國機械の競争の結果消滅してしまつた。産業の全歴史に於て、恐らく斯くの如き方法を以て東印度の全階級が忍ばねばならなかつた所のものと似寄つた苦痛を發見するは困難たるであらう。」

ドクトル・ポウリング氏の演説は、其中に叙述せられた事實は正當であり且つ依つて以て彼が之を虚飾せんと試みたる所の言辭が、全然凡ての自由貿易主義的演説に特有なる偽善の性質を帯びて居るそれだけに、一層注意に價ひすべきものである。彼は労働者を、より少く高價なる生産要具に依つて置き換へねばならぬ所の生産要具として述べて居る。彼は恰かも彼が語る所の労働の裡に、一の全然例外的なる労働を見、又織工を根絶した所の機械の裡に、一の同じく例外的なる機械を見たかの如く語つて居る。彼は、一日も機業の運命に遭遇せられ得ない所の勞

働の存在せざることを忘れて居る。

「機械に於ける各完成の不斷的目的及び傾向は實に、完全に人間的労働を不必要のものとなし、或は成年男子の労働者の労働の代はりに女子及び幼年者の労働を置き、又は熟練した手先労働者の代はりに簡單なる助手を置く事に依つて、人間的労働の價格を減少する事實の裡に存するのである。水綫紡績、即ち英語のスロースル、ミル⁽⁵⁾の多數に於ては、紡絲作業は單に六歳及びそれ以下の女兒に依つて見られる。手紡機に代る自動紡績機の實施は其結果として、紡織工の多數の解雇並に幼年者と若年者の引續雇入を有して居る。」

情熱的自由貿易論者、ドクトルユニアの此等の言葉は、ドクトルボーリング氏の告白を補足するに適當して居る。ポウリング氏は二三の個人的苦痛に就いて語り又同時に此等の個人的苦痛は全階級を滅亡せしむると言つて居る。彼は過渡の時期に於ける一時的苦痛に就いて語り又同時に彼は、過渡の此苦痛は多數者にとつては生から死への轉移であり、而して自餘の者にとつてはより善き地位からより惡き地位への轉移なる事を胡魔化さない。彼が後に、此等労働者の苦痛は工

業の進歩とは不分離のものであり、且つ國民的厚生に必要ななりと言ふ時、即ち彼は簡單にブルジョア階級の厚生は必然的條件として労働者階級の苦痛を有すると云ふ事を云つて居るのである。

ポウリング氏が、其處に死滅しつゝある所の労働者に向つて與ふる全慰藉は、又一般に自由貿易論者が樹立する所の代償の全教義は、以下の事から出て居る。

汝等死滅しつゝある數千人の労働者よ、落膽する勿れ。汝等は凡ての安息の裡に死ぬ事が出来る。汝等の階級は滅亡しないであらう。汝等の階級は、資本がそれを全滅さすを恐れる要なくして、死刑を行ひ得る程、常に充分澤山である。尙又資本が彼等を新たに搾取し得る爲めに搾取物質、即ち労働者を維持するやう、資本が考慮を廻らさなかつたならば、資本は如何して一の有效的使用を發見するであらうか。

併し乍ら何故に、自由貿易の實現が労働者階級の地位に對し如何なる影響を及ぼすべきか、と云ふ事が先づ解決すべき問題であるのか。ケネーからリカルド迄の經濟學者が作つた所の凡ての法則は、貿易の自由を今迄尙狭少ならしむる境柵

は、最早存在しないと云ふ前提の上に建設せられたのである。此等の法則は、自由貿易が實現せられる程度に従つて自己を鞏固ならしめる。此等の法則の第一法則は、競争は各商品の価格を其生産費の最少限度に減縮すると云つて居る。之を以て賃銀最少限度は労働の自然価格である。而して賃銀最少限度とは何であるか。労働者の維持に必要な可らざる対象を生産する爲めに、彼をして漸く生計し又彼の階級を必要なだけ蕃殖するの狀態に置く爲めに要する所の其物自體である。

是れが故に吾々が労働者は幾か此賃銀最少限度を有するであらうと信じないとするならば、彼が此賃銀最少限度を常に有するであらう、とは尙一層少く信ずるのである。

否、此法則に従へば労働者階級は時折より幸福になるであらう。それは時に最少限度より多く有するであらう併し乍ら此より多くは單に労働者階級が産業的停滯の期間の間に最少限度よりより少く有するであらう所のものゝ平均に過ぎない。是れは次の事を云はんと欲する、即ち若しも一定の周期的に回歸する

時期に於て、即ち産業が順次繁盛、過剰生産、停滯、恐慌の段階を馳驅する事に依つてそれが描く所の各循環に於て、労働者階級が必要なるもの以上及びそれ以下に於て有した所の凡てを通算するならば、労働者階級は全體に於て最少限度より以上も或はそれ以下も有して居らぬ事を見るであらう、換言すれば労働者は、それが幾何かの窮乏、幾何かの苦痛を経験し、幾何かの死屍を産業の戰場に遺棄した後に、階級として維持せられる。併し乍らそれはどうしたと云ふのか。階級は存続する且つ存続する以上に階級は増加して居る。

けれども是れが凡てでない。産業の進歩はより、少く高價なる生存資料を提供する。即ち火酒は麥酒、木綿は羊毛と麻布、馬鈴薯は麵麩の代はりを勤めて居る。

世人は常に労働をより、廉價にして且つより、賤劣なる対象を以て養ふべき手段を發見するが故に、賃銀最少限度は不斷に低落して居る。此賃銀が最初人間をして生きんが爲めに労働せしめたる時、究極に於ても亦尙ほ賃銀は人間をして生活せしむる、併し乍ら一の機械の生活を。彼の生存は一の簡單なる生産力の價値とは少くも變らない價値を有する、又資本家は彼を其程度に取扱ふのである。商品

なる労働の賃銀最少限度の此法則は、經濟學者の前提即ち自由貿易は一の真理である事が一の事實となる程度に従つて實現する。

斯くては二個の事柄の中一でなければならぬ、即ち或は人が自由貿易の前提の上に基礎付けられたる經濟學全體を肯定せなければならぬか、或は労働者は此自由貿易の下に於ては經濟法則の苛刻全體に依つて遭遇せられることを白状せなければならぬか、孰れかである。

之を總括するに、然らば今日の社會狀態の下に於て自由貿易とは如何なるものであるかと云ふことである。資本の自由是れてある。若しも汝等が、尙ほ資本の自由發達を狭隘ならしむる所の二三の國民的境柵を破壊したとするならば、則ち汝等は全く資本の活動に桎梏を解いた譯である。汝等が賃銀労働の資本に對する關係を存續せしむる限り、商品の交換は常に最も有利なる條件の下に於て行はるゝであらう、搾取する所の一の階級と搾取せらるゝ所の一の階級とが存在するであらう。より利益ある資本の使用は産業的資本家と賃銀労働者との間の對立を消滅せしむるであらう、と想像する所の自由貿易論者の虛託を理解するは、實際

世人にとつて困難となる。そは全然反對である。唯一の結果は、此等兩階級の對立は更に一層明瞭に白日の下に出現する事であらう。

最早何等穀物條例、地方團體關稅並に國家關稅の存在せざる、一言を以て蔽へば労働者が今日尙ほ彼の窮乏的地位の原因と看做し得る凡ての附帶事情が完全に消滅して居る瞬間を假定して見よ、然らば世人は彼の眼から眞實の敵を蔽ひ隠した所の多くの帷を一様に引き裂くであらう。

解放せられたる資本は關稅境柵に依り重課せられたる資本と同じく、彼を奴隷となすを見るであらう。

諸君。諸君は自由と云ふ抽象的な言葉に依り幻惑されてはならない。何人の自由であるか。それは各個個人が他の個人に對する自由を意味しない。それは資本が労働者を壓迫する爲めに享受する所の自由を意味するのである。

諸君は此自由の思想自體は自由競争に基因する一狀態の生産物なるに拘はらず、何の爲めに尙ほ此自由の思想に依つて、自由競争を許可せんと欲するのか。

吾々は自由貿易が同一國民の諸種階級の間、に於て喚起する所の博愛は如何な

るものであるかを示して来た。自由貿易が地球の諸種國民の間に於て樹立するであらう所の博愛は全くより博愛である事はない、其經濟的形態に於ける搾取を一般的博愛の名稱を以て指稱するは、ブルジョアの裡に發生し得る所の一の思想である。自由貿易が一國の内部に於て現出する所の凡ての破壊的現象は、更に一層尨大なる範圍に於て世界市場の上に繰返される。吾々は是れ以上自由貿易論者が此對照に關し演ずる所の詭辯に凝滞するを必要としない、而して夫等は吾々の三人の受賞者、ホープ、モーゼ、グレッグ氏の議論と恰度同じ位の價值しかない。人は吾々に向つて例へば、自由貿易は國際的分業を喚起し又之を以て各國に對し其自然的利益に對し調和する生産を呈示するであらう、と云ふ。

諸君。諸君は珈琲及び砂糖の生産を西印度の自然的運命であると恐らく信ずるであらう。

二世紀前には貿易に就き何等關係する所なき自然は、其處に於て珈琲の木も或は甘藜をも植ゑて居なかつた。而して諸君が其處に珈琲も或は砂糖をも發見しない迄には、恐らく半世紀も繼續しなかつたであらう。何となれば既に東印度は

低廉なる生産に依つて、西印度の此名目だけな自然的運命に對し鬭争を勝利の裡に行つたからである。

而して恰度此西印度は其自然的富を有し乍ら、最初から手を以て織るやうに運命附けられて居つた所のダツカの織工と一樣に、英國にとつて困難なる負擔である。

更に一の附帶事情は此場合決して看過するを許されない、即ち詳言すれば凡てのものが獨占となつて居る如く、今日に於ても尙ほ凡ての他の産業部門を支配し又之を特に優秀に經營する國民に對し世界市場に於ける支配を保證する所の二三の産業部門が存在する事である。斯くて國際的交通に於ては唯一つ木綿が、凡ての他の衣裝材料の爲めに使用せらるゝ原料を總計したよりも遙かに一層大なる意義を有して居る。自由貿易論者が、各産業部門に於ける二三の十八番に就いて論證し、之を産業が最も發達して居る國々に於て最も低廉に生産せられる所の日常使用の生産物と比較し秤量するは、實に嗤ふべき事である。

若しも自由貿易論者が、一國は他國を犠牲にして裕福になり得る事を理解出来

ない時、吾々は之に就いて敢て驚くの要はない、何となれば同一の紳士達は一國の範囲内に於て一階級は他の階級を犠牲にして裕福になり得る事を、更に一層少く理解せんと欲するからである。

併し乍ら諸君、諸君は吾々が貿易自由を批判する時、吾々は保護關稅制度を辯護する意圖を有すると信ずる勿れ。

吾々は絶對主義の味方たる事なくして、立憲主義に抗爭し得る。

要するに保護關稅制度は、一國に於て大工業を育成する、換言すれば其國を世界市場に依存せしむる一手段に過ぎない、而して世界市場に依存する瞬間からして既に多かれ少なかれ自由貿易に依存するものである。且つ又保護關稅制度は一國の内部に於ける自由競争を發達せしむる。是れが故に吾々は、例へば獨逸に於けるが如くブルジョア階級として權威を得始むる諸國に於ては、彼等が保護關稅を得る爲めに大なる努力を爲す事を目撃する。

此保護關稅はブルジョア階級にとつて封建制度及び絶對的家族權力に對する武器である、保護關稅は彼等にとつて、彼等の力を集中し又一國身體の内部に於け

る自由貿易を實現する一の手段である。

併し乍ら大體に於て今日保護關稅制度は保守的に作用する、然るに自由貿易制度は破壞的に作用する。それは以前の國民性を鎔解し、プロレタリアとブルジョア階級との對立を尖端に追驅するものである。一言を以てすれば、貿易自由の制度は社會的革命を促進する。而して唯此革命的意義に於て、諸君、私は自由貿易に賛成する者である。

マルクス全集

自由貿易論終

五〇二

譯 註

價 値 價 格 及 利 潤

底本としては Karl Marx, "Value, Price and Profit" edited by Eleanor Marx Aveling, Chicago, 1908 を用ゐた。尙ほ獨逸語では, E. R. Bernstein の譯した "Lohn, Preis und Profit" を参照した。河上肇譯「勞賃價格及び利潤」大正十年再版に裨益せらるる所甚大である。

(原註は通し括弧にしなかつた爲め、混同を避くる方法として譯本頁を記入して置いた。)

譯本頁

- 311 (1) 1865 九月開催せられたる General International Congress を意味する。
- 311 (2) John Weston は International Working Men Association (I. W. M. A.) から派遣せられたる總會への代表委員。彼は「オウエン派の社會主義者である、或は恐らくより善くば、後期オウエン主義者であり、交換銀行、勞働貨幣等の狂信者である。」(ベルンシュタイン獨譯序文)
- 317 (1) 獨譯表題, Nationalprodukt und Lohnanteil(國民生産物と賃銀得分)
- 327 (2) maximian Robespierre; "Maximum Law"
- 327 (3) Society for the Advancement of Science
- 327 (4) Marx が茲に於て William Newmarch を意味することは明かである。Marx は彼を『資本論』にても亦正當に引用して居る。Francis Newmann は Newmann 將軍と兄弟であり、立派な哲學者にして優秀な經濟學者であつた。(獨譯脚註)
- 327 (5) Thomas Tooke; History of Prices.
- 333 (1) 獨譯表題 Lohnbewegung und geldbewegung (賃銀變動と貨幣變動)
- 341 (1) 獨譯表題 Von Maszstab der Löhne (賃銀の標準に就いて)
- 350 (1) 河上博士譯は此部分より始る。

獨譯表題 Vom Wert und vom Preis(價值及び價格に就いて)

- 350 (2) effleurer la question.
355 (3) Benjamin Franklin; "A Modest Enquiry into the Nature and Necessity of a Paper Currency."
357 (4) 獨譯には Arbeitsmittel(労働手形)とあり。
361 (5) 當時では英國だけが金本位制を採つて居たのだ。(河上博士譯註)
362 (6) Natural price
362 (7) prix necessaire
363 (8) 此一句河上博士譯文に缺く
366 (1) 獨譯も Arbeitskraft 労働力となつて居る。
368 (2) Thomas Hobbes; "Leviathan."
374 (1) the owner pro tem
395 (2) On Trade
395 (3) working house
395 (4) Houses of Terror
395 (5) Foreign Wealth

河上博士譯文には「外國行きの富」とある

- 398 (6) チャガノートは印度のオリッサに於ける偶像である。時折高い山車に載せて町中を引張り廻られる。其車輪に轆き殺されることが特に神意に叶ふ所以だとせられて居る。(獨譯脚註)
404 (1) 革命的佛蘭西及びボナバルトに對する聯合戦(獨譯註)。

賃銀労働及資本

- 417 (1) 『賃銀労働及資本』の底本に關し福田徳三博士と河上肇博

と士との間に有名な論争がある。河上博士譯マルクス『賃銀労働資本』の改譯序言は此論戦の全般を窺知せしむるに充分である。私は夫等のことゝは全然無關係に Reclam 版の Lohnarbeit und Kapital, zur Indenfrage und andere Schriften aus der Feühzeit von Karl Marx, ausgewählt und eingeleitet von Ernst Drahn を用ひ、本書中の『賃銀労働及資本』を採つたのである。是れが Engels の修正本でない點に於いて、河上博士邦譯と對比せらるれば幸である。尙ほ J. L. Joynes の英譯 "Wage, Labor and Capital" を参照した。

- 419 (2) Engels 本には des sogenannten Bürgerstandes (所謂ブルジョア階級の) とあり。
419 (3) 此處迄河上博士邦譯及び Joynes 英譯に無し。
429 (4) A grain sand is high when compared with a mountain (Joynes. S. 22)となつて居る。
440 (5) Lot は三十分の一磅或は三十二分の一磅である。
440 (6) Zentner は百磅又は五十キログラム。
442 (7) Groschen は十二ペンニツヒの銀貨。
448 (8) 河上博士(七一頁)は「實質上の勞賃をも眼中に置かなければならぬのである」と積極的に云ふて居られる。
449 (9) 英譯には the share of capital

自由貿易問題に關する演説

- 471 (1) 1832 年、Corn Law は撤廢せらる。
472 (2) Gouvernement à bon Marche 1848 年佛蘭西大革命後ブルジョアが彼等の旗幟に掲げたる標語である。マルクス著『佛蘭西に於ける階級闘争』Vorwärts .p. 26 参照。
472 (3) Bowring, Bright 等は穀物條例廢止同盟の主唱者である。

其他に Cobden 等が算へられる。

185 (4) Sou ースー銅貨(五サンチームに當る)。

192 (5) throstle mill

大正十二年五月二十五日印刷
大正十二年五月三十日發行



發行所

東京神田今川小路
大阪南區三休橋南

株式會社
大 鐙 閣

振替口座 東京三三六一八番
大阪二七一五五番

マルクス全集第十冊

經濟學批判定價六圓九十錢

翻譯者	佐野學
翻譯者	安倍浩
發行者	株式會社 大鐙閣
發行者	東京市神田區今川小路一丁目一番地
印刷者	東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷者	島連太郎
印刷所	東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷所	三秀舍

399
10

終